

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書  
博物館と学校をつなぐ学びの実践

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書  
博物館と学校をつなぐ学びの実践

# ごあいさつ

長崎歴史文化博物館の教育活動を様々な側面から取り上げ、実践事例をまとめたものが教育実践報告書です。これまで「出会いが生み出す学びのレシピ」(2013年)、「地域との連携ーボランティア」(2014年)、「アウトリーチ活動」(2015年)、「市民と連携した教育実践」(2016年)、「長崎の伝統工芸を活用した教育実践」(2017年)の5冊の報告書を発行してきました。視点は違いますが、すべて博物館で行っている広い意味での教育活動であると考えています。本報告書は学校と連携した授業の実践事例をまとめたもので6冊目となります。

学校との連携についてまとめた報告書は過去2回発行していますが、本報告書では過去3年間の間に実施した比較的最近の事例を収録しています。開館して10数年が経過し、経験を重ねるごとに、学校と連携した教育プログラムや授業の内容も充実してきています。これもひとえに、博物館を優れた教育の場として利用し続けてくださっている学校の先生たちの理解と協力の賜物であると感謝しています。

子どもたちに素晴らしい学習の機会を提供できるよう、これからも先生方のご意見や助言に真摯に耳を傾けながら、より良い教育プログラムの開発に取り組んでいきたいと思っております。同じ子どもたちの教育を担う機関として、本報告書が博物館と学校をつなぐ一助になれば幸いです。

2018年3月

長崎歴史文化博物館  
館長代理 野間 誠二

(1) 来館



(2) 町あるき



(3) 出張授業



(4) 移動博物館



# 目次

博物館と学校をつなぐ学びの可能性	7
<b>1. 博物館でおこなうプログラム</b>	
博物館でおこなうプログラムについて	10
1) 来館	12
2) 職場体験	28
<b>2. 学校でおこなうプログラム</b>	
学校でおこなうプログラムについて	32
1) 出張授業	34
2) 移動博物館	41
3) 出張授業と移動博物館	51
4) 貸出教材	54
<b>3. 学校と博物館でおこなうプログラム</b>	
学校と博物館でおこなうプログラムについて	60
1) 出張授業と来館	62
2) 移動博物館と来館	70
3) 複数回にわたっての連携	74
<b>4. 寄稿</b>	
・「長崎の宝」発見・発信学習推進事業について	
長崎市教育委員会学校教育課 荒木 俊明	88
・小学校からみた博物館との連携について	
佐世保市立日野小学校 教諭 田中 英明	91
・中学校からみた博物館との連携について	
諫早市立真城中学校 教諭 梅崎小百合	93
・特別支援学校からみた長崎歴史文化博物館との連携について	
長崎県立佐世保特別支援学校高等部 上五島分教室 主幹教諭 河村 徳明	95
・博学連携の道のりを振り返る	
長崎市立川原小学校 教諭 加藤 尊城	97
<b>5. 参考資料</b>	



# 博物館と学校をつなぐ学びの可能性

学芸グループリーダー 竹内 有理

年間を通じて長崎歴史文化博物館には県内外より多くの学校団体が訪れる。平和学習や歴史学習を目的にした修学旅行が多い長崎市にある博物館の特徴ともいえるかもしれない。最も数の多い小学校に限ってみると、県外では年間約400校から500校、県内では約120校の小学校が博物館を訪れている。長崎県内にある小学校の数は平成28年度の統計によると323校なので、実際に博物館を訪れている学校は、県内にある小学校全体のわずか3分の1にすぎないということでもある。

このことは、学校の授業や行事の一環として博物館を利用することが決して日常的にはなっていないことを示している。これは長崎に限らず全国的にいえることかもしれないが、博物館の教育的意義や学習効果について、十分に社会的認知を得られていないことを表しているようにも思う。

そこで当博物館では、まずは、学校の教師に博物館の面白さや素晴らしさを知ってもらうことが必要であると考え、教師と情報交換や意見交換を行う場として開館2年目の平成18年度に「博物館利用検討委員会」を立ち上げた。小中学校の6人の教師が委員として参加し、当館の教育担当学芸員と交流する場を作った。その後、その活動は平成20年度より「パートナーズプログラム」として継承され、活動を発展させ、現在に続いている。当初は長崎市内の学校の教師がほとんどであったが、教員の他市町への異動とともに、長崎市内のみならず、佐世保市、諫早市、長与町など県央、県北地域の学校にも広がってきており、平成28年度は小中高校の教員合わせて22名が参加している。

具体的な活動としては、年に6回程度研修会を開催し、展示の見学や当館の教育プログラムについての意見交換、博物館を使った授業の実践報告などを行っている。本報告書にパートナーズプログラムに参加している教師が担当した授業実践の一部を掲載しているが、その内容は年を重ねるにつれ、充実度を増しているように思う。一過性の博物館利用とは違い、事前に博物館の教育担当学芸員と綿密に打合せをした上で、授業計画を立てているため、子どもたちにとってもより学習効果の高い授業の実現が可能になっているのではないかとと思われる。博物館が提供できるサービスやプログラム、そして担当する職員について、教師自身もよく理解しているからこそできるものなのかもしれない。

学校向けに行っている教育プログラムとしては、来館時の対応だけでなく、職員が学校に出向いて行う出張授業や移動博物館などのアウトリーチ活動もある。博物館と連携してこれらのプログラムを利用した教師は、学校の授業と違い、「本物」に触れられること、先生以外の「専門家」に出会えることが子どもたちの心に大きく響く体験になると指摘する。ふだん学校では味わうことのできない非日常的な体験や感動が子どもの好奇心や学びを促すことにつながっていると言う。またこれらの体験や感動は、移動博物館や出張授業よりも、博物館で行った場合の方がより多くの「本物」に囲まれている分だけ効果が大きいとの意見もあった。

博物館を使った授業を取り入れるか否かは、教師自身が博物館の魅力を理解しているかどうかにより大きく左右される。決められたカリキュラムや授業時間数の中で、博物館を組み込むことは決して容易なことではないと思われるが、授業の目的に合わせた様々な博物館の使い方を博物館側が提供することができれば、学校にとっても選択の幅が広がり、博物館利用の可能性も高まるであろう。パートナーズプログラムの活動を通して、実際に様々な博物館の利用のしかたが生まれてきている。これは博物館職員と教師との間の対話なくしてはできないことであり、実際に授業を行った後の子



どもたちの反応や教師の評価を私たち職員が直に聴き、知ることができる点もプログラムの改善に大きく役立っている。博物館職員と教師のどちらか一方だけの考えで授業を組み立てることはできない。両者が一緒に考えるからこそ、より効果的な学習効果が見込まれる授業をつくることができるのではないだろうか。

先にも触れたように、学校による博物館利用が少ない背景には、博物館職員と学校の教師が顔を合わせる場がほとんどなかったことが要因として挙げられる。両者は子どもたちの教育を担う共通の役割を持っていながら、それぞれの世界の中だけで議論され、両者が交わることはほとんどなかった。

現在、学校現場での教育方法に対する見直しが行われ、子どもたちのより主体的で能動的な学びが重視されるなかで、博物館の特徴を生かした学習は、それらの課題に貢献できる可能性を大いに秘めているのではないかと思う。

本報告書では、学校と連携した授業実践を3つの項目に分けて紹介している。一つは、最も多い事例になるが、「博物館でおこなうプログラム」として博物館に来館した学校に対して行っている授業の事例である。授業の目的に合わせて博物館職員とボランティアで対応しているが、展示室での説明だけでなく、博物館の外に出て関連した内容の場所や建物を見学する町めぐりを組み合わせたプログラム、そして職場体験の事例を紹介している。二つめは、「学校でおこなうプログラム」として移動博物館や出張授業など博物館職員が学校に行き行う授業や当館の収蔵資料を用いた貸出教材を使って教師自らが行った授業の事例を紹介している。三つめは、「学校と博物館でおこなうプログラム」で、博物館の見学と学校で行う移動博物館や出張授業を組み合わせた授業の事例を紹介している。「博物館でおこなうプログラム」と「学校でおこなうプログラム」では、近年利用が増えてきている特別支援学校の授業の事例を紹介している。特別支援学校の生徒に対するプログラムについては、まだまだ発展途上の段階であり、教師や専門家と相談しながら内容の充実に努めていきたいと考えている。

本報告書の様々な授業実践の事例が博物館の使い方を模索している教師、また学校との連携を強化したいと考えている博物館にとって何かヒントになるものがあれば幸いである。

# 1. 博物館でおこなうプログラム

---

博物館でおこなうプログラムについて	10
1) 来館	
・長崎市立上長崎小学校	12
・長崎市立西城山小学校	15
・長崎市立桜馬場中学校	19
・長崎大学教育学部附属特別支援学校（授業案）	24
・長崎県立虹が丘特別支援学校（授業案）	26
2) 職場体験	
・長崎精道中学校	28

# 博物館でおこなうプログラムについて

学芸グループ 出口 幹子

## 1. はじめに

長崎歴史文化博物館では、学校団体に博物館を見学する時に利用できる活動を「博物館でおこなうプログラム」として提案している。具体的には①ガイダンスや展示解説、講話などの「展示を見て学ぶ」、②職場体験や職場見学といったキャリア教育、③版画体験や工芸品の製作体験ができる「ものづくり」の3つの活動が軸となっている。

前菜やメイン、デザートなどから料理を選択するように、それぞれの学校の来館目的や人数、滞在時間にあわせて、プログラムを自由に組み合わせて、使って欲しいと考えている。

## 2. 博物館で行うプログラムについて

各プログラムの詳細は下記のとおりである。(1)時間の目安 (2)定員 (3)対象 (4)体験料

### (1) 展示を見て学ぶ

#### ■ガイダンス

展示見学の前に、はじめて博物館を訪れる子供にもわかりやすく、見どころや見学のマナーについてお話しする。

(1) 5～15分程度 (2) 140名まで (3) 小学生～高校生

#### ■展示解説

研究員やボランティアスタッフが常設展示室を案内する。ご希望に応じて、特定のテーマでの解説も可能。

(1) 60分程度 (2) 1グループ20名程度まで ※人数が多い場合は応相談

(3) 小学生～高校生

#### ■講話・聞き取り調査

所蔵資料を紹介しながら、学習目的に沿ったテーマでお話しする。また当館の展示に関係した長崎の歴史や文化についての質疑応答もおこなう。

(1) 30分～60分程度 (2) 140名まで (3) 小学生～高校生

### (2) キャリア教育

#### ■職場体験

接客や広報、教育普及イベントの準備などを中心に、博物館の仕事を体験する。

(1) 休館日を除いて最長3日間／9：00～16：00

(2) 1校2名まで (3) 長崎県内の中学生

#### ■職場見学

博物館の役割や仕事の内容について、研究員が紹介する。ご希望に応じて、普段は入ることのできないバックヤードの見学も可能である。

(1) 60分程度 (2) 45名程度 (3) 小学生～高校生

### (3) ものづくり

#### ■長崎版画体験

江戸時代、長崎のお土産品として人気を博した「長崎版画」をもとにした版画の体験である。ステンシルに似た「合羽摺り」の技法で、低学年から簡単に制作することが可能である。

(1)60分程度 (2)1回25名程度 (3)小学生以上 (4)100円

#### ■拓本体験

拓本とは、紙や墨を使い瓦や石に刻まれた模様などをはっきりと写しとることである。長崎奉行所跡から見つかった昔の瓦で拓本を体験することができる。

(1)60分程度 (2)1回25名程度 (3)小学生以上 (4)100円

このほか、博物館に工房を構えるべっ甲細工や佐世保独楽の体験や、長崎刺繍・現川焼・ステンドグラス・長崎の染・銀細工の5つの塾の塾生（ボランティア）が活動をサポートする伝統工芸体験工房での体験も日替わりで実施している。スケジュールはホームページまたはパンフレットに掲載している。

## 3. 利用状況について

来館時、プログラムの利用数が最も多いのは長崎県内の小学校であり、平成28年度は来館数111校中55校（複数利用も含む）が利用している。ガイダンスや展示室案内、聞き取り調査などを単独で利用するケースが多いが、展示室案内と版画体験など複数のプログラムを組み合わせる活動をおこなう学校も増加傾向にある。

## 4. まとめ

今回は博学連携事業「協力校・パートナーズプログラム」参加者の教員より報告された実践の中から3校の実践を掲載した。特に長崎市立西城山小学校では、先生の発案で職員やボランティアが講師となる「町あそび」と展示案内を組合わせた活動をおこなったことが特徴的である。さらに特別支援学校での実践案として、当館での教員研修の中で作成された2つの計画書を後半に掲載した。また長崎精道中学校には、近年利用が増えている中学校の職場体験について新たに書き起こしていただいた。

博物館ではさまざまな方法で見学や体験がおこなわれている。博物館と学校は普段は互いに異なる教育の場を身をおいているが、博物館での活動を通して子どもたちの学習機会を最大限活かすことができるよう、今後も先生方と協働して活動をおこなっていききたい。

# 1) 来館

長崎市立上長崎小学校

2014年度

3年生	教科：総合的な学習	単元名：大すき長崎！うきうきたんけん隊	9月～12月	20時間
実践校：長崎市立上長崎小学校		授業担当者：東 学 ， 才津 真里絵		
目	○ 長崎市の公共施設について興味を持ち、年間行事を調べたり、それぞれの施設で見学や体験活動をしたりすることを通して、郷土のよさに気づくことができる。			
標	○ 公共施設を利用することを通して、利用する際のマナーを身に付けるとともに、公共の施設を使うことのよさに気づき、進んで学習や生活に生かそうとする態度を育てる。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○ 「長崎」という名前のつく行事・建物などについて知る。	2	○ 「長崎」についてウェビングを行い、年中行事や建物について知る。	道徳 「みんなのもの」 「正しい言葉遣い」  社会科 ◎調べたことを新聞や図表にまとめる方法を社会科で学ぶ。	
○ おくんちについて調べる。	3	○ 本年度のおくんちの踊り町や出し物について、新聞やホームページ等で情報を集める。		
○ 施設見学の計画を立てる。	2	○ おくんちの展示がある「長崎歴史文化博物館」の見学に行くことを知らせ、見学の計画を立てる。		
○ 施設見学のマナーについて学習する。	1	○ 施設見学のマナーを考えさせ、ワークシートに決めたことを書かせる。		
○ 「長崎歴史文化博物館」を見学する。	4	○ おくんちの資料を中心に、昔の長崎や上長崎地区のことについて調べ、どんな施設か見学を通して知る。		
○ 博物館について分かったことをまとめる。	6	○ 新聞にまとめ、お互いに読み合う。		
○ 発表会をする。	2	○ 調べたことをまとめた新聞を掲示したり、保護者を招いて「おくんちクイズ」を出したりする。		
評 価 規 準	(1) それぞれの施設を知ることを通して、自分の課題を見つけることができたか。 <div style="text-align: right;">【課題設定・解決の能力】</div> (2) 自分の課題を解決するのに必要な資料を見学やパンフレット、インターネットを使い探すことができたか。 <div style="text-align: right;">【情報活用能力】</div> (3) 施設を見学することで、興味を持ったことを調べ、新聞等にまとめようとしているか。 <div style="text-align: right;">【学習の主体性・創造的態度】</div>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



児童の質問に答えていただく様子



くんにまつわることについて説明していただく様子



真剣にメモをとる様子

- 歴史文化博物館における児童のメモから  
教師が用意した質問事項以外に、歴史文化博物館において調べたり、質問したりした内容を多くメモしていた。また、とても分かりやすい言葉でメモをしていることから、理解しながらメモをしていると考える。

- 発表会における準備について  
現在、発表会の準備を進めている。児童は、歴史文化博物館で学習した内容について、メモを見ながら思いだし、それを絵や劇で表そうとしている。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 歴史文化博物館において、実物に触れたり、職員の皆様に分かりやすく説明していただいたりしたことから、児童の意欲が持続しているし、絵や劇で表すことが可能であると考えます。
- 発表をするときに、歴史文化博物館の職員の方にも参観して、児童に指導をしていただくと、広がりのある授業になるのではないかと思います。
- 本単元を学習することで、4年生の社会科で行う「長崎市の年中行事」の学習を補完したり、6年生の総合的な学習の時間で行う「長崎市の学習」に発展させたりすることが可能である。実際、4年生で社会科学習を行ったとき、おくんに興味をもつ児童が多かった。

## 長崎市立上長崎小学校の対応

(2014年10月20日 来館)

学芸グループ 古豊裕次郎

上長崎小学校は、長崎歴史文化博物館の近くにある小学校で、毎年10月7～9日に行われる長崎くんち前後の9月末または10月上旬に、長崎市の社会科副読本「新しいのびゆく長崎」の行事やお祭り調べとして来館される。対象は小学3年生で、長崎くんちについて事前に質問事項をいただき、それをもとに解説を行っている。

2014年は、3年生49名を2グループに分けて、昔実際に長崎くんちで使用されていた傘鉾や衣装、くんち料理など展示資料を見ながら案内した。その後自由に見学してもらい、事前にいただいた質問や見学してさらに気になることなど、くんちの由来や演し物<sup>たもの</sup>などについて答えた。歴史を学習する前なので、展示資料の解説もくんちに関することを中心に行い、加えて公共施設でのマナーや博物館を見学する際のルールなどについても説明した。上長崎小学校は長崎くんちに参加する町の近くにあり、くんちに興味がある子が多く、中にはくんちに参加した子もいたので、ほとんどの子ども達が集中して話を聞き積極的に質問があった。その年々で長崎くんちの演し物も変わるので、子ども達の質問も毎年違い楽しみである。



くんち期間中、玄関に飾られる幔幕



くんち料理



くんちのときに飾られるお菓子や果物

6年生	教科：社会 総合	単元名：長崎の歴史を知ろう 世界の人びととわたしたち	4月～3月	25時間
実践校：長崎市立西城山小学校		授業担当者：深堀 昭三		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書で学ぶ日本の歴史に関わる長崎の歴史もあることを知らせる。</li> <li>・郷土に対する愛着や生まれた町に誇りを持たせる。</li> <li>・博物館や現地での体験見学を通して郷土の歴史に関心を持たせる。</li> <li>・学芸員さんやガイドさんとの交流を通して、いろいろな職業や世界があることを知るとともに、学びたいという意欲、あこがれを持たせる。</li> </ul>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1「長崎の歴史を学ぼう」 の学習計画を立てよう ※5月 総合	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の学習で長崎に関連のある時代を探させる</li> <li>・総合の時間にさるくを実施することで自分たちの町を学習することを理解させる。</li> </ul>	インターネット活用  長崎市2014制作DVD (明治産業遺産)	
2現地見学さるく計画を立てよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの中心点を各自持たせる。</li> <li>・4コースに分かれて実施 博物館～桜馬場コース 博物館～シーボルト記念館コース 博物館～崇福寺、唐人屋敷コース 博物館～グラバー園コース</li> </ul>		
3自分の興味ある分野について調べよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学に行く前準備として選択したコースに関する事柄を調べ、まとめさせる。</li> </ul>		
4博物館さるくをしよう	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生48名を4グループに分け、コースを設定しガイドさんに案内してもらう。 (良く聞き、尋ね、真剣に楽しむ)</li> <li>・それぞれの見学グループごとに記録する。</li> </ul>		
5さるくをふりかえろう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの学習体験をグループ、個人でまとめさせる。</li> </ul>		
6日本の歴史学習の中の長崎について調べよう ※2月～3月 社会 ・古代～ ・開港まで ・1600年前後  ・江戸期の学問 ・幕末期 ・明治期  ・昭和期(原爆) ・高度経済成長期	10	<p>◎取り扱う事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肥前国風土記、古墳、邪馬台国、遣唐使、元寇</li> <li>(1) 南蛮文化、龍造寺、キリスト教、ザビエル、出島、</li> <li>(3) 焼き物(有田 三川内)、島原天草の乱</li> <li>・蘭学、貿易、朝鮮通信使、シュガーロード</li> <li>(4) オランダ風説書、亀山社中</li> <li>・海底ケーブル、高島端島炭鉱、三菱、軍港</li> <li>(2) 兵器工場、震洋、原爆、上海航路</li> <li>・炭鉱、造船</li> </ul>		
7これからの長崎	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終単元「世界には、どんな人びとのくらしがみられるの」</li> <li>6年最終単元「中国」で長崎と中国との過去のつながり、未来のあるべき姿を考えさせる。</li> </ul>		



評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の歴史を学びたいという想いを持たせる手段として、地元文化、博物館見学、さるく活動などを取り入れたほうが効果的である。味覚を取り入れる。</li> <li>・6年生の児童にとっては、教科書に登場する人物や事象と関係付けることで関心意欲を持たせられる。</li> <li>・実際の学芸員さんやガイドさんと出会うことが学びのきっかけとなる。</li> <li>・体験することで記憶の薄れない学びとなる。</li> <li>・友だちと非日常の時間を過ごすことでコミュニケーションを深めることができる。</li> <li>・年度末、再び郷土の歴史について調べさせ、今とつながる歴史をより理解させる。</li> </ul>
------	---

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

※ 博物館さるく終了時に資料作成済み



石垣の違いに注目



ガイドさんの説明



崇福寺 初めて来た児童が多い



赤の世界 日本じゃないみたい



孫文・梅屋庄吉ミュージアム



グラバー邸ではハートストーン探し



昔の通事さんの墓地から



昔の町と人びとの暮らし

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- ・博物館見学とさるく活動を組み合わせた学習を数年実施している。毎年、違う児童が学習するが、どの児童も郷土の歴史に初めて触れることが多い。中には、後日、親子で再訪するケースもあった。6年生の児童にとって校外歴史学習は、興味と楽しみをもたらしていることは間違いない。
- ・午後のコースは選択制となっているため、帰校後に児童同士が見たことや楽しかったこと、美味しかったものなどを楽しげに話し合っている。その姿はほほえましいものである。
- ・多くの時間を使いたい、人的、金銭的課題があり現状では課題が多い。また、博物館を利用して学習することは該当学年担当としては、手間と時間を費やすため人によっては負担を感じるようだ。
- ・総合的な学習のテーマを郷土史に設定することで、たとえば、チームで卒業論文のような取組を実践する方法、社会科の時間に年に複数回、出前授業を行う、などの形態が考えられる。
- ・各見学施設での申し込みや手続きが担当部署でまちまちである。(改善されない)
- ・美術館保有の歴史学習に関連する絵画や資料を博物館でも一部展示してはどうだろうか。二つの館が連携することはできないだろうか。また、県立体育館のスペースに一部展示はできないか。
- ・博物館展示に全県的な展示があったら、教科書に沿った学習がやりやすい。
- ・常設展示室におけるワークシートは事前に学校で1～2時間程度予習をして取り組むほうが効果的に活用できると感じた。
- ・6年生の歴史学習が終わりの頃に郷土史学習について聞いてみたところ、印象に残るのは人との出会い、味わったこと、触ってみたことなど体験（五感）したことであった。教科書学習での通史で、狭い時代に登場する長崎学は身近にある物事から進めていく方法が学習効果を高めることが分かった。

## 長崎市立西城山小学校の対応

(2015年9月30日 来館)

学芸グループ 出口 幹子

長崎の街に想いを持つ「人」との出会いを通じて、当館の歴史資料や長崎の街に残る史跡や歴史的景観、個人的な思い出の場所をそこに刻まれた記憶を辿りながら、「生きた歴史」を学び、長崎の歴史を次世代に伝える機会とすることを目的に、博物館の職員やボランティアがガイドとなり、博物館見学と町めぐりを組み合わせた活動が行われるようになった。この活動は2010年度から長崎市立女の都小学校の深堀昭三先生の提案ではじまり、2014年からは西城山小学校でも実施するようになった。

町めぐりのコースやテーマは、当日案内を担当するボランティアや職員がプランを練り、学校側と相談して決定するが、各施設の入館手続き等は学校側をお願いしている。見学当日は博物館に到着後に担当のガイドとともに、午前中は町めぐりに関連する展示を中心に館内を見学する。その後、昼食を済ませてから班ごとに町めぐり活動に出発し、14時半ぐらいで活動を終了。最寄りの学校方面行きバス停付近にてガイドと別れ、児童と引率教員は学校へバスで向かうという内容となっている。

ボランティアが町めぐりに参加することで、特色のあるコース設定がなされた。博物館から徒歩15分ほどの春徳寺というお寺に、江戸時代に長崎で中国語の通訳を務めた東海家の墓がある。この「東海の墓」は壮大な墓地で、長崎における中国式の墓として代表的なものであるが、この場所を東海家のご子孫であり博物館でボランティア活動をされていた方が案内を担当した。子どもたちは初めて見る墓の形に驚くとともに、ご子孫から直接お話しを伺うことで、長崎の歴史を肌で感じ取れたようである。

子どもたちの感想には、「博物館には何回か行ったことがあったが、とても勉強になった。今度は家族で行きたい。」「見学や街を回ってみて、もっともっと詳しくなりたいと思ったり、こんなガイドさんになってみたいと思った。」「私たち長崎県人として胸をはって他の県の人に長崎のことを話せる6年生になりました。」とある。

案内ができる人数の確保など博物館側の課題もあるが、ガイドと密接に関わりを持つことで、人を通じた歴史学習は大きな成果が上がっていることが実感できる。当館の教育普及活動は先生方の発案によって成り立っている部分が多く、この活動を通して、歴史学習へのアプローチは様々であることを改めて感じたところである。

今後も先生方の試みに可能な限り答えられるように、励んでいきたい。



# 歴史文化博物館に行こう!! 長崎の歴史にふれよう!!

長崎市立桜馬場中学校  
教諭 荒木 俊明

## ゴール地点は

- ☆. 長崎の歴史にふれた気づきや感じたことを作文にして「若い広場」に投稿する。  
(気づく、感じる、発信する)  
↑
- ☆. 長崎の歴史について、今の私たちの生活や現代社会とのつながりに気づく。歴史を学ぶおもしろさ、楽しさを感じる。(気づく、感じる)  
↑
- ☆. 友達の発表を見て、聞いて、その発表の内容を理解し、その内容の良さに気づく。  
(見る・聞く、理解する、気づく)  
↑
- ☆. 自分が調べた内容や気づいたことなどを、わかりやすくまとめて班で発表する。  
(まとめる、表現する)

## ゴールをめざして

### 1 時間目

- 冊子づくり ワークシートを冊子にまとめる
- 班分け 番号順・成績順・人間関係などを見ながら、事前に決めておく。
- テーマ決め 班の代表者を決めさせて、テーマを選ばせる。
- 事前学習 テーマの内容について
  - ・教科書との関連を調べる。
  - ・パンフレットを見ながら、博物館で学べることを調べる。  
→ 「項目」 → 「ポイント」をあげる、まとめる

### 2 時間目

- 事前学習 博物館で質問する内容を決めておく。  
まとめのレイアウトを大まかに決めておく(タイトル、どの内容をどこに?、イラスト)
  - ・「ポイント」「項目」をどこに入れるか。  
(教科書P83を参考に)

### 3・4 時間目

- 現地調査 あいさつ  
歴史文化博物館で調べる・学ぶ
  - ・テーマについて調べる、メモをとる。  
(時間があまったら、他のコーナーもまわってみる)

博物館の方に質問する・学ぶ  
あいさつ

### 5・6時間目

- まとめる B4用紙にまとめる（B4用紙にうすく方眼の目を入れておく）
  - ・レポートは、一人1枚作成する。
  - ・班で協力し、一人で作成が難しい生徒は、同じ班の生徒の内容を真似ながら作成する。

### 7・8時間目

- 発表する 班をジクソーして、それぞれの班で自分のレポートについて発表する。
  - ・一人4分（発表・メモの時間）×6人（5人）
- 気付く・発信する  
自分で学び、他の班のメンバーの発表を聞いて、気付いたこと、わかったこと、感じたことなどをワークシートに書き出す。（若い広場）に投稿できるように、原稿用紙に作文を書く。

# 長崎歴史文化博物館で学ぼう

長崎市立桜馬場中学校  
教諭 荒木 俊明

1. ねらい 「長崎の歴史ロマンにふれ、長崎をもっと好きになろう」  
「長崎の歴史ロマンを発見し発信しよう」 ～ 長崎ってこんなところだったんだ ～

## 2. 学習指導要領との関連

「2 内容 (1)歴史のとらえ方 」 より

イ 身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、歴史の学び方を身につけさせる。

(内容の取り扱い)

イ イについては、内容の(2)以下と関わらせて計画的に実施し、地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取り扱いを工夫すること。その際、博物館、郷土資料館などの施設の活用や地域に人々の協力も考慮すること。

## 3. 教科書の内容との関連

(東京書籍 新しい社会 歴史)

第4章 近世の日本

- ヨーロッパ人との出会い：キリスト教の伝来と南蛮貿易
- 豊臣秀吉による統一事業：宣教師の追放
- 桃山文化：南蛮文化
- 貿易の振興から鎖国へ：朱印船貿易、禁教、出島、鎖国
- 鎖国下の対外政策：オランダ、中国、朝鮮とのかかわり
- 田沼の政治：出島での貿易（俵物、銅の専売制）、志筑忠雄「鎖国論」
- 国学と蘭学：蘭学

第5章 開国と近代日本の歩み

- 開国と不平等条約、江戸幕府の滅亡：長崎港の開港、坂本龍馬
- 殖産興業：官営模範工場

以上の内容が長崎との関わりがあり、これらの内容について、歴史文化博物館で詳しく学びなおす。

4. 対象生徒 桜馬場中学校第2学年生徒 195名 1クラス(35名)ずつ訪問

5. 時期と時間 3学期 昼休みから5・6校時にかけて（13時20分：出発 ～ 16時：帰校）

月日	クラス	時間	学校行事等
3月 1日（火）	2年3組	平常5・6校時 13:20出発 15:55帰校	特になし
3月 2日（水）	2年2組	平常5・6校時 13:20出発 15:55帰校	特になし
3月 3日（木）	2年4組	木曜5・6校時 13:00出発 15:15帰校	生徒集会・表彰伝達
3月 4日（金）	2年1組	平常5・6校時 13:20出発 15:55帰校	特になし
3月 7日（月）	2年5組	平常5・6校時 13:20出発 15:55帰校	特になし

6. 学習内容と方法

(1) 班分けをする

- ① 6人(5人)班を6班つくる
- ② 班で以下の7つの中からテーマを選択して、調べてまとめる。
- ③ 班のメンバーをジグソーし、6つの班で発表会を行う。

(2) 学習テーマを選択する

- ① 西洋との出会い（南蛮貿易とキリスト教）
- ② 朝鮮との交流（朝鮮通信使と対馬）※選択
- ③ 長崎貿易（唐船、オランダ船と行き交う商品）
- ④ 中国との交流（唐寺と唐人屋敷）
- ⑤ 長崎の暮らし（長崎の賑わいと町のしくみ）
- ⑥ オランダとの交流（出島と蘭学）
- ⑦ 近代化の魁・長崎（長崎発、西洋の知と技）※選択

以上の7つのテーマから、それぞれ班ごとにテーマを選択させる。

(3) 学ぶ・調べる・まとめる・発信する

- ① 事前準備（2時間） オリエンテーション 班分け テーマ決め 教科書・ガイドブックで事前学習  
※ 概要をつかませ、調べたり、質問したりする内容を考えさせる
- ② 当日（2時間） テーマについて調べる 時間があまったらフリー
- ③ まとめ（2時間） A3用紙に調べた内容をまとめる（教科書のレポートの作成方法を参考）
- ④ 発表（1時間） 「長崎の歴史を発信しよう」

（例）

- ・3学期の授業参観でクラス発表会
- ・学んで感じたこと、気づいたことを新聞（若い広場）に投稿  
（作文にプラス1時間）

## 桜馬場中学校の対応

(2016年3月1日～4日, 7日 来館)

学芸グループ 出口 幹子

桜馬場中学校では2016年3月に2年生195名が博物館の見学を行った。担当の荒木俊明先生と行った事前の打ち合わせでは、教科書で学習した日本史と長崎との関連について、博物館見学をおして詳しく学び直すことが目的であり、生徒の人数が多いため1日1クラスが来館するという形で見学したいというお話しがあった。今回の活動では見学前に学習の流れやゴール地点、そして博物館がどのように関わるのかが明確に示されたため、事前準備や案内など安心して活動に望むことができた。

当館の常設展示室は大航海時代から明治時代までの長崎の歴史について紹介していて、展示コーナーは8ヶ所に分かれている。今回は「長崎の美術工芸」を除き、残り7ヶ所のコーナーが中学歴史の教科書とどの程度関連があるのかを調べ、事前に学校側にお伝えした。

生徒はグループごとに展示コーナーに沿った学習テーマを選択し、それぞれの内容について教科書などで事前学習を行った上で来館している。

当日の見学時間は2時間あり、最初の20分は自分が選択したテーマについて調べ学習を行った。その後、学習テーマである7ヶ所の展示コーナーについて、職員2人が20分ごとに2ヶ所ずつ解説を行い、生徒は該当する場所や興味がある場所の解説を聞きに行くという方法が取られ、最後に15分ほど質疑応答を行い見学が終了した。

今回は見学目的が明確で、事前学習がしっかり行われていたためか、生徒たちは熱心に調べたり、説明を聞いたりする姿が印象的であった。

この活動のゴールは学習を通して感じたことを長崎新聞の「若い広場」に投稿することであったが、2つの投稿が新聞に掲載をされているので、そのうちの1つをご紹介します。

『「長崎は歴史の宝庫だ！」これは私の父がよく口にする言葉だ。もう何回も聞いてきた。私はなぜ長崎が歴史の宝庫かわからないし、考えようとさえしなかった。でもそれは今考えるとよくないことだったかもしれない。先日社会の授業で長崎歴史文化博物館に行った。長崎の歴史について学習できるよい機会だった。私たちは班に分かれてそれぞれのテーマを学習した。私たちの班のテーマは「近代化の魁・長崎」という難しそうなものだった。歴史文化博物館には楽しみながら学べる所が多いため、たくさんの学習ができた。造船所や長崎海軍伝習所のことも知った。自分が住んでいる所なのに、知らないことがたくさんあることを少しはづかしく思った。それから数日後、私たちは学んだことを発表することになった。他の人の話を聞いていると、私たちが学んだこととつながりが見えた。複雑だがとても面白かった。もっと長崎について知りたいと思った。父のあの言葉は間違っていなかったと確信した。これからは長崎だけではなく、ほかの県の歴史や文化に触れて、つながりを探していこうと思った。』

中学校の授業時間数が限られている中、博物館見学の時間を確保することは難しいかもしれないが、多くの中学生が博物館を学びの場所として活用してもらえればと願っている。



中学部 1～3年	生活単元学習	単元名：「博物館を知ろう」	11月	6時間	
実践校：長崎大学教育学部 附属特別支援学校		授業担当者：竹下 成彦			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎歴史文化博物館の展示物を見たり触れたりすることで、博物館がどういうところかを知る。</li> <li>・博物館の利用の仕方が分かる。</li> </ul>				
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項		評価・他教科関連	
○長崎歴史文化博物館がどこにあり、どのような施設なのかを調べる。 (事前学習)	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎歴史文化博物館が、どこにあった、どのような建物なのか、単元「市内めぐり」で見学したコースを参考にしながら、思い出し、場所の写真や施設の概略を示したカードを選ぶ。</li> <li>・施設では、「長崎県美術館」「図書館」「長崎歴史文化博物館」の写真カードと概略カードを提示し、その中から選択させる。</li> <li>・建物の写真カードは、単元「市内めぐり」で見学した時の写真などを使いながら、正しい写真を選択できるようにする。</li> <li>・どんな施設なのかを調べるために、長崎歴史文化博物館を見学に行くことを伝え、行き方、料金などを調べる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元「市内めぐり」の事を参考にし、正しい建物の写真を選ぶことができたか。</li> <li>・グループで話し合いながら、行き方や料金を調べることができたか。 (社会、数学)</li> </ul>	
○長崎歴史文化博物館を見学する。 ・長崎歴史文化博物館まで公共交通機関を使って移動する。	1 (移動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに自分たちで調べた行き方で、長崎歴史文化博物館に行く。</li> <li>・各グループに、2名教師が引率するが、できるだけ子供たちの様子を見守るようにする。</li> <li>・公共交通機関のマナーについて状況に応じて指導する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーを守って公共交通機関を利用することができたか。</li> </ul>
・長崎歴史博物館にて、博物館の展示物オリエンテーリングをする。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館内にある展示物の中から8個の展示物の写真を一覧しておき、各グループで写真の展示物を探し、タブレットPCで写真に撮る。</li> <li>・8個の展示物の写真には、展示物を注意深く見ることを促すように、図屏風の一部等の写真も入れておくようにする。また、パズルになっているものを取り入れることで、パズルに直接触れてみる等体験できる展示物にも興味関心が持てるようにする。</li> <li>・博物館内では、走ったり大きな声で話したりしないことを再度確認する。</li> <li>・各グループに1台タブレットPCを携帯させるようにし、グループでまとまって見学するようにさせる。</li> <li>・他の見学者が見ているときには、静かに後ろで待つか、他の展示物を探しに行くかするようにさせ、施設見学においての状況に応じたマナーが分かるようにする。</li> </ul>			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎歴史文化博物館はどのような施設なのかを自分なりの言葉でまとめる。</li> <li>・長崎歴史文化博物館の学芸員の方の話を聞く。</li> </ul> <p>○学校に移動する。</p>	<p>1 (移動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8つの展示物を探し、写真を撮ってきたグループは講義室に集合し、正しく探すことができたかどうかを確認する。</li> <li>・ 事前学習で作ったワークシートを使って、歴史文化博物館の概略カードが正しく選択できていたかどうかを確認する。</li> <li>・ できていなかった生徒については、自分から訂正できるかどうかを見守り、訂正できなかった生徒については、今見学してきた展示物写真一覧を一緒に見ながら、正しい概略カードを選択できるようにする。</li> <li>・ 展示物写真一覧を確認しながら、子どもたちの発言を引き出し、長崎歴史文化博物館がどのような施設なのか、ワークシートにまとめる。 (古いものが展示してある、昔のことがわかる施設だ、古くてとても珍しいものが展示してある等)</li> <li>・ 長崎歴史文化博物館の学芸員の方から、どのような展示物を所蔵しているのか、どのようなことができる施設なのかについて、話をさせていただく。</li> <li>・ 学部代表の生徒が、見学させていただいたお礼を伝える。</li> <li>・ グループごとに自分たちで調べた行き方で、学校に行く。</li> <li>・ 各グループに、2名教師が引率するが、できるだけ子供たちの様子を見守るようにする。</li> <li>・ 公共交通機関のマナーについて状況に応じて指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展示物写真一覧を見ながら、どのような施設なのか、自分なりの言葉で伝えようとする姿勢が見られたか。 (国語)</li> <li>・ マナーを守って公共交通機関を利用することができたか。 (社会 数学)</li> </ul>
<p>評価規準</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展示物を興味関心をもって見る様子が見られたか。</li> <li>○博物館がどのような施設か、概略カードを正しく選択したり、自分の言葉で話をしたりすることができたか。</li> <li>○マナーを守って博物館を見学することができたか。</li> </ul>		

3年生	教科：生活単元学習	単元名：校外学習（長崎市）へ行こう	6月～7月	15時間
実践校：長崎県立虹の原特別支援学校		授業担当者：才木 勝		
目 標	<p>(1) 決められた時間や予算の中で、自分たちで行きたいところを調べたり、選んだり、計画を立てたりする力を育てる。</p> <p>(2) 日程に沿って、主体的に行動する力や友達と協力して活動する態度を身に付ける。</p> <p>(3) 公共交通機関や公共施設の利用を通して、社会経験を広げ、集団行動の決まりや利用のマナーを守る態度を身に付ける。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 日時や場所、目標を確認する。	1	<p>○校外学習の日時などを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カレンダーを見て、正確に日にちを示す。</li> <li>・地図を見て、学校の場所、行き先を示す。</li> <li>・交通ルールやマナーについて確認する。</li> <li>・全体の目標を確認する。</li> </ul> <p>※写真やイラスト、音楽などを活用して見通しやイメージをもたせ、意欲的に取り組めるようにする。</p>	(1) 社会、数学、道徳等	
2 行き先の施設の概要やそこまでの移動手段、料金などについて調べる。	2	<p>○タブレットPCやガイドブックなどを使って、行き先を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎市の観光地について自由に調べる。</li> <li>・いくつか意見が出たところで、地図にシールを貼るなどして行き先をしぼる。</li> <li>・移動にかかる時間、移動手段を検討し話し合いをして行き先を決定する。</li> </ul>	(1) 社会、数学、国語等	
	1	<p>○タブレットPCやガイドブックなどを使って、長崎歴史文化博物館について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示や企画展などでどのような展示がされているのか調べる。</li> <li>・それぞれの展示コーナーについて、特徴をまとめる。</li> </ul>	(1) 社会等	
	1	<p>○タブレットPCや時刻表を使って、移動手段について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集合解散の場所である長崎駅からの距離などを考慮しながら調べる。</li> <li>・かかる時間や料金について調べる。</li> </ul>	(1) 社会、数学等	
	1	<p>○タブレットPCやガイドブック、写真などを使って、昼食場所、買い物ができる場所について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ちゃんぼん」、「トルコライス」、有名なお店、ランチバイキングなど、知っていることなども参考にして決める。</li> </ul> <p>※しおりを活用し、調べる内容や要点を絞りながら学習を進める。</p>	(1) 社会、家庭科等	
3 実際に、校外学習に行く。	7	<p>○しおりを見て、目的地に移動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に見た景色と事前学習の知識、しおりを比較し友達と協力して取り組む。</li> <li>・マナーを守って安全に路面電車を利用する。</li> </ul>	(2)(3) 社会、数学、国語、家庭科、道徳等	

4 校外学習を振り返り、写真などを使ってまとめる。	2	<p>○歴史文化博物館を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館利用のマナーを確認し、マナーを守って利用する。</li> <li>・調べてきた展示コーナーを探し、メモをしたり体験をしたりする。</li> <li>・本物の史料に触れ、当時の生活などについて知る。</li> <li>・疑問や質問は、歴史文化博物館の案内をしてくれる先生に尋ねる。</li> </ul> <p>○マナーを守って昼食をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備や後片付けなど、できることは自ら行うよう促す。</li> </ul> <p>○お小遣いの計算をしたり、行き先で学習したことや気付いたことを模造紙にまとめたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算機を使うなどしてお金の計算をし、レシートを貼ってお小遣い帳を整理する。</li> <li>・模造紙に写真を貼り、行程で気付いたことや歴史文化博物館で発見したことなどをまとめる。</li> </ul> <p>○お世話になった方へお礼状を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書く内容を端的に伝え、自分で考えながら書くように促す。</li> </ul>	(1)(2)(3) 社会、数学、国語、 道徳等
評価規 準	<p>(1) タブレットPCやガイドブックなどの調べ学習の手段を知り、自分たちの行きたい場所を調べたり選んだりし、限られた条件の中で計画を立てることができたか。</p> <p>(2) しおりの計画を参考にし、学級の仲間と協力して見学や移動をすることができたか。</p> <p>(3) 集団行動の決まりや利用のマナーを意識して、安全に公共交通機関や公共施設の利用をすることができたか。</p>		

<その他>

- ※ 修学旅行の事前学習として各学級を中心に取り組みました。
- ※ 安全に集団行動ができるか、徒歩での移動はどの程度可能か、食事の採り方、買い物の仕方はどうか、タブレットPCなどの活用はできるか、興味や関心を示していることは何か、当日は調べたことを有効に活用できるか、どのような配慮が必要かなどについて検討をしました。
- ※ 歴史文化博物館では、橋やパズルに取り組んだり、実際に匂いをかいだり、お金の価値を当てるゲームを楽しんだりする様子がありました。また、順番を落ち着いて守ったり譲り合ったりなどが時々見られるなど、学校生活とは少し違う様子を見ることができました。
- ※ 博物館の展示物そのものへ興味や関心をつなげることが難しかった生徒もいましたが、史料の大きさや色使い、日本のものとは何となく違うことに気付いた生徒がいて、有意義な時間を過ごすことができました。
- ※ 事前学習であまり深く学習できなかったこともありますが、座って体験ができるコーナーやアトラクションのようなコーナーが1つあると、博物館にもっと興味をもち身近に感じる生徒が増えるのではないかと思います。

## 2) 職場体験

長崎精道中学校

2017年度

2・3年生	教科：総合的な学習の時間	単元名：校外学習（職場体験学習）	5月～10月	17時間
実践校：長崎精道中学校		授業担当者：中2・中3担当教員		
目標	「本当の幸せを知り、味わい、周りの人々にその幸せを与えよう」という本校の建学の精神を修得する最終段階にあたり、3rdステージでは、一人ひとりがこれまでに学んだ価値基準を生かし、将来に役立つ広い社会的視野を養うため、職場体験を行う。この体験を通して、「働く」ことの意味を深め、責任を持って自分の役割を果たし、周りの人に仕える態度を養う。			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1. 「職場体験学習」の意義を知り、研修先の希望調査をする。5月～6月	1	○「職場体験学習」のオリエンテーションを行い、3rdステージとしての自覚を促し、「働く」とはということかなどを考えさせる。 ○研修先はあらかじめ、教員が選定した企業に限定し、希望調査アンケートを実施する。 ○生徒の希望が可能な限り尊重されるように研修先が決まることと、異学年で行けるように調整する。	1	
2. 自分達で研修先に電話して、ご挨拶と持ち物などの確認をする。7月	1	○研修先ごとに顔合わせを行い、電話のかけ方を学び、マニュアルに従って、電話研修を行う。 ・日時・場所・出入り口・服装・持ち物・訪ねるべき人・昼食をとる場所・その他注意事項など。	1	
3. 「勤労」についての道徳。 9月職場体験前日	1	○2年生は「働く」とはということかを考え、3年生は昨年の経験を基に改めて「働く」とはということかを考え、目標を立てる。	1, 3	
4. 事前指導。 9月職場体験前日	1	○礼儀やマナーのことなどを研修先ごとに最終確認し、名札、「報告用紙」を配布する。	1	
5. 職場体験学習実施。 9月職場体験2日間	12	○職場体験を実施する。教員は研修先を巡回し、ご挨拶と生徒の様子を観察し、写真を撮って記録しておく。生徒は2日間とも実際に働くことでどういう気づきがあったかなどを「報告用紙」に記入する。	2, 3	
6. 「報告用紙」とお礼状を送付する。 9月職場体験後日	1	○「報告用紙」を回収してコピーし、原本は各研修先へお礼状と共に送付する。コピーした分は、廊下に展示し、各学年が自由に閲覧して、相互に経験を分かちあい、また公開授業や文化祭の際にも展示して、保護者の方や地域の方にも見て頂く機会とする。	3	
評価規準	1 仲間と共に協力し、主体性を持って、電話研修・道徳などの学習ができたか。(関心・意欲・態度) 2 職場体験学習を通して、社会人としてのマナーやルールを少しでも自分の身につけることができたか。(課題解決) 3 「働く」とはということなのか、働くことの意味や自分の将来の目標などを自分なりに考えることができたか。(自己理解)			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

長崎歴史文化博物館で研修させて頂いている様子



←発送作業のお手伝い。(H29年度)

総合案内のところで、お客様にご挨拶。(H28年度) →



生徒の反省・感想より（右記の「報告用紙」より）

私は、歴史文化博物館で2日間、いろいろな体験をすることができました。初めはとても緊張して笑顔で接することがあまりできませんでしたが、慣れてくると笑顔であいさつができるようになりました。一日目の歴史文化展示ゾーンの見学で、様々な種類の香料やくすりのにおいの違いを楽しめるコーナーや、展示物の近くにタッチパネルが設けられていて、その説明や絵の細かい部分まで見ることができ、子供も大人も楽しめる工夫があることに気づきました。また、企画展の準備をしているところを見学したり、古文書を和紙で修復したり、いつもはできない体験もさせていただいて、とても興味がわきました。二日目は、梱包作業とフロアに立って、お客様に挨拶をしました。梱包作業はたくさんのご案内の紙などを折って宛て先シールを貼った封筒に入れる作業で、とても地道な作業でした。たくさんの方々が来客して見学を楽しむ一方で、職員の方々はたくさんの電話の応答をしたり、梱包作業をしたり、様々な働きがあることを、実際、裏方で働いて学んだので、どこに行っても、見えないところでたくさんの方々が働いておられることを忘れないようにしたいと思います。2日間、本当にありがとうございました！



↑  
上記は生徒が記入した実際の「報告用紙」。「グループ目標」「個人目標」「活動内容」「気づき・学んだ点」「反省・感想」の項目に沿って、生徒自身が記入し、その後、原本を研修先に送付し、コピーを展示。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

本校は、小中一貫の女子校であり、その9年間を「4-3-2」制に分け、小1～小4を1stステージ、小5～中1を2ndステージ、中2と中3を3rdステージと位置付けています。3rdステージは「価値基準を生かし、創意工夫によって自分の道を拓く」、「創造と自律期」にあたり、先述の目標を達成するため、下表のとおり、年間4回の校外学習を設定しています。

回	活動内容	時期	対象学年	関連分野・主催・その他備考
1	介護施設訪問ボランティア	3学期末	新中2・3	ボランティア委員会
2	保育実習	1学期末	中3	家庭科
*3	<b>職場体験学習</b>	<b>2学期初め</b>	<b>中2・3</b>	<b>キャリア教育の一環として</b>
4	歳末助け合い協同募金活動	2学期末	中学生有志	ボランティア委員会

その中でも「職場体験学習」は、社会人としての経験をさせて頂けるため、「はい」と声に出して返事することの大切さや挨拶といった基本的なことはもちろんのこと、礼儀やマナー、生徒自身が将来のことを考えたり、働いてくださっている方々や両親への感謝の心を持つたりと、大きく成長する機会となっています。長崎歴史文化博物館では、裏方も表に立つ作業も両方体験させて頂き、「働く」ということについて生徒自身が考えやすい環境を提供してくださっていることに大変感謝しています。今後とも宜しくお願い致します。

博物館との連携

例年「職場体験学習」以外にも、美術の授業の一環として、長崎県美術館見学を年に2回実施していますが、今年度は、そのうちの1回分を博物館の方で行うことにしました。「川原慶賀の植物図譜」で作品解説をして頂きながら、ワークシートを用いて作品の鑑賞をすることができ、有意義な見学となりました。

## 長崎精道中学校の対応

(2017年9月11日～12日)

学芸グループ 古豊裕次郎

私立長崎精道中学校は小中一貫教育を行っている女子校で、毎年2～3人の生徒を職場体験学習として、9月に2日間朝9時から夕方4時まで受け入れている。長崎精道中学校では、小中9年間一貫教育の中学2・3年次を「3<sup>rd</sup>ステージ=創造と自律期」と位置づけており、「本当の幸せを知り、味わい、周りの人々にその幸せを伝えよう」という建学の精神を修得する最終段階にあたって、年間4回の校外学習を実施している。職場体験学習はその一環で、生徒の一人ひとりが責任を持って自分の役割を果たし周りの人々に仕えるという体験を通して、自己啓発と将来に役立つ広い社会的視野を養うことを意図して、例年受け入れの要望がある。

長崎歴史文化博物館で行っている職場体験学習では、教育普及担当の学芸員が窓口になりスケジュールを組み、学校対応や古文書修復作業など学芸員の業務をはじめ、フロアスタッフ体験、チラシやポスターなど発送作業がある場合は広報業務など博物館が行っている仕事を体験してもらっている。他の仕事でも言えるが、博物館での職場体験学習を通して、学芸員以外にも広報や営業、経営管理、施設管理、フロアスタッフやショップスタッフの方々など様々な人が働いていて博物館が成り立っていることを伝えている。今年度(2017年)は3名の生徒を受け入れた。職場体験学習は朝礼からはじまり、生徒達は職員の前で自己紹介と一言挨拶をする。大勢の大人の前で話す機会もあまりないと思うので緊張してなかなか話せない子も多いが、長崎精道中学校では事前学習や様々な学校行事を通して指導されているようで、学習への意気込みをきちんと伝えている印象がある。古文書修復作業では、担当学芸員より破損した資料を修復するにあたり和紙や墨の説明をしていただき、どんなに劣化していても古文書は修復できることを伝えており、生徒達も本物の資料を扱うとあってより慎重に作業に取り組んでいた。フロアスタッフの体験では、インフォメーションカウンターやチケットカウンターに実際に立ってもらい、フロアスタッフの方の指導を受けながら来館者対応を行っている。なかなか最初から接客するのは難しく、ハキハキと話し相手に伝える意識を持って接客する大切さを学んでいた。秋に行われる企画展のチラシ・ポスターの発送作業があったが、封筒にラベルを貼る人、ポスターを折る人など自分たちで役割を決め、受け取る側のことを考えながら丁寧かつ迅速に作業ができていた。

職場体験学習後、美術の授業の一環として11月に中1～3年の全生徒で企画展と常設展示の見学対応を行った。当館では年間約10校近くの職場体験学習を受け入れているが、職場体験学習だけでなく、つながりを持って今後も対応していきたい。



## 2. 学校でおこなうプログラム

---

学校でおこなうプログラムについて	32
1) 出張授業	
・ 佐世保市立相浦西小学校大崎分校	34
・ 佐世保市立江迎中学校	37
2) 移動博物館	
・ 長与町立長与北小学校	41
・ 長崎県立大村特別支援学校	43
・ 長崎県立佐世保特別支援学校高等部上五島分教室	48
3) 出張授業と移動博物館	
・ 長崎市立形上小学校	51
4) 貸出教材	
・ 長崎市立川原小学校	54



# 学校でおこなうプログラムについて

学芸グループ 松岡めぐみ

## 1. 概要

当館では開館当初より、博物館の外にいる人々に対する教育普及活動を総合して「アウトリーチ活動」と呼び、「出張授業」及び「移動博物館」という二つの形態を中心に据えて実施している。その他、先生向けに授業で使用可能な資料の貸出をおこなっている。

### ■出張授業

研究員が直接学校へ出向き、必要に応じて体験グッズや画像資料などを用いて授業を行う。

対象：長崎県内の小・中・高、特別支援学校等

※授業時間・テーマについては応相談

〈これまでに実施したテーマ例〉

「長崎再発見」「長崎の祭と行事」「長崎版画体験」「巻物と屏風の鑑賞」

「南蛮貿易と南蛮文化」「江戸時代の長崎貿易」「幕末の長崎と坂本龍馬」

### ■移動博物館

多目的室や体育館などで行う、資料（複製中心）のミニ展示。当館常設展示室と同様、触ることのできる体験グッズを含む。公共施設でのマナーの学習や、実際の来館前の導入に。

対象：長崎県内の小・中・高、特別支援学校、公民館等

※5月以降に実施。開始前に1時間程度、会場設営の時間が必要。

### ■貸出教材

所蔵品の複製資料・画像データ資料の無料貸出。

※貸出期間は2週間以内。学校の教育目的での使用に限る。

※郵送の場合は要送料

〈貸出資料の例〉

- ・「南蛮人来朝之図」「長崎港之図」などの画像データ（巻末にリストを掲載）
- ・アニメDVD「天正遣欧少年使節」「上野彦馬」「松浦静山」
- ・国際理解教材（中国・韓国・オランダ各国の子供の学用品）
- ・複製巻物（出島や唐人屋敷の様子が描かれた「漢洋長崎居留図巻」）
- ・出島・唐人屋敷パズル
- ・眼鏡橋ブロック 他

## 2. 利用状況について

過去3年間におけるアウトリーチ活動の利用件数は下表のとおりである。長崎市外の数はいくつか少ないものの佐世保市、諫早市、大村市、川棚町、長与町、新上五島町と様々な地域で出張授業や移動博物館を実施した。2年目、3年目と連携が続いていく学校では、前回の反省をふまえて規模を広げてみたり、反対に内容を絞ったりしながら、それぞれの学校や児童たちに合った方法を模索している。

貸出教材については、利用のあった学校は徒歩圏内から市外まで様々だが、知名度の低さのためか件数は少ない。こちらは出張授業や移動博物館の時間を捻出するのが難しいという場合でも、画像や資料1点から利用できる手軽さがある。すでに教材を活用されている先生方の口コミに期待するとともに、私たちも、気軽に相談をしていただけるよう、いっそう情報の普及に努めていきたいところである。

	2015年度			2016年度			2017年度		
	市内	市外	合計	市内	市外	合計	市内	市外	合計
出張授業	8	2	10	8	4	12	14	4	18
移動博物館	1	1	2	0	1	1	2	4	6
出張授業＋移動博物館	0	3	3	2	3	5	1	1	2
貸出教材	3	1	4	2	2	4	3	2	5

館との連携を取り入れる教科としては、やはり社会と総合学習が圧倒的に多い。館側で特に限定をしているというわけではなく、少数ではあるが美術の時間での実施例もある。さらに出張授業や移動博物館の後日、あるいは実際に教材を見ながら、作文やパンフレット作りをするなど、先生方の工夫で国語や英語その他の学習に発展させている例もあるようだ。「歴史」「文化」の名前にはあまりとらわれず、博物館の宝物を、長崎に住む私たちに身近な沢山のことに繋がる学びのために、有効活用していただければ幸いである。

次頁より、出張授業と移動博物館それぞれの実施について、及び2つを組み合わせた実施例、また、貸出教材を利用した授業についての報告を掲載する。なお上表は学校での活動の前後に来館（展示室案内等）のあった場合を含めているが、こちらについては59頁からの「学校と博物館でおこなうプログラム」の項で詳述する。

# 1) 出張授業

佐世保市立相浦西小学校大崎分校

2015年度

6年生	教科：社会	単元名：鎖国時代の長崎について学習しよう	9月～10月	4時間
実践校：佐世保市立相浦西小学校大崎分校		授業担当者：佐藤 友昭		
目 標	<p>鎖国時代の長崎とオランダ・中国との交流や出島での生活の様子を知り、博物館の資料を見たりふれたりすることで、当時の暮らしや文化について興味・関心を持つことができる。</p> <p>博物館の方の話を聞いたり、実際に資料を見たりすることで、江戸時代の文化と学問に興味と関心を高めることができる。</p>			
	学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
	○鎖国時代の長崎・出島の生活の様子を学習する。	1	・教科書や資料集をもとに、ワークシートを用いながら学習を進める。	
	《出張授業》 2時間			
	○「寛文長崎図屏風」を見ながら気づきを出し合う。	1	・資料を見る視点を与え、気づきを自由に発言させる。「人物」「建物」「乗り物」など	
	○「オルテリウスの世界地図」を見て、どのように日本が認識されていたのか知る。		・日本の場所を探し、形が正確でないことから、当時ヨーロッパの人々はどのように日本を認識していたのか、想像したり話を聞いたりする。	
	○「出島パズル」に取り組み、気づきを話し合う。		・2つのグループに分かれてパズルを作る。 ・完成後に気づきや疑問を自由に発言させる。「人物」「動物」「建物」 ・出島での生活の様子についての解説を聞く。	
	○「踏絵図」や学芸員の話聞き、当時のキリスト教のおかれていた状況について知る。	1	・踏絵を行っていたキリシタンの気持ちを想像する。 ・「天正遣欧少年使節」の話聞く。	
	○博物館の資料に実際に触れる。		・「浮世絵」「解体新書」「忠敬の地図」「カメラ」「輸入品の数々」などにふれ、江戸時代の文化、学問について関心をもつ。	
	○出張授業の感想を書く。	1	・出島が蘭学の発展において、とても重要な役割を担っていたことをおさえる	
評 価 規 準	<p>江戸時代の長崎とオランダ・中国との交流や出島での生活の様子を知り、博物館の資料を見たりふれたりすることで、当時の暮らしや文化について新たな気づきを見つけたか。</p> <p>博物館の方の話を聞いたり、実際に資料を見たりすることで、江戸時代の文化と学問への興味関心を高めることができたか。</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



〔児童の感想文より〕

- 解体新書はほんとうにリアルでビックリしました。教科書では1ページしかのっていなかったけど、全部見れてとてもうれしかったです。全部外国語で書いてあったのに、辞典もなにに使わないでほん訳したなんて、やっぱり前野良沢と杉田玄白はすごいなとあらためて思います。
- 出島の人々の暮らしでオランダの人以外にもインドネシア人もいたと聞いておどろきました。伊能忠敬が測量した日本地図が一つ一つ歩いて測っていてすごく正確だったし、すごいなあと思いました。「ふみ絵」が意外と大きくてびっくりしました。
- 特別に浮世絵をさわらせてもらえて、とてもうれしかったです。裏を見てみると、ほったあとがキレイにはいていたのでおどろきました。そして、手にとってみるとうすかったのでビックリしました。解体新書はとても細かくてビックリしました。これが版画で刷られているなんてすごいなと思いました。版木の板はとてぶあつかったので、理由を聞くといらなくなったらまたほって、平らに戻してリサイクルするためだと知って、とても納得できました。砂糖が銀と取り引きできるほど高価なものだということは初めて知りました。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

分校児童41名のほとんどがカトリック教徒である。今回の出前授業でも、キリスト教に関する資料をお願いしたところ、踏絵板だけでなく天正遣欧少年使節の肖像画を持ってきていただき、話をして頂いた。「伊東マンショ」や「千々石ミゲル」など、使節団の名前を挙げるほど、子どもたちの興味は高く、上の欄の中央の写真のように、熱心に話を聞いていたのが印象的だった。

実際に触ったり見たり嗅いだり、また話を聞いたりしないと書けないような気づきを、それぞれの児童が感想として持つことができた。出島パズルからの気づきからオランダ人だけでなくインドネシア人が住んでいたことや、浮世絵が精緻な版画によるものだという事は、印象深かったと思われる。

歴史の学習が終わった12月、「一番印象に残った時代は」と尋ねると、江戸時代の後半と答える声が多かった。それだけ、出前授業は子どもたちにとって印象深く、意義深いものでもあった。

〔学びの発展〕

その後、大崎地区について調べる総合的な学習の時間で、「大崎地区にカトリックが移り住んできた歴史について」調べたいというグループがあり、郷土資料などを取り寄せて調べさせた。

平戸や黒島地区の隠れキリシタンが自分たちのルーツであることが分かり、社会科で学習した「歴史」と、自分たちの「現在」とを密接に関連付けながら考えまとめることができた。

博物館との連携

本校では、6月頃修学旅行に長崎市内を訪れている。行程の中で博物館と出島の見学を取り入れ、10月頃に移動博物館を本校で行い、資料にふれる機会を増やすことが考えられる。

## 佐世保市立相浦西小学校大崎分校の対応

(2015年10月6日実施)

学芸グループ 出口 幹子

佐世保市立相浦西小学校大崎分校では2015年に、6年生を対象に出張授業を実施した。事前の打ち合わせでは「江戸時代の長崎や出島の学習を行ったが、佐世保の子どもたち長崎の土地勘があまりなく、ピンと来ていないようだった。子どもたちの多くはキリスト教に関する話には高い興味を持っているので、江戸時代の長崎や出島、キリスト教についての出張授業のお願いしたい」というお話があった。

博物館がある長崎市と学校がある佐世保市では、同じ県内であるが距離的に離れていることもあり、博物館に来たことがある子どもは少ない。そのため多くの児童に博物館の資料に触れてもらいたいと考え、昼休みの時間は全児童を対象とした移動博物館を実施し、同じ会場で5・6校時には6年生を対象とした出張授業をおこなった。

移動博物館の時間には低学年の子どもたちの参加もあったが、パズルや屏風の人物を探すカードを使って絵を詳しく見たり、体験グッズに触れたり、それぞれの成長段階に応じた楽しみ方をしていた。

6年生向けには5校時目は「鎖国時代の長崎と外国との交流の様子を理解する」、6校時目は「蘭学と国学への興味を深める」というテーマで授業をおこなった。

通常の移動博物館では博物館がどのようなところなのかを知るためであったり、「長崎の歴史」についての興味関心を高めることが主な目的となる。今回は移動博物館の会場で出張授業を実施したため、同じ資料を使っているにもかかわらず、授業のねらいや流れが明確であった点が、通常の活動と異なる点である。また今回は、子どもたちが日ごろからキリスト教への関心が高いという点に考慮し、「オルテリウス世界図」や天正遣欧少年使節関連の複製資料も準備したところ、子どもたちが熱心に話を聞いていた点が印象的であった。

通常、移動博物館や出張授業は総合学習や修学旅行の事前学習として、社会科で江戸時代を学習する前に行われることも多いが、今回の出張授業は復習としての位置づけであったため、発展的な学習として行うことができた。子どもたちの中では教科書と比較しながら授業を受けることで、より深く理解していたようである。また予め地域の特性を伺い、子どもたちの興味が高い資料を展示できたので、歴史についての興味がより高まったのではないだろうか。





生徒の感想

①印象に残っている内容・理由

葉	○匂いがとても強烈だった。 ○昔の葉はどんなものだろうと思い興味を持っていた。
香辛料	○独特なおい ○どのように使ったのか知りたくなった。
解体新書	○とてもリアルに絵が描かれていた。すべて版画でできていると聞いて驚いた。 ○オランダ語を全部訳したと聞いたのですごいと思った。 ○人の体をあんな昔から研究していたと思うとすごいと思った。 ○小学校の頃見せてもらったが、その頃はわからなかったが、今回はわかるどころが多々あった。
砂糖	○長崎の食べ物に使用された砂糖は出島から伝わったものだという事。 ○どんな調味料をつかっていたのか気になった。
出島	○広さはディズニーランドくらいと思っていたが、思ったより狭いということ。 ○形の由来。
オランダ通詞	○日本語に翻訳した人たちがいた。 ○辞書もないのに通訳をされていてすごいと思ったから。 ○オランダと貿易する時にどうやって話していたのか気になっていたから。 ○通訳がいたことを知らなかったから。 ○専門分野で活躍した人たちに興味をもった。他にどんな人がいるのか知りたい。
蘭学	○長崎から日本全国に広がったと聞いてすごいと思った。
浮世絵	○100年以上前の物が残っていてすごいと思った。 ○何回にも分けて色をつけることを初めて知った。作業の工程が多くて大変だなと思った。 ○彫り師がすごい。 ○すべて一人で作っていると思っていた。
刀	○マンガやアニメでは見るけど実物を見たり触ったりすることがなかったので。
シーボルト	○江戸時代にもスパイのような人がいたんだと驚いた。 ○もっと調べてみたいと思った。
吉雄耕牛	○弟子が全国に1000人もいるということ。
唐人屋敷	○唐人屋敷のことは教科書にあまり載っていないから調べてみたい。
本木良永	○「惑星」という言葉を使った。
ドゥーフ・ハルマ	○どうやってつくったのか。
鳴滝塾	○そこで学んだ人が後に東大の教授や医者になっていたのだからどこか興味をもった。
平賀源内など長崎で学んだ人たち	○具体的にどのようなことを勉強したのか知りたくなった。

②感想

- オランダ人ではないシーボルトというドイツ人がいたことを初めて知った。
- オランダ語を日本語に訳すというのはとても難しいことなのにできていたというのはすごいことだと思う。  
辞書が生まれる前にしていたのでとても偉大な人たちだと思った。
- 1つ1つが細かく描かれていて杉田玄白は優れた能力を持っていたんだなと思った。
- 教科書に載っていないことを知ることができていい勉強になった。
- いつも教科書でしか見られない物を実際に見ることができておもしろかった。
- 出島に行ったことがあるけど、もう一度行ってみたいと思った。
- 小学生の時に体験した版画が、化政文化と関係あると知った。
- 小学校の時よりも内容が濃くて知らないことをたくさん知ることができた。
- 展示物は以前見たものもあったが、ちゃんと説明してもらえたのでよくわかった。
- 長崎は重要な場所であることがよくわかった。長崎ってすごい。

③質問

- 最初（言葉がわからない時）、日本人はどうやってコミュニケーションをとったのか。
- オランダ通詞はどこでどうやってオランダ語を学んだのか。
- 唐人屋敷にもオランダ通詞のような仕事をしている人がいたのか。
- どのようにして出島はつくられたのか。
- 鎖国中の出島の様子を詳しく知りたい。
- なぜ2つの国としか貿易しなかったのか。中国やオランダはいいのにそれ以外の国はダメだったのか。
- 貿易は必ず出島でなければならなかったのか。
- 解体新書を作った時はどのくらい人を使ったのか。
- 解体新書はどのくらい売れたのか。
- ドーフ・ハルマの制作にはおよそ何人の人々が関わったのか。
- 砂糖は高かったのに塩は安かったのか。
- 化政文化のころ誕生し、現在使っている物、または、もともになっている物はあるのか。



④今度はどんな授業をしてほしい？

- 昔の農家と武家の暮らしの違い
- 戦国武将のこと
- 安土桃山時代の長崎について、江戸時代以外の時代について
- 江戸時代の将軍、活躍していた人たち
- 出島の家の様子
- 幕末から明治にかけての授業
- 海外の歴史
- 西洋の文化
- 日本と貿易をしていた国の授業
- 浮世絵をたくさん見れる授業
- もっと展示品をもってほしい。

今回のように展示品（実物）が見たい

- 今日のように映像資料を使った授業
- 実際に使われていたものを見ながらの授業
- 今日の内容をもっと詳しく知りたい



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 生徒の感想から、映像資料がわかりやすく、直接触れることで興味・関心が高まっていることがわかる。
- クイズ形式の導入で興味を持っていた。
- 教科書に載っていない発展的な内容でも、長崎県に関係のある内容なので興味深く話を聞いていた。
- 小学校で出島の出張授業を受けていたが、当時、理解できなかった内容でも、中学生になって理解できるようになったり、理解が深まったりしていた。小学校だけでなく中学校でも継続して学習する意義は高いのではないかと感じた。
- 講義と体験に分けた活動は、メリハリがついてよかった。
- 蘭学が日本の近代化を支えたというまとめは、明治時代の近代化の学習をするときに生きてくると思う。
- 文明開化や産業革命、辛亥革命などについても、是非、授業化に向けて連携をお願いしたい。

博物館との連携

- 講義：博物館の収蔵品を映像資料として説明と合わせてスライド提示→視覚に訴え、理解しやすい。
- 体験：実物資料に触れ、さらに興味を引き出した。
- 同じ町内の小学校での出張授業を、さらに中学校では発展させている。継続的な関わりを持っている。



## 佐世保市立江迎中学校の対応

(2016年7月12日実施)

学芸グループ 松岡めぐみ

2016年度は「学問の広まりと化政文化」というテーマで、2年生の出張授業を行った。各クラス50分の中で、長崎で蘭学を学んだ代表的な人物についての講義のあと、渡り廊下に設置した体験コーナーに移動し、江戸時代の貿易品や解体新書、版木や渋紙(合羽摺りに使用する型紙)等を生徒たちに手にとってもらった。授業終了後には、先生作成のアンケートを取り、授業を経て浮かんできた質問や感想を後日送っていただいたので、後日書面で回答をした。生徒たちにとって、頭の中を整理するような時間も大切だ。そして博物館の我々にとっても、自分たちで気がつかなかった反省点や改善点を見つけられる。のみならず、何より子供たちの率直な言葉に刺激されて、次も頑張ろうという気持ちになれるものだ。

連携プログラムの学習テーマについては、とにかく子供たちの興味関心を高める目的で「長崎の歴史について」といったように、あまり内容を絞らないことが実際多い。一方で今回のように、かなり具体的なリクエストをいただくことが時々ある。それまで取り上げたことのないテーマであれば、館の収蔵品や地域の史跡といかに結びつけて紹介をするか、調べたり考えたりする時間が必要になるため、前者のほうが手っ取り早いといえそうである。だが、学校の先生に「これをやりたい」という明確な到達点を掲げられた時は、またとないチャンスなのである。博物館に勤めていても、当然知らないことはまだいくらでもあるのだから、時間と体力の許す限りは、お応えしたいと思っている。

中学生対象のアウトリーチ活動は、事情は様々と思われるが、小学校に比べるとかなり少なく、2016年度の出張授業は江迎中を含めて2件のみである。中学生ともなれば、教科書やメディアの情報を目にするだけでも、歴史の流れをよく理解し、それに対する自分の考えを持つ生徒もいるだろう。それから全員ではないにしろ、小学校の頃すでに博物館の出張授業や移動博物館を経験した生徒がいることもある。新たな活動を取り入れなくても困らないのかもしれないが、少し貪欲になってもらえるともっと嬉しい、と博物館の者としては考えてしまう。以前と全く同じ資料を見ても、中学生になった彼ら自身が知識的・感覚的に成長しているために、新しく気がつくことや興味を持つ点が少なからずあるだろう。実際に来館してもらった場合にも言えることだが、博物館の資料に「繰り返しふれる」ということには、それなりの意味がある。中学生のこの時期だからできることの価値がきっとあるはずだ。



## 2) 移動博物館

長与町立長与北小学校

2016年度

全学年	教科：社会・総合	単元名：長崎の歴史について	10月11日	3時間
実践校：長与町立長与北小学校		授業担当者：鈴山 裕司		
目標	歴史文化博物館の収蔵品を見たり学芸員からの話を聞いたりして郷土の歴史に興味を持たせる。 長崎の歴史について学ぶ。博物館の見学の仕方を知る。(6年)			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
事前指導 ・見学前の心得。		○出張授業の概要を知らせ、活動に興味を持たせる。 ○博物館でのマナーを確認させる。		
出張授業6年生 ・収蔵品の紹介、博物館の観覧についての講話。 ・展示物の見学。	1	○興味を持ったものをノートに記録させておく。	ノート	
移動博物館（全学年） ・収蔵品の見学。 ・各種体験活動。	1	○学級ごとに事前指導を行っておく。(担当が提案) ○担任も参加し、子どもの様子を観察する。		
活動を終えて	1	○調べてきたことをノートにまとめ、友達同士で交流する。(6年生)	ノート・交流の様子	
評価規準	(6年生) ・興味を持ったことについて調べ、ノートにまとめることができる。			
授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）				
<p>今回の移動博物館を通じ、改めて本活動の有意義さを感じることができた。児童が夢中になってパズルに取り組んだり、食い入るように資料を見たりと、意欲的に取り組む様子が見られた。学校での体験後に保護者と一緒にれきぶんを訪れた児童も数名おり、啓発にもなった。</p> <p>学校で本活動を行う上で一番大切なのは、職員にこの活動の魅力を伝えることではないかと感じた。該当学年の担任と事前打ち合わせをした際、移動博物館の魅力を伝えることが難しく感じる場面があったが、他校で実施された活動の様子や収蔵品のリストを見てもらうことでイメージを持ってもらうことができた。また、移動博物館を昼休みの時間帯に設定していたが、できる限り担任の先生方にも参加してもらうよう呼びかけ、参加してもらうことでよさを体験してもらうことができたように感じた。</p> <p>今後への提案としては、以下の点があげられる。</p> <p>○移動博物館見学ワークシートの作成 → より目的意識を持って活動できる。見学後達成感を持てる。 ○中学年社会「昔の暮らし」をテーマにした出張授業 → 体験した職員からの希望が多かった。 ○校内におけるパンフレット等の有効活用 → れきぶんに興味を持ってもらえるようパンフレットを活用する。</p> <p>当日のみ体験するのではなく、計画的に準備を進め、事後の活動まで設定しておくことで、更により活動になると思われる。来年度に向けて計画立案・環境づくりを進めていきたい。</p>				

## 長与町立長与北小学校の対応

(2016年10月11日実施)

学芸グループ 古豊裕次郎

学校活動としての来館はないが2015年度より毎年移動博物館を行っている。今年度(2017年)は、例年行っている長崎歴史文化博物館の資料に触れる移動博物館と合わせて、修学旅行で九州国立博物館に行かれるとのことで博物館見学の際のルールやマナーについて、展示資料の見方、見学の事前学習の仕方などについて授業を行ってほしいと要望があった。6年生2クラスが対象で、1クラス1コマ60分で最初にスライドを使って博物館を見学するときの展示資料の見方、見学の事前学習の仕方などを説明し、実際に博物館から持っていた資料を使って移動博物館を体験しながら、博物館のルールやマナーについて説明した。

博物館に行くのが初めての児童から、九州国立博物館に行ったことがある児童まで様々であるが、南蛮屏風や貿易品などの体験キットを使いながら長崎の歴史に触れながら、積極的に取り組んでいた。体育館をお借りして移動博物館を行っていたので、走りまわることが多いかと心配していたが、修学旅行前の事前学習と理解し実際の博物館と想定して走り回らず静かな声で相談したりと、見学のルールやマナーも守られていた。博物館から体育館の半分のスペースを埋めるぐらいの資料を持っていったので、昼休みをお借りして1～6年生まで全学年に移動博物館を自由に見ていただいた。6年生対象のときと比べると少し賑やかになったが、歴史の勉強もまだで長崎の史跡も聞いたことがあるぐらいの1・2年生の子から体験の仕方やこの資料がどういったものなのか質問もあり、物に触れてその資料から歴史を説明していくのも一つの手だと実感した。午前中に授業を受けた6年生が、見学している1～5年生にルールやマナーを教えている光景もあり、先生と何度も打ち合わせを行った成果があった。

今回の移動博物館では午後までの予定だったので、6年生と一緒に給食をいただいた。生徒達にとっては学芸員と直接関われる機会、歴史関係の質問から学芸員や博物館の仕事に関することなど様々な質問があり、私達にとっても貴重な時間となった。





評価標準	<p>&lt;社会科&gt; (本時)</p> <p>○進んでパズルを組み立て、出島の様子についての驚きや発見を書いたり発表したりすることができたか。(小6)</p> <p>○絵や写真を見ながら、鎖国時代の出島の様子や特徴をワークシートに記入し、鎖国の時代に長崎が果たした役割について気づくことができたか。(中2)</p> <p>&lt;総合的な学習の時間&gt; (本時)</p> <p>○触れていいものといけないものに気づき、展示品を大切に扱うことができたか。(小中学部)</p> <p>○郷土の歴史に関心を持ち、その良さをワークシートや表情、言葉などで伝えることができたか。(小中学部)</p>
------	--

学習活動の軌跡 (感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど)

<社会科> (出張授業5月22日 中2、小6合同)

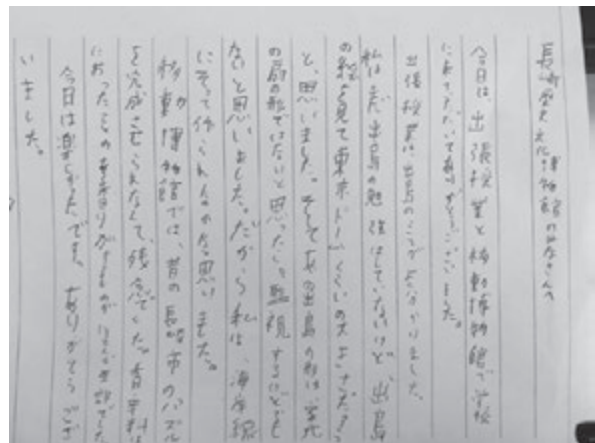
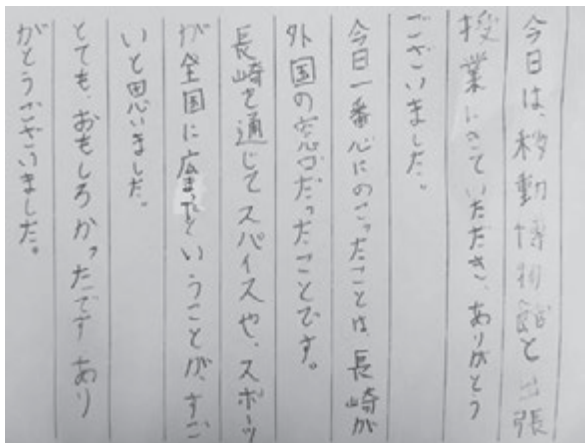
○パネルや大型テレビを使って、歴史の説明や、シーボルトとやってきた生き物の話など、楽しく学習できました。

○鎖国の時代の出島の様子を表したパズルを協力して作りました。  
たくさんの発見がありました！



○中学2年生の感想

○小学6年生の感想



○中2 事前学習PowerPointの画像より





○ 大村特別支援学校職員アンケートより

<出張授業や移動博物館での子供たちの様子で気づいたこと>

- ・とても楽しく見学や体験ができた。
- ・実際に、ものに触れ見ることは、とても重要だと思う。
- ・社会科や総合的な学習の時間がないクラスの子どもたちにも体験させたかった。
- ・実物に触れることで飽きることなく集中して学習に取り組んでいた。
- ・パズルが一番心に残ったと、子どもたちが言っていた。
- ・博物館のマナーも学ぶことができてよかった。
- ・1日ばかりでしか体験できないところを、こちらまで出向いてもらったので、凝縮していい体験ができた。ゆっくり楽しむことができた。
- ・教師も一緒に楽しむことができた。
- ・クイズやパズルなど子どもが楽しめる活動を取り入れてくださったのでよかった。
- ・「自分たちも歴史文や出島に行ってみたい。」「休み中に親に連れて行ってほしい。」と言っている生徒がいた。
- ・小3には少し難しかった。
- ・子どもたちが興味をもって学習できていた。楽しめていた。
- ・出張授業は、とても分かりやすい授業だった。(出島の大きさや、どうやって形作られたのかなど分かりやすい画像を使ってあった。)
- ・博物館について全く知らない子どもたちが知る機会になった。

<今後の活動の希望について>

- ・大村の歴史についても博物館と協力して学ばせたい。
- ・初めにビデオや紙芝居があって、事前学習を思い起こす活動があればよかった。
- ・平面図から立体模型を見せるなどすれば子どもたちの理解も深まると思う。
- ・長崎に関する歴史的な出来事についての学習。(島原の乱、坂本龍馬、明治維新、時代劇に出てくるお裁きの体験、世界遺産、キリスト教関連遺産についてなど)
- ・長崎の食文化についての歴史。
- ・鎖国の時代の学習をもう一度やってもいいと思う。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、成果、博物館との連携）

- 大村特別支援学校は、病弱特別支援学校である。心身の様々な障害や病気により登校が困難で学習空白がある生徒が多い。また、長崎県内に住んでいても地元の歴史を身近に感じている児童生徒は、わずかである。今年度は、歴史文の学芸員の皆さんに初めての移動博物館と出張授業を実施して頂いた。この学習を一つのきっかけとして、地域の歴史に関心をもち長崎の良さに気づいてほしいと考えた。
- 今回の移動博物館、出張授業を通して、日頃の学習では体験できない学習ができ、以下のような成果があった。
- ①視覚、臭覚、触覚などいろいろな感覚を通して体験学習ができた。
  - ②専門家から直接学び、知的好奇心を満たすことができた。
  - ③歴史文とのつながりができ、通常では手に入らない教材やデータを授業で活用することができた。
  - ④教科書だけでしか見ることがなかった文化遺産や、歴史を語る資料に触れることで、新たな感動をもち、地域の歴史を身近なものとして感じる事ができた。
  - ⑤高精度な画像や資料を提供して頂けたので、児童生徒は、資料の細部に注目できた。また、新たな発見があり意欲関心が高まった。
  - ⑥1日ばかりでしか体験できない内容を「博物館の宝物がやってきた」ことで実際出かけていくことが難しい児童生徒を含めて、負担が少なく、短時間で内容が濃い学習ができた。
  - ⑦パズルやクイズなど児童生徒が好きな活動を取り入れてくださったことで、遊びのような感覚でリラックスして学習に取り組み、楽しむことができた。
- 次年度の学習に取り入れたいこととしては、
- ①出張授業のときのワークシートの工夫をしたい。歴史文の学芸員の方と学習内容をもっと詳しく打ち合わせしておき、本校の生徒に見合うものを作成したい。
  - ②移動博物館のときに、ウォークラリーのようにスタンプカードや「今日の宝物メニュー表」等をあらかじめ準備する。そのことで、それぞれの展示物について学んだことを整理することができ、もっと意欲的に活動ができると思う。
  - ③中学部2年生は、感想文のみならず移動博物館や出張授業で学んだことをまとめるために、iPadで学習の様子を撮り、プレゼンテーションソフト等を使ってまとめ発表をしあう学習を取り入れたい。そのことによって、学習意欲がより高まり、もっと目的意識をもって移動博物館や出張授業に取り組めると思う。

## 長崎県立大村特別支援学校の対応

(2017年5月22日実施)

学芸グループ 古豊裕次郎

今年度(2017年)の5月に移動博物館を行う予定で前年度より計画していたが、年度替わりのタイミングで学校側の担当されていた先生が他の学校へ異動、当館担当学芸員の退職が重なりそれぞれが後任へ引き継ぎを行ったが、特別支援学校という観点から生徒達の学習理解を考慮して再度打ち合わせする必要がある、時間が限られている中で授業内容を構成した。新しく担当された先生が博物館見学の経験がなかったので、常設展示の解説、移動博物館、出張授業の概要や他の学校での取り組みを説明しながら、改めて学習内容を練り直した。こちらの特別支援学校は病弱教育をされているところで、大村市以外にも長崎県内とくに対馬などの離島から来ている生徒も多い。今回は普通学級のような学年ごとではなく、小学6年生1名、中学2年生3名への1コマ50分の出張授業、その4人に小学3・4年生4名、中学1・3年生13名を加え2コマの移動博物館を行うことになり、出張授業では江戸時代に海外と交流する長崎の役割について出島や長崎貿易の説明、移動博物館では博物館を利用するためのルールやマナー、長崎の歴史や文化への興味関心を持たせてほしいと要望があった。

出張授業では、小学6年生と中学2年生と学年の違う生徒への授業なので、授業内容としては小学生に合わせ、中学生は復習という形で出島に関する絵を紹介し、出島パズルや漢方薬などの貿易品を使って実際に匂いをかいだりと、体験しながら授業を行った。小学6年生にとってはまだ学習していない範囲だったが、自分の住んでいる長崎が歴史の中で重要な場所であったと興味を持っていた。中学2年生は事前に知識もあり、資料の細かいところまで観察しながら、出島での長崎とオランダとの関わりについて、改めて理解していた。移動博物館では小学3～6年生と中学1～3年生の2グループに分けて、小学生のグループは資料を使いながら博物館でのルールやマナー、資料の見方、長崎にある史跡の紹介を中心に、中学生のグループでは南蛮屏風や寛文長崎図屏風、長崎港之図、出島や唐人屋敷に関する絵を見ながら、生徒達の気づきを引き出しながら授業を行った。

病弱教育の特別支援学校ということで、当日朝ぎりぎりまで参加できる生徒が分からないという中での開催で、学校に到着した際は欠席者が多いと伺ったが授業が始まる前に全員出席できることになり、特別支援学校で移動博物館、出張授業を行うときは学校との連携や打ち合わせがより必要だと感じた。生徒達からの授業後の感想をみると、体験できるものが多く教科書だけでは分からなかったのでイメージできてよかったとあり、今後さらに工夫できる部分がないか検討したい。



高1～ 3年生	教科：生活単元学習	単元名：移動博物館を利用し、歴史的な視点から地域の特色を知ろう	12月	7時間
実践校：長崎県立佐世保特別支援学校高等部上五島分教室		授業担当者：河村 徳明 他4名		
目 標	<p>○キリスト教伝来、上五島へのキリスト教の広まりについて学習し、新上五島町の文化を理解する。</p> <p>○博物館を見学するマナーを理解し、利用の仕方について学ぶ。</p> <p>○博物館を見学し、学芸員の説明を聞いたり体験したりすることで、学習態度を身に付け学習意欲を高める契機とする。</p>			
	学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
	1 禁教、貿易統制に至った経緯について理解する。	2	<p>○時代背景を歴史上の人物の写真（織田信長、豊臣秀吉、徳川家康）を見て、時代を大まかに理解させる。</p> <p>○禁教、貿易統制に至るまでを iPad で調べたり話し合ったりしてまとめる。</p> <p>○大村藩での事件と隠れキリシタンが五島に移住したことの関連を知り、明治時代になりキリスト教の信仰ができるようになったことを理解させる。</p>	評価 ② 社会科（地歴）
	2 博物館を見学するマナーや利用の仕方について学習する。	1	○マナーについて、一覧表にして配付し、確認させる。	評価 ③ 社会科
	3 移動博物館	2	<p>○博物館利用のマナーについて確認する。</p> <p>○自由見学のとき、長崎歴史文化博物館の方の説明を生徒に確認する。</p>	評価 ①②③ 社会科
	4 振り返り	2	○アンケート（生徒の自己評価）に記入させる。	評価 ② 社会科、国語科
評 価 規 準	<p>①興味のあるものを見学したり、ものに触れて体験したりすることで、歴史的な事象等に関心を高めることができたか。</p> <p>②禁教、貿易統制に至った経緯やキリスト教から新上五島町の文化の特色について理解し、文章等で表現することができたか。</p> <p>③博物館見学のマナー、利用の仕方、また、なぜそのようにするのか理由について理解し、それを守って利用したか。</p>			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

生徒の感想



- 眼鏡橋をつくることやパズルをすることができて楽しみながら勉強になった
- パズルを組み合わせたたり、眼鏡橋を組み立てたりするのは難しかったけどとても楽しかった
- いろんな香りが入ったピンの香りがきつかった
- 刀のつばに何か意味があることや昔の人もおしゃれが好きだったなどおもしろいことを知ることができて楽しかった
- 刀を触ることができてうれしかった
- 今までこのような体験をしたことがなかったのとても楽しかった
- 長崎の歴史を知ることによって日本の歴史について小・中学校のときよりも興味関心をもつことができた
- 昔の菓の説明などわかりやすかった
- 質問に丁寧に答えてもらって、ありがたかった

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- 生徒たちは、展示物についての解説を聞いたり体験活動をしたりすることで、興味深く、楽しく取り組むことができた。  
生徒は自由見学の時間に、長崎歴史文化博物館の方にわからないことを質問して理解しようとする者、体験できるものに次々に取り組む者、展示されている肖像画を見ながら絵を描く者など、思い思いの楽しみ方で活動した。
- キリスト教や南蛮貿易から、新上五島町との関連がわかりづらく、歴史や文化から自分たちの生活との関連を知ることは難しかった。  
その要因として
  - ・移動博物館の事前、事後学習の時間を十分にとれなかった。
  - ・移動博物館での新上五島町の文化との関連を具体的に示せなかった。
  - ・事前学習でキリスト教と貿易の2つを取り扱ったが、学ぶ視点が絞れなかった。
 このようなことが考えられる。

博物館との連携

- 体験できるものがあるとより効果的  
伝統文化を学習する場合、知識を理解するだけでなく、体験することと併せて取り組むことで、理解が深まる傾向にある。
- 展示物を見るポイントを明確にする  
見るポイントを示した案内図、リーフレットなどを作成し配付する。

## 長崎県立佐世保特別支援学校高等部上五島分教室の対応

(2017年12月15日実施)

学芸グループ 古豊裕次郎

離島の新上五島町にある佐世保特別支援学校高等部上五島分教室より、学校が離島にあるのと特別支援学校であることから博物館まで行くのがなかなか厳しいとご相談を受け、移動博物館を行うことになった。「キリスト教の伝来から上五島へのキリスト教の広まりについて、新上五島町の文化を理解させる」を目標に担当の先生と打ち合わせる中で、こちらの特別支援学校では知的障害のある生徒への教育をされており、他の先生方から深いところまで理解させる学習は難しいのではないかと声があった。これまでも博物館では視覚障害や肢体不自由、病弱教育を行っている特別支援学校の対応があったので、特別支援学校の先生や博物館と連携しているパートナーズプログラムの先生にご相談しながら授業内容を構成した。先生方のご意見を参考に、キリスト教の伝来から上五島へのキリスト教の広まりを中心に南蛮屏風(印刷)や踏絵(レプリカ)、伊東マンショなりきりセットなど授業内容をイメージしやすい物を取り入れ、博物館を見学する際のルールやマナーなど利用の仕方について授業を行うことにした。



授業の初めに長崎歴史文化博物館の概要を説明した際に、生徒の多くが博物館への来館経験があり授業により興味関心を示してくれた。子ども向け、家族向けの企画展へ来館した生徒がほとんどで常設展示を見た生徒はいなかったため、授業で扱う資料一つ一つが初めて目にするもので積極的に質問があった。上記にあげた南蛮屏風や踏絵、伊東マンショなりきりセット以外にも、出島パズルや眼鏡橋



の積み木、貿易品(鮫皮、漢方薬)など手で触れたり匂いをかいだり体験できるものを多く取り入れ、長崎の歴史や文化をイメージさせながら授業を行った。その後自由に見学してもらいながら、生徒達からの質問に答えたが絵の細かいところまで観察しており鋭い質問をする生徒もいて、知的障害のある生徒への教育をされている特別支援学校でも十分に移動博物館や出張授業を行えると手応えを感じた。自由見学を見ていると、通常の移動博物館ではあまり見られない資料をスケッチしている生徒がいた。気に入った絵を集中して描いていたので、問いかけると細かく観察しており質問が多くてきた。通常の移動博物館でも質問はするが、自由見学が進むにつれて集中力が切れる生徒がおり、学級全体が最後まで集中して積極的に授業に取り組んでいた。

今回の移動博物館では、担当の先生との打ち合わせはもちろんのこと、担当の方以外のご意見も取り入れながら授業を行い、移動博物館に参加した生徒の学習態度もよく授業後の感想を見ても理解している様子だった。次年度の開催希望もあるので、長崎の歴史に自分達が住んでいる町(新上五島町)がどのように関わっているなど少し踏み込んで授業を行えたらと考えている。

### 3) 出張授業と移動博物館

長崎市立形上小学校

2016年度

6年生	教科：社会	単元名：社会《出張授業と移動博物館》	9月	3時間
-----	-------	--------------------	----	-----

実践校：長崎市立形上小学校	授業担当者：野田・深堀
---------------	-------------

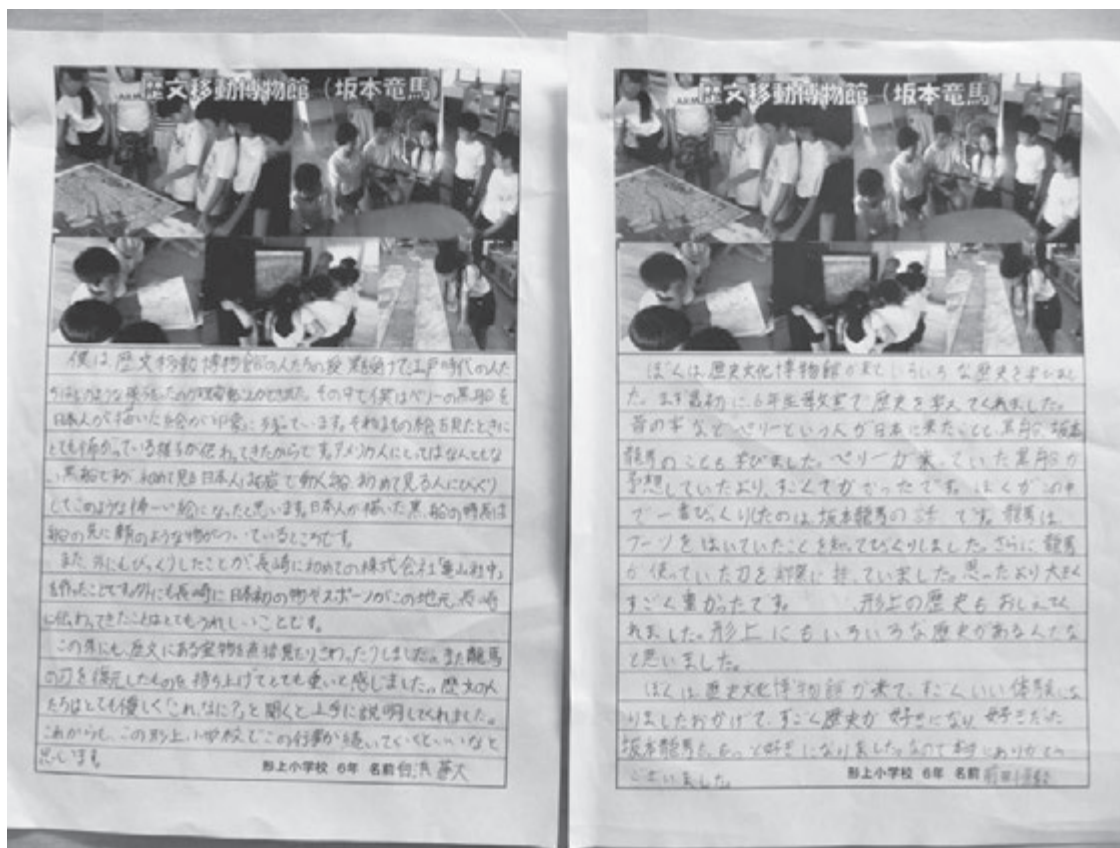
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歴史や長崎学への興味を持たせる。</li> <li>・ 郷土形上の歴史に関心を持たせ、郷土愛を育む。</li> <li>・ いろいろな仕事があることを知り、これからの自分に生かさせる。</li> </ul>
--------	--

学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出張授業で江戸時代の終わりの頃について説明を受ける。</li> <li>・ ベリー来航</li> <li>・ 長崎の様子</li> <li>・ 坂本龍馬</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が興味を持てるように、具体物や絵などを見せてもらったり、触れさせてもらったりする。</li> <li>・ ペリー提督の浮世絵など当時の人々が捉えた外国人の姿を考えさせる。</li> <li>・ どの児童も聞いたことがあったり、少し知っていたりする坂本龍馬から学習意欲、興味を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育</li> <li>・ 国語科作文指導</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移動博物館で長崎の歴史や貿易についての関連品などを見学する。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で聞いたことに関連する品物や坂本龍馬に関する物を見たり、触ったりさせる。</li> <li>坂本龍馬の所持日本刀レプリカ（脇差も）</li> <li>・ 実物に触れることで、感じたことを記録させる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業を受けたり、実物を触ったりしたこと。博物館の人との交流で感じたことをまとめる。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2時間の学習で感じたことや思ったことを                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○学んだ内容からの感想</li> <li>○博物館の先生方の感想</li> </ul>                             に分けてまとめさせる。                         </li> </ul>	

出張授業・移動博物館の様子



学習しての感想、写真など



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

- ・ 龍馬の刀セットはとてもインパクトがあった。
- ・ 実物に触れることが学習への興味を育てる。
- ・ 時間に制限があるので、何でも入れてしまうところがある。
- ・ 博物館の仕事について解説する時間があると子どもの世界が広がる。

博物館との連携

博物館の見学

- ・ 展示物に限りがあるので、時代や分野を限定していくと効果がより上がると思われる。
- ・ 受け手の児童の関心を引くようなものがあると強いインパクトがある。
- ・ やはり博物館の見学が望ましい。
- ・ 体験的な活動が入れば、学習に幅が出ると思われる。

## 長崎市立形上小学校の対応

(2016年9月29日実施)

学芸グループ 松岡めぐみ

形上小学校では、学校活動としての来館はないが、2015年度に移動博物館（4～6年生対象）、16年度は6年生の出張授業と移動博物館（3～6年生）、17年度は5・6年生それぞれの出張授業と移動博物館（全校児童対象）というように、年度ごとに少しずつ連携プログラムの規模を拡大してきている。2016年度は先生のご提案により、6年生が歴史に興味を持ってそうなテーマとして、坂本龍馬の長崎での活躍を取り上げることになった。龍馬のように誰でも名前を知っていてなんとなく「カッコいい」イメージがあるが、「どうしてこの人物がすごいのか？」と聞かれると案外はつきり答えられない、ということはよくある。そこで、この年の冬に当館で特別展「没後150年 坂本龍馬」を控えていたこともあり、幕末の歴史を大まかに紹介しながら、龍馬の「すごさ」を少しでも具体的につかんでもらうことを目標とした。

授業の初めにはまず、自分たちの住む地域と歴史のつながりに実感が湧くよう、形神（形上）の地名が記された「慶長国絵図」を見てもらった。また、出島や唐人屋敷が作られた頃の「長崎港之図」を導入として、江戸時代にさまざまな人・物・情報の窓口であった長崎、つまり龍馬が行きたいと思っていた長崎を思い浮かべる。そして、実物資料として、龍馬の刀と脇差（模造刀）、海援隊の発行した英語の教科書「伊呂波便覧（複製）」を紹介し、実際に手に取ってもらった。出張授業の当日までに、社会科の授業が幕末の内容まで進んでおらず、なかには難しいと感じる部分もあったかもしれないが、これから学習することに期待が膨らんだだろうか。

学校外の人と直接話し、資料をさわるといっただけでも、面白いと感じたことが子供たちの印象には残るかもしれないが、これはまだほんのきっかけである。中学や高校へ上がってからでもいいので、興味を持った場所にはぜひ足を運んでもらいたい。あの時楽しかったな、と完結せずに、大人になっても博物館を「色々学べる場所」「時々行きたい場所」として身近に思ってもらえればと願っている。



慶長国絵図(部分)



## 4) 貸出教材

長崎市立川原小学校

2015年度

5年生	教科：外国語活動	単元名：韓国文化体験講座	11月～1月	6時間
実践校：長崎市立川原小学校		授業担当者：加藤 尊城		
目 標	<p>①全3回実施の講座を通し、隣国韓国に対する知識を広げる。                  ②韓国に対する知識を広げ、理解を深め、親睦の情を育む。                  ③複数回の学習活動を通じ、講師との人間関係を深める。(教材の人間化)                  ④①から③の目標に迫ることにより日本と韓国の類似点、相違点に気付くことで、歴史や文化のおもしろさを感じ取り、自国の歴史や文化に興味をもったり国際理解に対する積極的な考え方を身に付けたりする。</p>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
○事前打ち合わせ	実施決定通知到着後	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初、学校配布文書として講座申込の要領と様式が届くので、それに従って火急速やかに申請を行います。 実施決定の知らせが届いたら、観光課に連絡を取って適宜スケジュール調整し、全3回の講座についておよその内容を検討、打ち合わせを行いました。</li> <li>今年度は、一昨年度、昨年度に続いて3回目の取組で、かなり具体的にイメージが共有されていたため打ち合わせも至ってスムーズでした。 この時点で、歴史文化博物館からの教材借受も織り込み済みで講座計画を立案しました。</li> <li>第1回講座は「韓国という国、韓国の暮らし、言葉」をテーマにしました。</li> </ul>		
○事前確認	講座1週間前程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話で、窓口担当の職員の方と最終確認を行いました。</li> <li>講座会場、およその流れ、学校側の準備物などについて確認しました。</li> <li>第2回・第3回講座前にも同様の確認を行いました。</li> </ul>		
○学習準備に取りかかる。	当日 昼休み	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師来校の時刻は「昼休み終了近く」と確認済みでしたので、児童らを教室から出して歴史から拝借した教材を搬入し会場準備に取りかかりました。</li> <li>児童らには授業本番を楽しみにして、昼休みは外で遊ぶなどしておくよう期待感をもたせて送り出しました。</li> <li>第2回・第3回講座前にも同様の手順を踏みました。(ただし、第3回は授業会場が家庭科室でした。)</li> </ul>		
○第1回講座実施	2	<p>平成27年11月6日 5・6時間目                  *午前中5時間枠の曜日です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前打ち合わせ、事前確認に従って授業が実施されました。 実施2年目ということもあり、歴文貸出教材の効果をより大きく引き出すことができたと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会科、道徳「国際理解」</li> </ul>	

○第2回講座実施	2	平成27年12月18日 5・6時間目 ・ 学習テーマは「 韓国の遊び 」でした。 韓国の伝統的な遊びを中心に、韓国の子もたちが学校で休み時間を楽しんでいる遊びなども紹介されました。	・ 社会科、道徳「 国際理解 」
○第3回講座実施	2	平成28年1月22日 5・6時間目 ・ 学習テーマは「 韓国の料理 」でした。 昨年度は、韓国でポピュラーな手作り料理「 チヂミ 」を作りました。 一昨年度が「 ホトック」、昨年度が「 サンジョク 」というように毎年メニューを変えてきました。	・ 社会科、道徳「 国際理解 」 ・ 家庭科「 安全、清潔な調理 」
評価標準	<p>①全3回の講座を通し、隣国韓国に対する知識をより積極的に広げようとしたか。</p> <p>②講座学習によって知識が広がり、韓国に対する理解、親睦の情を深めることができたか。</p> <p>③複数回の学習活動を通じ、講師との人間関係を深めることができたか。</p> <p>④①から③の目標に迫ることにより日本と韓国の類似点、相違点に気付くことで、歴史や文化のおもしろさを感じ取り、自国の歴史や文化に興味をもったり国際理解に対する肯定的、積極的なイメージをもったりすることができたか。</p>		

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

※ 本レポートでは、歴文の体験教材、学習教材を用いた第1回講座の活動についてまとめておきます。  
なお、画像中、児童の顔や名札など個人を特定する恐れがある物については加工を保護しております。御理解ください。

○実施日；平成26年9月25日 14:10～15:45（5・6時間目）

○実施場所；長崎市立川原小学校5年教室

○講師；長崎市経済局文化観光部国際課 国際交流員 宋炳天（ソン・ピョンチョン）さん

○授業の様子

（1）配置



前年度以降、

「子どもたちと、より1対1に近い環境を作りたい。」

という講師の思いから、講師席を中心に半円形を描くように児童席が配置されました。

今回は、講師も伝統衣装を身につけて授業。子どもたちへのアピール度がグンと増しました。



(2) 講師準備教材

講師による準備教材はほぼ例年通りでした。

黒板に

- ・ 韓国地図
- ・ ハングル表

黒板手前机の上に

- ・ 韓国人形（男女ペア）
- ・ 日韓ミニ国旗

これに加えて、自分の名前をハングルで書くためのワークシート、お札や硬貨、食器や箸なども御用意くださいました。

(3) 歴史貸出教材

今回、歴史から拝借した教材は、毎年お世話になってきた「韓国体験バック」とでも呼ぶべきパッケージ。教科書、通学バッグ、文房具（筆箱、色鉛筆、カラーペン、鉛筆削り、各種ノート等）、教科書、学習参考書、伝統的衣装（チョゴリ、ハンボック類）でした。これらが一抱えほどのパッケージに収められており、持ち運びやすい状態で準備されていました。貸出待機状態で常備されている機動性の高さが、利便性を向上させています。



貸出教材は、教室後方出入口付近に配置しました。

伝統衣装は、出入口脇に掛けたり、簡易な洋服掛けにハンガーで吊しました。



教科書類は教室後方整理棚の上に並べました。

文房具類は、給食配膳台の上に並べました。

いずれも、子どもたちが自由に手にとって見るようにしました。

「極端に破損、汚損しない限り、子どもたち自身に触れさせたり身に付けさせたりしていただいて構いません。」

という極めて寛大な貸出条件だったからこそできたことです。



衣装も効果が大きく、会場に映えました。今回は授業内容に「螺鈿細工体験」を入れたために試着体験を割愛せざるを得ませんでした。韓国の「調和」を重んずる文化性を端的に表現している衣服を実物で確認できた効果は大きかったです。

今回は今までのよりも展示期間を1週間延ばし、子どもたちがゆっくりと手にできるよう配慮しました。

#### (4) まとめ

韓国文化体験講座は3回実施で1セットというカリキュラムにしています。

第1回が第2回や第3回と比べて「試す、行う」という実技的要素が少ないため、より多くの実物を用意して体験的要素を高める必要があることは昨年度報告したとおりです。

本授業実践も3回目となり、講座全体の基本的フレームが確定することで講師、授業者共に授業イメージの共有がほぼ完成域に達したと思われます。貸出教材の活用も指導計画の中にしっかりと位置づけられました。

毎度のことながら、「本物」の持つ力は大きいです。

「本物」の活用…これこそが重要な鍵です。

#### 授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

##### ○成果

- ・ 過去2年間の実践を積み上げ、講師と教材に対する共通理解がより深まることで阿吽の呼吸のようなものができていた。講師、授業者双方の授業イメージが揃っていたため、微調整に関しても何をどうすれば良いのか齟齬なく理解、実行することができました。
- ・ 3回の実践を通して確認できたことは、月並みな言い方ですが「本物」に触れることの意味です。毎回のことですが、「極端に破損、汚損しない限り、子どもたち自身に触れさせたり身に着けさせたりしていただいて構いません。」という歴文の貸出方針はたいへんありがたいものでした。今回は、展示期間を授業後1週間と長目に取り、子どもたちが十分に手にとって見るができるようにしました。

##### ○課題

- ・ 3回の実践では、毎回、内容や運営を見直し、調整を加え続けてきました。「韓国のどの点について、どういった方向から、どの程度アプローチさせるか。」という検討を加え続けてきました。今回は韓国の伝統工芸である螺鈿（らでん）細工の体験作業を盛り込んだため、ハンボックの試着を割愛するなど時間的制約上の選択を迫られる面もありました。児童に提示する体験教材の裾野が広がったために生じた「嬉しい悲鳴」とも言えますが、授業者としては残念でした。
- ・ 昨年も報告しましたが、伝統衣装のサイズと数の増加、遊び道具の拡充、生活用品の増加（貨幣、紙幣、箸、茶碗など）などが促進されることを願ってやみません。教材の拡充が、授業の切り口をより豊かに広げるからです。

##### ○その他

- ・ 昨年度の報告でも述べたとおり、「物」＝教材の質もさることながら、「人」＝講師の質が学習成果に大きく影響します。講師が各講座の冒頭で必ず「おさらい」をしてくださるなど、各講座がぶつ切りにならないよう、「学習の連続性」を重視し、かつ効果的にそれが実現するよう指導法、教材提示を工夫してくださいました。そのお蔭で、子どもたちは3回の講座内容を「1つのもの」として認識し、理解を広げ深めることができました。
- ・ そして、これもかつて申し上げましたが、今までの歴文の学習プログラム…博物館見学、デリバリー・ミュージアム、出前授業、フィールドワーク（中国文化を訪ね歩く）、またそれらのコンビネーションプログラム…にも通じることだと気付きました。「本物の教材 × 本物の人材」実践の積み重ねは、外部連携授業の黄金律をいよいよ強く認識させてくれました。今後もこの黄金律を念頭に、外部連携授業の可能性をさらに広げていきたいものです。

## 貸出教材について

学芸グループ 出口 幹子

長崎歴史文化博物館では、これまでに長崎の海外交流史に関する企画展を実施してきた。平成24年度に開催した「中国福建博物院展」では歴史展示を用いて、地理的異文化（長崎と福建）と時間的異文化（過去と現在）をつなぐため、展示以外にも多くの体験コーナーを設けた。その中には福建省で購入した教科書や学用品などを並べて、自由に触れてもらう場を作った。展示を見るという受動的な行為だけではなく、子どもたちにとって身近なものを触るという能動的な行為を通して、現在の福建省についても興味を高めてもらいたいと考えたからである。

会場では普段使っている教科書や学用品と比較しながら、興味深そうに体験コーナーのものに触れる子どもたちの姿が多く見受けられた。

また平成25年度に開催した「対馬藩と朝鮮通信使展」でも、韓国で購入した学用品や学習教材、民族衣装をもとに体験コーナーをつくり、自由に触れたり、着用したりできる場を設けている。

教科書や学用品など自分たちの身近なものに触れる異文化理解教育への反響は大きく、これらの学用品は、企画展終了後に学校団体を対象にした貸出教材として活用することとなった。

長崎市立川原小学校では5年生の「韓国文化体験」という外国語活動で、国際交流員から韓国の言葉や暮らし、遊び、料理を学ぶといった授業に、韓国で購入した衣装や学用品の貸出を行った。これらの教材は体験コーナーと同様、触れたり着用したりすることができるため、講師から説明を受けながら学用品や衣装に触れることで、韓国についての理解を深める一助となったようである。

これらの教材は当初、企画展の体験コーナーでの活用に向けて揃えた物であるため、現在の中国や韓国の子どもたちの生活の一部分を表している物にすぎない。しかしこれらの教材を通して、異文化に興味を持つきっかけになるように、今後も貸出教材の普及につとめていきたい。



### 3. 学校と博物館でおこなうプログラム

---

学校と博物館でおこなうプログラムについて	60
1) 出張授業と来館	
・ 長崎市立滑石小学校	62
・ 佐世保市立江迎小学校	67
2) 移動博物館と来館	
・ 佐々町立口石小学校	70
3) 複数回にわたっての連携	
・ 佐世保市立日野小学校	74
・ 長崎市立川原小学校	79

# 学校と博物館でおこなうプログラムについて

学芸グループ 出口 幹子

## 1. はじめに

当館では、学校団体が来館時に利用できる「博物館でおこなうプログラム」と博物館職員が学校に伺っておこなう「学校向けプログラム」を柱に、学校と連携した教育普及活動を展開してきた。

学校と連携した活動をおこなう場合には、プログラムを単独で利用する学校が大半であるが、一部の学校では出張授業や移動博物館といった「学校でおこなうプログラム」を来館前の事前学習と位置づけ、来館と組合わせて活用する学校も増えつつある。

また当館でおこなう博学連携事業「パートナーズプログラム」参加者の学校では、移動博物館、出張授業、来館の3つの活動を組合わせたり、博物館が年間を通して総合的な学習の時間に携わって活動する学校もある。

## 2. これまでの利用状況について

学校と博物館で行うプログラムを組み合わせる場合、長崎市内の学校では、総合的な学習や社会科の中での利用が多く、長崎市外では修学旅行と連携させた活動として実施されている。その多くは事前学習として出張授業や移動博物館を取り入れることで、歴史についての興味や関心を高めた後に来館するという場合が多い。

これまでは、「パートナーズプログラム」参加者の学校を中心に、上述のような活動が行われてきたが、平成28年度から長崎市では「『長崎の宝』発見・発信学習推進事業」がはじまったことを受けて、長崎市内の小中学校での利用が急増しつつある。

## 3. まとめ

本章では、出張授業と来館、移動博物館と来館、移動博物館+出張授業+来館、出張授業+町あるき+来館+貸出教材+出張授業を組合わせた実践を報告する。

長崎市立滑石小学校は、出張授業を学習の導入に位置づけ、長崎の歴史文化への関心を高めたあとに来館し、調べ学習を通して次の活動へとつなげた。また修学旅行の事前学習として佐世保市立江迎小学校では出張授業を、佐々町立口石小学校では移動博物館をおこない、博物館見学を含む修学旅行の活動につなげている。

佐世保市立日野小学校では、修学旅行の事前学習のきっかけとして移動博物館を実施し、子どもたちの関心を高め、出張授業で長崎の歴史や史跡について学習してから修学旅行で来館をしている。また博物館ともっとも多く連携したのは長崎市立川原小学校では、年間を通して、総合的な学習の時間に関わった活動を行った。

これまでパートナーズプログラムの意見交換会の中では、博物館と連携した活動をおこなう場合には、プログラムを組合わせて連携することで、より子どもたちの学習効果が高まるのではないかという報告がされてきた。複数回にわたって連携するメリットは、繰り返し学習をすることで、学習内容の定着化がはかれるということであり、また同じ職員と繰り返し接することで、学習課題に「人」という視点が加わり、学習課

題が子どもたちにより深く馴染むという。

複数回の連携にあたっては博物館側としては、「授業の目的」や「学習段階」、「子どもたちに伝えるべきこと、逆に触れて欲しくないこと」などを、授業のデザインや、子どもたちの状況がある程度掴んでおきたいと思う。それは授業や博物館見学が全体の学習の中で、どの段階であるかをあらかじめ知っておくことで、子どもたちに伝える情報の量や内容を調整し、より学習の流れに沿った活動に繋げて欲しいからである。

複数回にわたる連携をされる先生方は、博物館を使った授業のデザインが明確であるため、事前の打ち合わせや共通理解を持って活動に望むことができている。今後も先生方が発案される博物館を使った試みに柔軟に応え、教職員と博物館職員が連携協働して、子どもたちが歴史にふれるきっかけを数多く作るができるよう、活動をしていきたい。

# 1) 出張授業と来館

長崎市立滑石小学校

2015年度

6年生	教科：総合・社会	単元名：歴文見学をいかした和華蘭長崎滑石っ子さるく	5月～1月	40時間
実践校：長崎市立滑石小学校		授業担当者：南部 弥生、玉野 宏		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史に興味をもち、進んで調べたり、長崎の果たした役割を理解したりして、歴史学習への関心を深める。</li> <li>・学んだことや考えたことを表現することができる。</li> <li>・教科書掲載や長崎歴史文化博物館が所蔵している資料の見方を知り、活用することができる。</li> <li>・調べたことをまとめ発信することを通して、郷土を愛し、守り続けていこうとすることができる。</li> </ul>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
5月15日 1 長崎の文化や歴史の概要について知る。	2	○長崎歴史文化博物館の出張授業で、長崎の文化や歴史の一端に触れ、興味をもたせる。 資料「南蛮人来朝之図」 資料「寛文長崎図屏風」	(1)	
2 長崎の歴史について調べる。	3	○長崎の歴史について、話を聞いたり、パソコンや資料、ワークシート等を使って調べたりして、日本の歴史の中での長崎の重要性について知る。	(2)	
3 自分のテーマを決め、調べる計画を立てる。	1	○学習したことをもとにして、さらに深めていきたい自分のテーマを決め、調べる計画を立てさせる。	(1)	
5月27日 4 長崎歴史文化博物館を見学し、テーマに沿った調べ学習を行う。	7	○テーマ別に見学したり、学芸員やボランティアに質問したりして、自分の疑問や課題を解決、検証させる。 ○分かったこと、気づきや発見したこと、新たな疑問や課題を明確にして、実際にさるくで本物を見て調べていくことを確認させる(新聞にまとめる)。	(1)(2)	
9月9日～9月10日 5 修学旅行で体験活動をする。	5	○熊本の歴史や自然を生かし、郷土を大切にしている人々と交流することで、長崎との共通点や違いを確認させる。	(2)	
10月27日 6 「和華蘭長崎 滑石っ子さるく」をする。	7	○コース別に、自分の疑問や課題を解決、検証させる。	(1)(2)	
7 「和華蘭長崎滑石っ子さるく」の発信の仕方を考え、発信する。	6	○相手意識をもって、学んだことを分かり易く発信させるために、新聞やプレゼンテーションを作り、発信する。	(3)(4)	
8 滑石っ子発表会で発信する。	8	○できるだけたくさんの人、特に低学年にも分かるように劇化して発表させる。	(3)(4)	
9 学習のまとめをする。	1	○これまでの学習を振り返り歴史学習のまとめをさせる。	(4)	
評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 長崎の歴史や文化に関心をもち、自分の追求したい課題を見つけ、その課題に沿って多面的に考え、主体的に追求することができたか。(課題を設定する力)</li> <li>(2) 設定した課題に対する自分の考え方を明確にし、見通しをもって追求し、課題を解決するために必要な情報を交換し、ともに協力しながら活動することができたか。(問題を解決する力)</li> <li>(3) 調べたことを分かり易く伝える方法を選び、効果的にまとめ伝えることができたか。(表現する力)</li> <li>(4) 学んだことを基に、他の学習や生活に活かしていこうとすることができたか。(活かす力)</li> </ul>			

1 5月15日出張授業



興味津々で話を聞き、クイズに答え、資料に見入る児童。

2 5月27日 長崎歴史文化博物館見学



事後に新聞作成。交流することで知識を共有していった。



中国と長崎の強い結び付きや、青貝細工の美しさ、解体新書に奉行所と興味は尽きるところを知らず

出張授業でみた屏風の本物に歓声があがる。南蛮屏風の大きさに目を丸くしていた。奉行所では自分が裁かれているようでドキドキしたとのこと。「歴史が好きになったのでまた歴史文に来ます。」とひたすらメモしていた。

3 10月27日 和華蘭長崎 滑石っ子さるく



旧グラバー住宅



事後に新聞作成。交流することで知識を共有していった。



出島で外国人にインタビュー。英語力をフルに活用。長崎の良さを再発見できた。

ほとんどの史跡が初めて行った所ばかり。歴史文で学んだり調べたりしていたが、実際に目で見て、こんな素晴らしいものが身近にあったとは。長崎がますます好きになった。

4 1月31日滑石っ子発表会



崇福寺



旧グラバー住宅



唐人屋敷

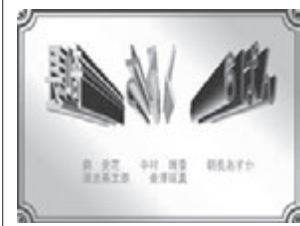


眼鏡橋



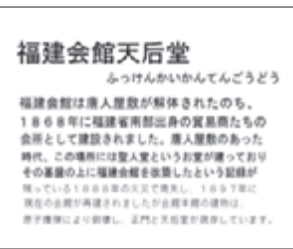
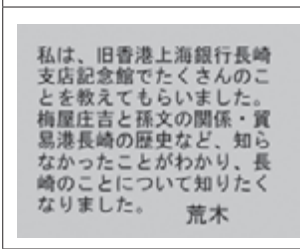
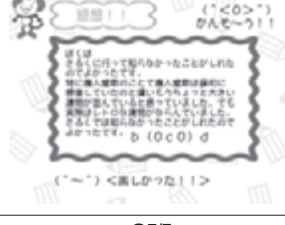
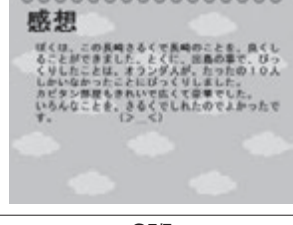
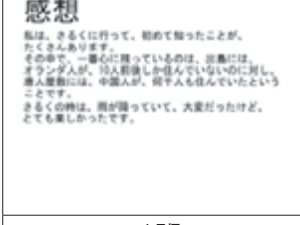
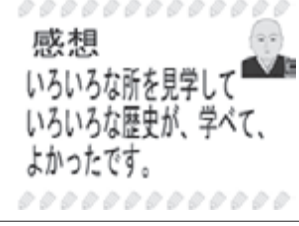
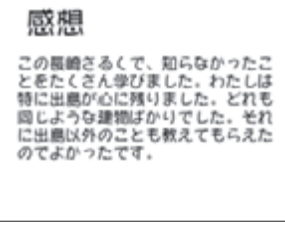
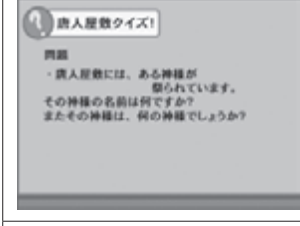
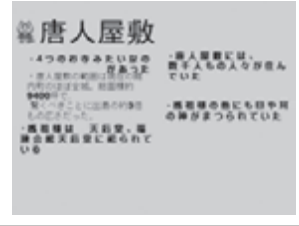
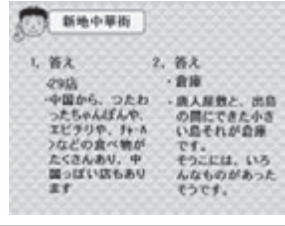
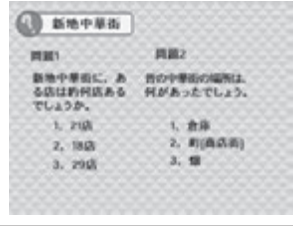
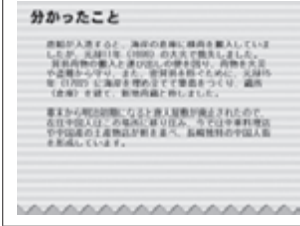
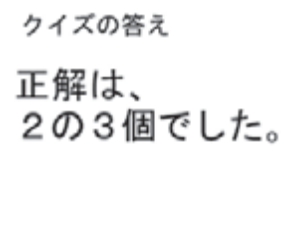
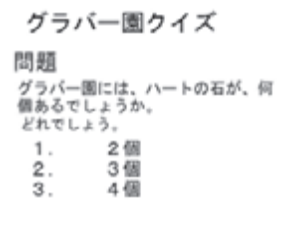
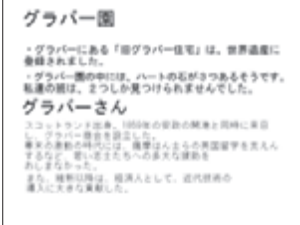
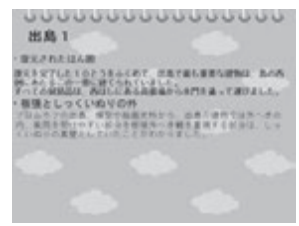
5 児童が作ったプレゼンテーション

6班



**発表内容**

1. 出島 9. 唐人屋敷
2. 出島 10. 唐人屋敷クイズ
3. 出島クイズ 11. 出島 感想
4. 出島クイズ 12. 出島クイズ
5. グラバー園 13. グラバー園 感想
6. グラバー園クイズ 14. 新地中華街 感想
7. 新地中華街クイズ 15. 唐人屋敷 感想
8. 新地中華街クイズ



授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

- 日本の歴史を学ぶ6年生だが、滑石小の児童は長崎の歴史についてあまり知らず、興味もさほどなかった。ましてや長崎歴史文化博物館なんて敷居が高く、ほとんどが行ったことがなかった。そこで、長崎の過去と現在をつなぐ学習を行い、日本の歴史を語るうえで、長崎の重要性について知らせたいと出口さんと相談し、打ち合わせを入念に行った。1回目は出張授業で歴史学習に興味をもたせるきっかけを作っていた。2回目に実際に1日ばかりで長崎歴史文化博物館見学を行い、資料の読み解きや、触れたり匂いをかいだりすることを通して、歴史学習への興味関心を高めることができた。特に児童は、自分達にも分かり易いようにコーナーを設けていて、タブレットや解説付きのプレートがたくさんあることに驚き、学びやすかったと喜んでた。長崎が天領で、奉行所で裁判が行われていたことや、当時砂糖が、金と価値が同じくらい貴重であったことは特に驚き、新聞にたくさん書いていた。また、学芸員やボランティアの方々にも分かり易く教えていただき、感謝していた。展示や人との交流を通して、児童には新しい発見や喜びがあり、感動して、好奇心や探究心、学びへの意欲が促されていた。その後の歴史や総合の学習も生き生きと取り組むことができた。歴史の果たす役割は大きいと痛感し、感謝している。
- 児童は、長崎の歴史に詳しい校長に古地図をもらい、長崎がどのようにできていったかや、地名や町名の由来を教えてもらった。実際に博物館に行きながら、道々、校長が昔の石垣や陸と海の境目などを解説してくれ、目で確かめることができた。
- これまでの学びを共有し発信するために、ジャストスマイルの発表名人を使って、班ごとにプレゼンテーションをさせた。相手意識をもって、各自伝えたいことを出し合い協力して作り上げた。発表会では、楽しい雰囲気でもまた新たな学びができた。
- 1月31日の滑石っ子発表会で、長崎歴史文化博物館見学や「滑石っ子さるく」で学んだことをテーマごとに分かり易くまとめ、劇化して発信した。下級生の児童や地域の方々にも「長崎のことを本格的に楽しくおもしろく学べた。」と好評であった。5年生も6年生になってからの歴史学習を今から楽しみにしているようである。

博物館との連携

- ・長崎歴史文化博物館が、社会科の教科書ごとにまとめた展示・収蔵資料対照表は大変役に立った。「ペルリ像」「富岡製紙工場」「新橋鉄道蒸気車之図」「鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図」「憲法発布上野賑」「大日本帝国憲法発布式場之図」「国会会議之図」「八幡製鉄所・八幡市街ノ一部」等の画像をいただき、拡大掲示してクイズ形式にして名前を覚えさせたり、当時の人々に思いをはせたりすることができ、児童も大変興味をもつことができた。

## 長崎市立滑石小学校の対応

学芸グループ 出口 幹子

滑石小学校の南部弥生先生と行った事前の打ち合わせでは、小学生にとって博物館は敷居が高いというイメージがあり、滑石小学校の6年生で当館に来館したことがある児童は少ない。来館しても家族で企画展を見たことはあるが、常設展には足を運んでいないというお話があった。今回滑石小学校が取り組む総合学習では5月中旬の出張授業と同月下旬の来館時の案内を希望されており、出張授業では歴史への興味関心を高めること、博物館見学では子どもたちの学習テーマについて調べ学習を行うことを確認した。

出張授業では、博物館が「長崎のことがよく分かる昔の宝物を所蔵している」場所であることを紹介し、黒板に博物館所蔵資料を拡大印刷したものを掲示し、登場人物を探すゲームやクイズを織り交ぜながら、資料の読み解きを行い、長崎とポルトガルやオランダ・中国との歴史的なつながりについて学び、江戸時代に長崎は外国と交流が出来る特別な場所であったことを学習した。

子どもたちの感想には、「オランダと中国とポルトガルとの交流があったことをはじめて知りました。長崎が特別な場所だと分かって、少しうれしい気持ちになりました。」「当時の日本の様子や、人物などが、昔の絵を見てよく分かりました。」など、資料をとおして自分たちが住む長崎の歴史的な特徴を知ること、総合学習についての意欲が高まっていることがうかがえた。また「長崎歴史文化博物館でもいろいろな歴史のことを学びたい」という感想も多くあり、博物館＝敷居が高いというイメージはやや和らいだようであった。

5月27日に実施した来館対応では、6年生49名を4グループに分けて案内を行った。これまでの実践で、1クラス1名の案内では、グループ後方の子どもたちは資料が見えにくく、案内の声も聞こえづらいため集中力が低下するとの意見があり、小学生15人程度に案内1人つけるよう心がけている。

滑石小学校は、事前の打ち合わせ時にワークシートの記入や体験は、自由見学の時間で行うと決めていたことから、案内時は集中して話を聞き、見逃した箇所や興味があるところは自由見学時に調べるとメリハリのある学習を行うことが出来た。

南部先生からは、学芸員からの説明や実際に博物館で物に触れることによって子ども達が少しずつ歴史に興味を持ち始めたことや、1学期にまず博物館を通して学習をスタートさせたことで、子ども達が歴史学習に興味を持ち、出張授業や博物館見学で学んだことを活かして一人ひとりが学習していたと報告いただいている。

今回の滑石小学校との取り組みでは、学校側で総合学習の計画が綿密に練られており、事前の打ち合わせにおいて、博物館がどの場面で、どういった役割を果たすべきか先生方と共通理解を持てたことが活動を行う上で大きく影響したと感じている。

子どもたちが歴史にふれるきっかけを学校や博物館がどれだけ連携協働してつくれるかが重要である中で、両者が共通認識をもって活動に取り組むことの重要性を改めて考えることができた事例の一つである。

6年生	教科：社会科・総合	単元名：江戸時代の長崎・出島を知ろう	9月2日	2時間
実践校：佐世保市立江迎小学校		授業担当者：松永 剛・山田 俊介		
目 標	(1) 江戸時代の県北や長崎市の様子を地図や図絵を観察する活動を通して、江戸時代の支配体制や外国との関係についての理解を深める。(社会) (2) 絵巻や図絵を読み解きながら、本県の文化遺産と、その歴史的価値について関心をもつ。(社会) (3) 博物館の展示品と長崎の史跡とのかかわりを知ること、修学旅行の自主研修の計画について班の仲間と進んで話し合おうとする。(総合)			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
(1時間目)				
1 江迎地区と長崎市の江戸時代の様子について知る。	10分	○校区内の平戸往還について触れ、江戸時代の長崎とのつながりを知らせて、博物館の方を紹介する。 ○「長崎港図」を用いて、長崎市の江戸時代の様子について興味をもたせる。		
2 出島パズルの組立をする。	15分	○6班に分かれて「蘭館図絵巻」のパズルの組立を行わせる。 ○組立が終了したら、描かれている出島の様子を観察させ、気づきをもたせるようにする。	評価規準(1)	
3 絵巻に描かれていることについて気付いたことを話し合う。	15分	○人、動物、建物などの様子について気付いたことを発表させる。 ○気づきについて博物館の方から解説をいただく。		
4 活動をふりかえる。	5分	○感想を話し合わせ、活動をふり返らせる。	評価規準(2)	
(2時間目)				
1 長崎歴史文化博物館の紹介をする。	5分	○修学旅行の日程をもとに、博物館での活動について関心をもたせる。		
2 展示品についてのガイダンスを行う。	20分	○長崎の歴史と展示品のかかわりについて知らせる。		
3 見学の仕方について話し合う。	15分	○修学旅行の活動班で、自主研修の計画について考えさせる。	評価規準(3)	
4 活動をふりかえる。	5分	○感想を話し合い、活動をふり返らせる。		
評 価 規 準	(1) 江戸時代の県北や長崎市の様子を地図や図絵を観察する活動を通して、江戸時代の支配体制や外国との関係についての理解を深めている。(社会) (2) 進んで絵巻や図絵を読み解き、本県の文化遺産とその歴史的価値について関心をもっている。(社会) (3) 博物館の展示品と長崎の史跡とのかかわりを知ること、修学旅行の自主研修の計画について班の仲間と進んで話し合おうとしている。(総合)			

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）



<1時間目社会科の活動の様子>

<2時間目総合的な学習の時間の学習の様子>

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

今回の授業を実践するにあたって配慮したことは2点ある。1点目は、長崎市から離れた地域に住む子どもと出島をどのように結びつけるかということ。2点目は、本活動の2週間後に行われる長崎への修学旅行の自主研修等の活動への動機付けと見通しをもたせることだった。

はじめに、子どもたちと出島を結びつけるという点については、本校地域の江戸時代の様子、そして、長崎とのかかわりを知らせることを授業の導入で行った。その結果、子どもたちは長崎について関心をもち、活動への意欲を高めることができた。そして、博物館員の方による「長崎港図」の解説、出島パズルの活動では、歴史的価値のある資料を身近に見たり、作業したりすることで、出島の人々、動物、建物の様子などについて多くのことを発見することができた。また、気付きを話し合った後に、博物館員の方々からそれらのことについて解説していただいたことで、理解を深めることができた。

次に、6年担任の要望を受けて、修学旅行の自主研修等の活動への動機付けと見通しをもつために、博物館資料と長崎市内の史跡とのかかわりについて学んだ後に、自主研修の活動について班ごとに話し合う活動を行った。スライドショーや展示品の実物に触れることを通して、子どもたちは楽しみながら博物館での見学や自主研修への見通しをもつことができた。そして、その後の班の話し合いでは、博物館員の方のアドバイスをいただきながら研修で訪れる史跡についての具体的なイメージをもって活動することができた。

授業後のアンケートに、修学旅行の自主研修などの活動に「興味をもつことができた」とすべての子どもが答えていた。また、「修学旅行に行って、当時の出島の人々の生活をもっと知りたくなった。」といった感想を書くなど、今回の活動を通して、修学旅行への思いを高め、見通しをもつことができた。

博物館との連携

修学旅行では、実際に博物館の見学を行った。旅行後の子どもたちのアンケートには、「お話を聞いていなかったら展示している物のことがくわしく分からなかったので、授業でお話を聞けて良かった。」

「学校で教えていただいたことの実物を見てびっくりすることがあった。」

「中国人の家が赤色だと教えていただいていたので、博物館で模型を見た時、すぐに中国人の家だと気付くことができた」といった感想が書かれていた。

これらのことから、事前の活動での学びが博物館での見学を充実させていたことが分かった。知りたいことを詳しく知る場として子どもたちが博物館を活用できるように今後も博物館との連携のあり方を工夫していきたい。

## 佐世保市立江迎小学校の対応

学芸グループ 出口 幹子

佐世保市立江迎小学校では、2012年から6年生を対象に江戸時代の長崎や出島について紹介する出張授業を実施してきたが、2015年には修学旅行の目的地が長崎に替わったため、出張授業は修学旅行の事前学習として位置づけられた。

佐世市江迎町は佐世保市でも北西部に位置し、平戸市や松浦市に隣接した地域である。江戸時代に平戸藩主が参勤交代などで使用した本陣屋敷などが現存していて、宿場町として栄えた場所である。

6年生の社会科の教科書で江戸時代を学習する時、長崎や出島は必ず出てくるが、長崎市の土地勘があまり無い県北の子どもたちにとっては、同じ県内であっても「江戸時代の長崎や出島」は遠い存在だと感じる人が多いという。

出張授業では導入として、山田俊介先生が昔の長崎と江迎の関連を子どもたちに印象づけるために、学校近くの通学路の一部が、実は平戸藩主が平戸と長崎を往復する際に使った平戸往還の一部であることを伝えたり、藩主が長崎に行った理由をクイズ形式で子どもたちに問いかけたりした。これによって遠い存在であった江戸時代の長崎や出島についての親近感が芽生え、興味や関心が高まったようである。

次に博物館職員が、江戸時代の長崎港の様子がよく分かる「長崎港之図」について紹介したあとで、出島のようなすえがいた絵巻物をパズルにした「出島パズル」を使って、出島の生活について楽しみながら学べるようした。

例年の出張授業はここまでで終了していたが、今回は修学旅行の事前学習としての位置づけもあったため、博物館の展示内容や長崎の史跡についても紹介し、昼休みの時間にも修学旅行での自主研修について質問を受け付けたところ、コース内容や史跡、移動手段や移動時間について多くの質問があった。

江迎小学校の山田俊介先生からは「出張授業の2週間後に訪れた修学旅行では、1日目に博物館を見学した際には、出張授業を担当した職員が案内を対応したことによって、子どもたちが積極的に話を聞き学習をしていた。2日目の自主研修では職員のアドバイスを受け、出張授業や博物館見学を思い出して長崎を巡っていた。修学旅行前に出張授業を行うことで、事前の出会いと学習によって、子どもたちの学習意欲が高まり、学びを深めることができた。」という報告をいただいている。

長崎県内では小学生の修学旅行で長崎を訪れる県北や離島の学校が多くある。修学旅行の事前学習として、自分たちの地域と長崎の関連性を学んだり、自主研修の相談窓口としても出張授業を活用してもらうことで、今後も博物館が多くの子どもの学びの場としての役割を果たしていければと願っている。

## 2) 移動博物館と来館

佐々町立口石小学校

2013年度

6年生	教科：総合的な学習	単元名：修学旅行見聞録	9月～11月	1 / 31時間
実践校：佐々町立口石小学校第6学年（86名）		授業担当者：龍治宣彦、桑原重久、中島圭子、平島志保		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長崎のよさを見つける活動や長崎の歴史や文化にふれる活動を通して、視野を広げさせ様々なことに興味をもって学習できるようにするとともに、あらためて自分たちの故郷のよさを感じさせ、郷土愛を育むようにする。</li> <li>○ 公共施設の見学のマナーや歴史的・文化的に価値あるものへの取り扱いについて学び、規律ある行動を取ることの大切さを学ぶ。</li> </ul>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 修学旅行オリエンテーションを行う。	1	○ 修学旅行の目的やコースを説明する。昨年度の活動なども写真やビデオを使って紹介する。		
2 デリバリーミュージアムを見学する。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 見学前に道徳の授業と関連して、公共の場でのマナーや、歴史的に価値のあるものに対する扱い方等を学級で指導しておく。</li> <li>○ 歴史文化博物館から本校までいくつか資料を持ってきていただき、デリバリーミュージアム鑑賞会を行う。本単元のきっかけとして、多くのことに興味関心を示すことができるよう、様々な時代のものや教科書にも載っているようなものを中心に展示する。</li> </ul>	道徳4-(1) 公德心	評価①②
3 修学旅行のテーマを設定し、班別自主研修の計画を立てる。	2	○ オリエンテーションやデリバリーミュージアムで学んだ事を参考にして、グループで修学旅行のテーマを設定させる。	社会科「新しい時代の幕開け」	
4 各テーマに沿って事前学習を行う。	8	○ 各グループに分かれて、図書資料やガイドブック、インターネット等を使って取り組ませる。	評価③	
5 修学旅行で班別自主研修を行う。 (10月17日～18日)	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1日目は4時間市内を自由に班で見学、2日目は2時間ほど歴史文化博物館の見学予定。</li> <li>○ 歴史文化博物館でも各班のテーマを中心に見学させるが、様々なことにふれさせ見聞を広げる意味でも、テーマにこだわらず興味を持ったことは進んで調べるよう伝える。</li> </ul>	評価④ ※時数は別に行事として6時間	
6 修学旅行見聞録を作成する。	10	○ 事前学習や修学旅行での情報を、わかりやすく伝えることができるようまとめる。	評価⑤	
7 修学旅行発表会。	2	○ 学習公開日にまとめたことを保護者に伝える。	評価⑥	
評 価 規 準	<p>評価① 公共施設の見学のマナーや歴史的・文化的に価値あるものへの取り扱いについて知り、規律ある行動を取ることができたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>評価② 長崎の歴史や文化等に関心を持ち、その良さを発見し、さらに調べていこうとする意欲を高めることができたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>評価③ デリバリーミュージアムでの体験をもとに、自分なりの課題を設定し、その解決に向けて計画を立てることができたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>評価④ 課題解決に向け、様々な資料を効果的に活用して調べることができたか。(技能・表現)</p> <p>評価⑤ 故郷長崎のよさが伝わるようなまとめ方を工夫することができたか。(技能・表現)</p> <p>評価⑥ 他の発表を聞き、さらに長崎を知るとともに故郷を思う気持ちをもつ事ができたか。(関心・意欲・態度)</p>			

**デリバリーミュージアム（3／31時間） 9月20日（金）3～5校時（各学級1時間）**

修学旅行事前学習のスタートにこのデリバリーミュージアムを位置づけた。まず最初に、普段からあまり博物館等に行く機会が少ない本校の子ども達のために、担当の下田さんと小熊さんより見学のマナーについての説明をしていただいた。



当日は修学旅行事前学習ということもあり、子ども達の興味・関心を広げるために、歴史文化博物館より様々な資料を持ってきていただいた。写真は大変人気のあった「南蛮人来朝之図」。博物館の資料にさわれることが驚きと共に嬉しかったようだ。

・江戸時代の長崎の絵がたくさんあって、教科書にのっていないことまで知ることができてよかった。

やはり今年も子ども達に非常に人気があったものは眼鏡橋の立体パズルであった。



・驚いたのは眼鏡橋のブロックです。眼鏡橋は最初に土台を入れて、完成したら抜くことがびっくりした。抜いてもきれいに保っていたことがすごいと思った。

持ってきていただいた資料は、子ども達の興味・関心を引くものばかりで、1時間という短い時間ではあったが、どの子も食い入るように資料を眺めていた。担当の下田さん、小熊さんも子ども達と一緒に、時には写真のように資料の説明をしてくださり、子ども達はたくさんのお話を理解できていた。

教科書でおなじみの資料も大変人気があった。特に踏み絵や解体新書、ペリーの似顔絵などに大変興味を示していた。昨年度も来ていただいており、5年生のときに見てはいた物も、6年生になり歴史を学んだ子供たちの意識はかなり高まっていて、教科書で見た物があるのが大きな驚きと感動であった。

今年度、子供たちに人気が高かったのは「カメラ」と「龍馬の写真」だった。歴史文化博物館には、本物のようにじっとしていないと映らない写真があり、体験することができることを伝えると、修学旅行への期待が一気に膨らんでいた。



・わざわざ来てもらって嬉しかったし、実物や複製をみることで嬉しかった。歴史にまた興味をもった。

・実物を持ってきていただいて貴重な体験ができました。このような機会を通して歴史を学ぶことはとてもいいなと思いました。

教科書にのっていた解体新書などもあって、今の体の図と同じような図だったので、もうその時からわかっていたんだなと思いました。また絵ではなく全部彫っていると言うので、技術があってすごいなと思いました。



今年は「歴史をさかのぼる」をコンセプトに説明をしていただいた。子供たちにとってはたいへん分かりやすく、特に、中国やオランダといった、現在の長崎にも影響が見られる外国の文化がどのような時代に、伝わり現在に至っていることを体感することができてたいへん有効だった。

このデリバリーミュージアムに引き続き、修学旅行の事前学習に取り組んだが、子ども達の興味関心は消えることなく、大変意欲的に調べ学習に取り組むことができた。また、10月に実施した修学旅行の歴史文化博物館の見学も、1時間30分の時間ではたりないくらいとても意欲的に活動していた。

#### 授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

口石小学校では、毎年、修学旅行で歴史文化博物館の見学をコースに入れている。今年度もデリバリーミュージアムを踏まえて見学を実施したことにより、1時間30分の見学時間を有効に使うことができています。特に、子供たちにとっては、見たことがあるものがある安心感と、これを見たいという期待感があるので、班別の行動もとてもスムーズに行うことができています。

今年度は昨年度の反省を踏まえてワークシートを使用しないで自由見学としたが、このデリバリーミュージアムがあったおかげで、見学の視点を揃えることができた。歴史が苦手な子にとってワークシートに「書く」ことは難しいことだが、「体感する」ことで歴史に興味を持っていた。

修学旅行後に実施した発表会でも、歴史文化博物館で得た知識と体験して感じたことを多くの児童が発表していた。

また、今回もボランティアの方の説明のおかげで資料の意味や説明がよくわかったという声が多かった。このようなふれ合いも歴史文化博物館ならではのこただと感じた。

佐々町にはもう1校小学校があり、今回はそちらの6年生担任にも声をかけデリバリーミュージアムを見ていただいたが、かなり興味を持っていただいた。なかなか本物を見る機会が少ない県北地区なので今後もこのような機会を重ねていきたい。

来年度は修学旅行のコースが変わり、口石小が長崎に行くことはなくなるが、このデリバリーミュージアムをはじめ、歴史文化博物館の事業を利用することで、本物に触れ、本物から学ぶことができる貴重な機会として継続していきたい。(佐々町では来年度以降、中学校において長崎で探求活動をするよう計画されている。)

## 佐々町立口石小学校の対応

学芸グループ 出口 幹子

移動博物館は遠隔地やその他の理由で来館することが困難な人に、当館の活動に触れていただく機会を提供するため、2008年度から長崎県内の学校や福祉施設を対象に実施をしている。

口石小学校は開館翌年の2007年から修学旅行で博物館を見学していたが、2012年と2013年は修学旅行の事前学習として移動博物館を実施した。

口石小学校は県北に位置し、佐世保市に囲まれた場所である。同じ県内であっても修学旅行で訪れる長崎市の歴史は遠い場所のことと感じてしまうかもしれない。今回移動博物館を通して、修学旅行への期待感とともに長崎の歴史文化への興味や関心も高めてもらえるように、教科書掲載資料のほか、坂本龍馬の写真パネルや、カメラの複製品など子どもたちに人気がありそうな資料や、資料を詳しくみるためのパズルやカード、眼鏡橋の組み立てキットなど多くの体験グッズを準備して活動に望んだ。

移動博物館では、6年生は各学級1時間ずつ時間を設け、博物館の見学マナーについて伝えたあとに、展示案内と自由見学をおこなった。展示案内では「資料を詳しく見ることで分かること」や、「こんな所に注目すると面白い」など資料の見方についても伝えるようにした結果、自由見学の時間にはパズルやツールを使って資料をじっくり見たり、積極的に体験に取り組んでいる姿が多く見られ、楽しみながら学習に取り組んでいる様子が感じられた。

修学旅行で来館した際には、見学前に簡単なガイダンスを受けたあとにグループで展示室を自由に見学している。子どもたちにとっては、はじめての博物館見学であったが、移動博物館での経験を活かして有意義な時間を過ごすことができたようである。

江戸時代の長崎や出島については小学生の教科書には必ず記載がある。移動博物館を修学旅行の事前学習として位置づけることで、修学旅行がより深い学びの場になったのであれば、嬉しい限りである。



### 3) 複数回にわたっての連携

佐世保市立日野小学校

2016年度

6年生	教科：社会科 総合	単元名：歴史学習の復習（移動博物館） 修学旅行（出張授業・当日）	7月 9月	1時間 2時間
実践校：佐世保市立日野小学校		授業担当者：6年担任 (田中英明・平山浩美・井石和志・田淵禎子)		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展示を見たり、ワークショップを体験したりすることで、長崎の歴史について興味・関心を深める。</li> <li>○長崎の歴史と日本の歴史を関連づけて考えることができる。</li> <li>○長崎の歴史を理解することができる。</li> <li>○移動博や出張授業で学んだことを、修学旅行の自主研修の計画作りに生かすことができる。</li> <li>○博物館を訪れ、当日訪れる予定の長崎市の史跡について学ぶことができる。</li> </ul>			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
〈移動博物館〉 1 オリエンテーション  2 ワークショップ  3 自由見学	1	(3学級のため各クラス1時間ずつ) ○歴史の紹介や諸注意、移動博の見方など、活動への関心を持たせる。  ○1クラス2グループ。 ○グループ毎に博物館の方がついて、展示解説  ○行きたいコーナーに行き、学習を深める。  ※事前学習として長崎に関わる歴史の復習、事後の学習として移動博の学んだことを書く活動を行う。	(1) (2) (4)	(2) (3)
〈出前授業〉 1 長崎の歴史について  2 出島パズル  3 おすすめの史跡紹介	1	(3学級のため各クラス1時間ずつ) ○話を聞き、長崎の歴史について興味を持つ。  ○出島パズルの組み立てを通して気づいたことをもとに博物館の方から解説をいただく。 ○おすすめの史跡などを紹介していただき、修学旅行の自主研修の参考にする。	(1)	(3) (4)
〈修学旅行〉 1 オリエンテーション  2 常設展示見学	1	8：45～10：00 歴史文化博物館 ○博物館の見方、マナーについて確認する。  ○自主研修のテーマ別に中国・龍馬・西洋に分け、博物館の方によるテーマに沿った展示解説。その後、自由見学  ※10：00～15：00 班別自主研修	(1) (5)	
評 価 規 準	(1) 展示を見たり、ワークショップを体験したりすることで、長崎の歴史について興味・関心を深めたか。 (2) 長崎の歴史と日本の歴史を関連づけて考えることができたか。 (3) 長崎の歴史について理解することができたか。 (4) 移動博や出張授業で学んだことを、修学旅行の自主研修の計画作りに生かすことができたか。 (5) 博物館を訪れ、当日訪れる予定の長崎市の史跡について学ぶことができたか。			

## 《移動博物館》

6年生は3クラスあり、博物館の研究員の先生に1クラス1時間ずつ展示解説をしていただいた。

本校体育館の半面にテーマごとに5つほどのコーナーが作られていた。

各クラスとも、はじめにオリエンテーションで、長崎歴史文化博物館について話をさせていただく。

また、簡単に長崎を中心として歴史について簡単に話を聞いた後、2グループに分かれる。それぞれ博物館の方に丁寧な展示解説をしていただきながらコーナーをめぐる。

後半は、自由見学として、展示解説をしていただいた中で気になる場所に移動して学習をする。相変わらず輸入品の香料や薬品などのおいをかぐコーナーが人気で、繰り返し訪れる児童もいる。また唐人屋敷のバスルにはまり、自由見学の間ずっとそこにいる児童も何人かいた。

最後に、博物館の方が子ども時代におくちで実際に使用した衣装を披露してくださった。



昼休みは他学年の見学も可能とした。たくさんの児童が訪れ、この時間も博物館の方にたくさんの展示解説をしていただいた。



## 《出張授業》

今回も3クラスを1時間ずつ分けて行った。

出張授業に来ていただくのは初めてであったが、博物館の方は7月の移動博物館に来ていただいた方ばかりだったので、児童も構えすぎない状態で安心した。

今回は修学旅行に向けて、長崎の歴史や史跡についての話をさせていただく。

はじめに紹介の後、早速長崎についての話となる。海外とのつながりを長崎にいる尾曲がり猫やジャコウネズミなどから紐解くなど、子どもたちが興味をもつ話で楽しく学習を進めていただいた。

次に出島パズル。各班ごとに出島パズルの組み立てを行う。気づいたことをもとに博物館の方から詳しく解説をしていただいた。話を聞きながら出島で過ごすオランダ人の様子などを学んでいった。

最後に、長崎の史跡などの場所を紹介していただく。修学旅行で訪れるのがおくち前ということで、おくちの雰囲気があるかも？などの話もしてくださった。

まだ計画を立てていない子どもたちにとって、これからの学習を進めていく上で、とても参考になったようだ。



## 《修学旅行当日・博物館見学》

修学旅行の2日目。ホテルから歴史文化博物館へ直行。

ホールでオリエンテーション。博物館の方からの話の後、コース別に分かれて、それぞれ博物館の方から展示解説をしていただく。コースは、修学旅行での班別自主研修で計画したグループごとに、大まかに中国、龍馬、西洋に分ける。

それぞれのコースに関わる場所を中心に、ひと通り常設展示を回る。

龍馬コースの児童は、奉行所ゾーンのお白州に龍馬が来たことを目をきらきらさせて聞いていたとのこと。

その後、自由見学となり、グループごとに常設展示で見たりないところなどを回っていた。彦馬の写真コーナーは人気だったが時間が足りず、写せなかったと残念がる児童もいた。

その後、数日後に迫ったくちの庭見せの準備が始まっているロビーに集まった後、班別自主活動開始。長崎市内へと散らばっていった。



ちなみに最後の集合場所は、旧香港上海銀行長崎支店記念館。暑い日や雨天時にも対応でき、早めに集合場所にきたグループも、2階3階を観覧することで時間調節もできたので、とてもよかった。

## 授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦労した点、改善点、学びの発展等）

今回、修学旅行の行き先が北九州方面から長崎方面に変更になった。佐世保に住む子どもたちにとって、なかなか行くことの少ない長崎市とはいえ、同じ県内ということで残念がる保護者もいた。子どもたちについても、前年度までのコースをイメージしていたため、同様にごっかりした子もいたようだ。

そこで保護者には『歴史文化博物館に関わっていただくことで充実した活動となるようにします』とアピールさせていただいた。博物館には全ての活動に対して、学校側の期待にしっかり応えていただき、子どもたちがしっかりと学び楽しむことができた。そして、子どもの話を聞いた保護者も満足してくれたものと思う。

### 《移動博物館》

- ・本校にとって今年で三回目の移動博物館となった。昨年までは歴史学習のまとめとして12月に開催していたが、今年度から修学旅行の行き先が長崎市方面に変更となったため、事前学習の取りかかりとして7月初旬の開催となった。江戸時代初期までの復習とその後の予習を兼ねている。6年生対象で3クラスに1時間ずつ割り当て、全体説明の後、2班に分かれて展示解説をしていただいた。今年度も昼休みに他の学年も自由に見学ができるようお願いした。
- ・6年生児童にとって、3回目の移動博物館ではあったが、回を追うごとに目が肥えていくのが分かった。展示解説をしていただいたこともあり、屏風や解体新書を熱心に見入る子どもたちが目立った。
- ・例年本校で実施するにあたって、毎年歴文側をお願いするのは、「長崎ってすごかっぞ」ということが分かる移動博にしてほしいというもので、今回は特に充実した修学旅行につながるように話の端々に入れていただいた。
- ・昼休みに行った自由見学では、たくさんの学年の子どもたちが訪れた。例年以上の人数が集まり、管理面で手薄になったような感じであった。展示品の取り扱いについては、各担任が指導しているが徹底されていなくて、丁寧に扱えなかったものもあり反省している。
- ・学校職員からは、「毎年見ているのに、新鮮に感じる。来年もぜひやってほしい。」「(今年度からの職員は)日野小学校はこんなことをやっていたいなあ」というものがあった。
- ・長崎っていろいろあるんだねと言ったり、修学旅行が楽しみになってきたと話したりする児童が多く、修学旅行に向けて先に進むことになった。
- ・梅雨の合間の暑い一日で、掲示物が湿気ではがれてしまうこともあった。気温も30度を超えていた。そんな中で、博物館の方には、一日お世話になった。

### 《出張授業》

- ・短い時間の中で、テンポよく進んでいただいた。
- ・出島パズルは楽しんで学習できるとてもいい教材である。児童が楽しみながらも一生懸命取り組んでいた。
- ・尾曲がり猫の話が一番印象的だったらしく、この授業の後、長崎の尾曲がり猫について調べる児童もいた。修学旅行先でも猫を見かけると、尾曲がり猫かどうか一生懸命見極めていた。

### 《修学旅行当日・博物館見学》

- ・自主研修のはじめにこの歴史博物館に来ることで、自分たちが何を見ればいいのか明確になることと調べていたこと以上にその史跡のポイントを教えてもらうことで充実した活動につながった。
- ・移動博物館は最小限の適切な資料を準備してくれるが、実際の歴史博物館の資料の多さに感動する児童もいた。特に解体新書など、レプリカとは違う本物の重みを感じる児童もいた。
- ・この日は他の団体も多く、たくさんの人でにぎわっていた。そのため、コース別に分かれたとはいえ、1コースに25名程度の児童だと博物館の方の解説の声が聞こえにくく、別のところを見たり話を聞かずうろろしたりすることもあった。また、修学旅行ということでテンションが高くなっている児童がいて、いろいろご迷惑をかけた。

## 博物館との連携

長崎への修学旅行初年度のため、充実した活動を行うために移動博物館や出張授業など複数回佐世保まで来ていただいた。展示品を見たり、解説や話をさせていただいたりすることで、学びも深まり、修学旅行に向けての活動への意欲につながった。また、修学旅行当日も各テーマごとに分かれた子どもたちに常設展示の解説をしていただいた。ただ見るのではなく観て話を聴いて学ぶことで、その後の自主研修も充実したものとなった。夏休み中に6年担任全員で打ち合わせと博物館の下見をさせていただいたことで、全員で共通理解をすることができた。

## 佐世保市立日野小学校の対応



学芸グループ 松岡めぐみ

2014年度より日野小学校では移動博物館を行っていたが、2016年度からは、加えて出張授業も実施している。この年から、それまで県外であった修学旅行の行き先が長崎市に変わり、博物館も訪れることになったのである。来館当日のスケジュールとしては、博物館の見学後、それぞれ知りたいことに基づいて子供たち自身で行き先を決める「自主研修」を行う。同じ長崎県内とはいえ、普段行き来する機会は限られており、「長崎の歴史」に対する佐世保の子供たちの視点は、むしろ他県からのそれに近いのかもしれない。一方で、せっかくの旅行なのになぜ県内なのか、という意見もあったようだ。このような微妙な状況のなかで、当の子供たちはもちろん、保護者の皆様にも「長崎へ行ってよかった」と感じてもらいたい、絶対に成功させたい、という先生方の思いに応えるべく、まずは「博物館っておもしろそう、見てみたい」と思ってもらうことを目標に、そしていずれは長崎県の歴史に興味津々になってもらえるように、連携プログラムを行うことになった。

移動博物館では、博物館がどんなところかを知り、宝物に親しむことが主となる。昼休みには下級生も自由に見学を行う。修学旅行が目前となった頃の出張授業では、自主研修の計画を立てるために、長崎市内にある歴史的な場所にも着目する。一度移動博物館で見た資料についても、出島内部のオランダ人の様子を描いた「漢洋長崎居留図巻」のバズル組み立てを班ごとに行い、気がついたことを話し合いながら、さらに詳しく読み解いていく。

事前の打合せ時には、ありがたいことに6年生全クラスの担任の先生に来ていただき、常設展の下見もしていただいた。もし下見には来られなかったとしても、当日引率する先生方の間できちんと情報共有がなされているかどうかによって、活動が滞りなく進むかどうか、左右されることもある。博物館のことをよく知っている先生が複数おられると我々も心強く、より安心して解説や案内を行うことができる。当たり前だが、博物館のプログラムは、学校の先生の協力なしには成り立たない。歴史や博物館自体に興味を持ってくださる先生方がいるからこそ、実現できていることが沢山あるのだ。



6年生	教科：総合的な学習	単元名：游学☆長崎再発見	6月～2月	45時間
実践校：長崎市立川原小学校		授業担当者：山口 昌美		
目標	①ふるさと・長崎の歴史や文化に対する理解を深めることで、郷土を愛する気持ち、誇りに思う気持ちを高める。(郷土愛) ②郷土愛を深める学習や外部講師との出会いを通して、自分の生き方について考え、将来に対して前向きに行動しようという心情をもつ。(自己実現)			
学習内容	時間	指導上の留意点・参考事項	評価・他教科関連	
1 グラバー親子を通して、長崎の魅力を知る    	14 (2 +事後 1)	<b>1 (導入)「長崎の宝物」を知ろう(6/26)</b> <b>&lt;歴史出張授業&gt;</b>  ① 「歴史」って知ってる？ (博物館の紹介) ・何があったかな？ ・部屋が暗いわけ ・宝物はいくつあるでしょう？ (48000点) →長崎の宝物を見ながら、昔の長崎、長崎のことを学ぼう  ② 歴史的な観光地と長崎とのつながり ・長崎の歴史的な場所は？ (めがね橋、崇福寺、グラバー園、出島、軍艦島、平和公園、如己堂、諏訪神社、大浦天主堂・・・) ・昔、長崎が仲の良かった国は？ (オランダ、ポルトガル、中国) ・その国とつながりのある観光地は？  ③ 「長崎の宝物」(博物館の資料)を通して、長崎と外国とのつながりを考える  「南蛮屏風」 ・織田信長の時代の長崎 ・ポルトガル人 ・「南蛮カード」で詳しく見る ・長崎はどんな町だったか？ どんな人がいたか？ 何をしている場面か？など  「長崎港之図」 ・江戸時代の長崎 ・オランダ人の暮らす出島、中国人が暮らす唐人屋敷	社会科	





④ まとめ

- ・長崎は特別な場所  
(江戸時代、日本が世界とつながる唯一の場所)
- ・勉強したかったら、長崎  
(坂本龍馬も、グラバーも、長崎を訪れた人)
- ・世界遺産候補になるほどの価値  
→グラバー園、小菅修繕場、三菱造船所  
→グラバー、倉場富三郎は  
長崎のことを助けてくれた



- ・長崎について、もっと詳しく知ろう！
- ・まずはグラバー園見学から

(6) 2 「グラバー親子について調べよう」(7/3)

- ・グラバー園校外学習 <歴文学芸員ガイド>

- ・長崎の三大産業(造船、漁業、観光)とグラバー親子とのつながりを知る



今の長崎の基礎を築いた二人

- ・外国人で初めて勲章を授かり、東京で亡くなったグラバー  
→墓が長崎にあるのはなぜだろう？
- ・諏訪神社の氏子、長崎の名士として活躍した倉場富三郎  
→自ら命を絶ってしまったのはなぜだろう？

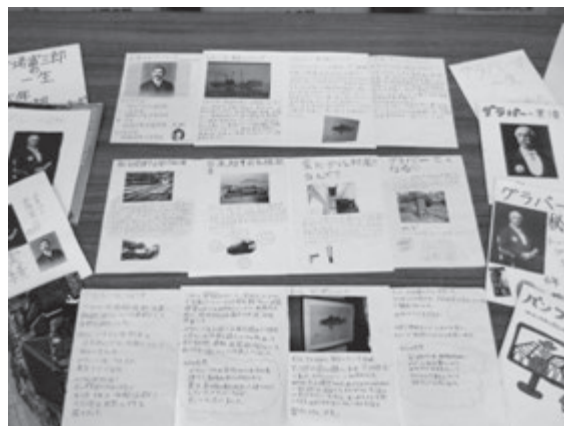
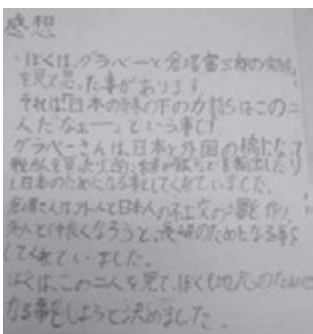
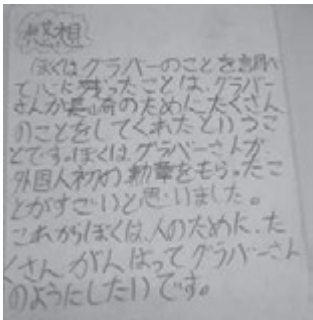


(5)

3 「グラバー親子について調べたことを、パンフレットしよう」(国語)(7月)

- ・他学年、他学校へ発信

国語  
「ようこそ私たちの町へ」



2 中国と長崎のつながりから、異文化理解を学ぶ



16  
(6  
+前後  
2)

(6+  
事後  
2)

1 長崎歴史文化博物館見学 (10/30)  
＜歴文学芸員ガイド＞

- ＜常設展見学＞
- ①中国貿易について
  - ②隠元について
  - ③媽祖さまについて
  - ④唐人屋敷パネル
  - ⑤バーチャルツアー
  - ⑥伝統工芸品について

＜剪紙体験＞

2 唐人屋敷さるく ＜歴文学芸員ガイド＞

- コース  
歴文出発  
→眼鏡橋  
→(弊ふり坂・大音寺)  
→崇福寺  
→唐人屋敷跡  
→新地中華街

3 国際交流員との中国文化体験、交流 (全3回)  
＜長崎市経済局文化観光部国際課＞

- 1 中国について知ろう (衣食住) 11/20  
・概要 (地理、人口、民族、文字、言語、お金、観光など)  
・難しい漢字を書いてみよう  
・チャイナ服を着てみよう (歴文レンタル)  
・中国茶道を体験

2 中国の遊びをしよう 12/18

- ・剪紙体験
- ・中国語
- ・ジェンズ (羽つきボール)
- ・バンコイチュウ (羽子板)
- ・軍旗 (歴文レンタル)

3 中国の食を学ぼう 1/29

- ・ムシューロウ (きゅうりとキクラゲの炒め物)
- ・質問タイム

社会科

道徳  
「長崎ちゃんぽん」  
(県資料)

3 出島を通して、長崎の役割、自分の未来を考える



4 1年間の学習のまとめ

15  
(6+  
前後  
2)

### 1 出島見学 (2/4)

- ① 出島復元整備室の方から話をきく
  - ・ 出島の魅力
  - ・ 復元への思い
  - ・ 子どもたちへのメッセージ
- ② 出島見学
  - ・ 触れて、触って、遊んで学ぶ

### 2 「長崎版画」体験

(2) <歴文出前講座> (2/17)

- ① 学芸員さんの長崎へ思いを知る。
  - ・ 学芸員の仕事って？
  - ・ 学芸員をしていて感じること。
  - ・ 子どもたちへのメッセージ
- ② 版画体験を通して、長崎の役割を再考する
  - ・ 長崎版画とは？
  - ・ 江戸時代の終わり頃の長崎土産
  - ・ 外国のもの、動物など珍しいもの、長崎で見ることのできない外国のくらしが題材
  - ・ 長崎と外国とのつながりが版画からもわかる

(5) 1 授業参観で保護者に発信 (2/25)

「遊学☆長崎再発見」で学んだこと

- ・ グラバー親子から「長崎の良さ(歴史、人)」
- ・ 中国と長崎とのつながりから「知ること」の大切さ
- ・ 出島の役割から「つなぐ」人へ



自分の将来に関連させてスピーチ

### 2 グラバー親子の墓の事実から、「平和学習(5年生)」と「遊学☆長崎再発見(6年生)」の学習の総まとめをする(3月)

- ・ 長崎の恩人グラバー親子の墓の鉄柵を取り、武器に使用したという事実
  - ・ 戦争のおろかさ
  - ・ 知らなければならないこと、忘れてはならないことがたくさんあること
- ふるさと長崎の子どもとして、平和の大切さと長崎の魅力伝えていきたい。

社会科

国語  
「今、私は、  
ぼくは」

道徳

学習活動の軌跡（感想文、作品、現場の記録写真、ノート、ワークシートなど）

< 2 / 5 出島見学後の感想 > これをもとに、まとめの学習へとつないでいった。

2 中国のことについて学ぶ「前」と「後」では、中国に対する感じが変わりましたか？  
（変わった・変わっていない）

その理由  
最初は、中国が生産した物などは手  
り合いたくないと思っていたけど、学習し  
て中国にはほとんどもが世界になつたことが  
わかり、良いイメージが生まれたから。

2 中国のことについて学ぶ「前」と「後」では、中国に対する感じが変わりましたか？  
（変わった・変わっていない）

その理由  
中国のことについて学ぶ前は、輸入された食べ物などで  
少しやなイメージがあったので、中国の遊びや食べ物  
などを学んでいい因たなと思ったから。

3 出島は江戸時代に世界と日本をつなぐたった一つの窓口でした。整備家の徳永さんの  
話や見学を通して、出島について考えたことを書きましょう。

出島は日本と世界の玄関口でもあり、記にのるよう  
の教育したいなかなと思った。理由は、当時出島  
が外国との貿易をやってはいるから、長崎に  
比べれば来島で学んだ人がいるから。

4 「遊学☆長崎再発見」の学習の前と後で、「ふるさと長崎」に対する思いが変わりま  
したか？（変わった・変わっていない）

その理由  
前は、長崎を築き上げたイメージが強く、その  
出島のことや、外国との貿易のことなどを知  
ることができたから。

4 「遊学☆長崎再発見」の学習の前と後で、「ふるさと長崎」に対する思いが変わりま  
したか？（変わった・変わっていない）

その理由  
やはり、長崎に住んでいても、知らない事がまだまだ  
たくさんあります。もともとふるさとの事について知って、他の長  
崎などに行き、話を聞けるようになりたいです。

4 「遊学☆長崎再発見」の学習の前と後で、「ふるさと長崎」に対する思いが変わりま  
したか？（変わった・変わっていない）

その理由  
まず出島は日本と世界の窓で中国ともつながり  
ている事。他にも長崎にグラバーがいてとても活  
躍している事など、に対する思いはまるかに変わりました。

4 「遊学☆長崎再発見」の学習と「これからの自分」をつなげて考えてみましょう。  
あなたは、「長崎の子ども」としてどんな生き方がしたいですか？

これから多くは、もっと友達と仲良くするな  
りです。そして、外国について、とくに  
もともと知って、日本とのつながりについて  
よく知りました。

4 「遊学☆長崎再発見」の学習と「これからの自分」をつなげて考えてみましょう。  
あなたは、「長崎の子ども」としてどんな生き方がしたいですか？

外国の人との交流を積極的に、していきたいです。  
また、長崎と、外国との関係をしっかりと、知  
りたてに伝えていけたらいいと思います。

4 「遊学☆長崎再発見」の学習と「これからの自分」をつなげて考えてみましょう。  
あなたは、「長崎の子ども」としてどんな生き方がしたいですか？

長崎の子どもとして、戦争と平和や長崎の歴史などを  
少しでも多くの人に知ってもらうために、たくさんの人と交流  
をして伝えていけたらいいと思います。

4 「遊学☆長崎再発見」の学習と「これからの自分」をつなげて考えてみましょう。  
あなたは、「長崎の子ども」としてどんな生き方がしたいですか？

私は、中学校での部活はラグビーをします。そして、長崎県  
の女子代表をめぐってがんばります。長崎の事をこの勉強  
を通して、もっと知りたいたいと改めて思いました。

評  
価  
規  
準

①ふるさと・長崎の歴史や文化に対する理解を深め、郷土を愛する気持ち、誇りに思う気持ちが高まったか。

②郷土愛を深める学習や外部講師との出会いを通して、自分の生き方について考え、将来に対して前向きに行動しようという心情をもつことができたか。

授業担当者による自由記述（活動の特徴、苦勞した点、改善点、学びの発展等）

<単元について>

○年間を通して歴史と連携して取り組めたことで、子どもたちの学びも深まった。子どもたちは何度も本物に触れたり、専門的知識のある講師の話の聞いたりすることができ、貴重な学び、経験ができた。

○長崎を学ぶことから始まり、子どもたちが自分の今後や将来を考えるに至るまでは、自然な流れだった。

△最終的に子どもたちに何をつかませたいのか、単元の目標、テーマについて、手探りの部分が多く、試行錯誤の連続だった。今回は、「グラバー親子」「中国」「出島」に焦点を絞り学習した。その中でも学ぶ要素が多々ある素材なので、何に焦点を当て、最後にその学びをどう一般化するかなど悩んだ。指導者のねらいによって、改良の余地が多々あると思う。

<外部講師（学芸員、研究員）と学ぶ良さ>

- 専門的で詳しい説明で子どもの興味が倍増した。
- 見学地や博物館では、適切な時間配分を配慮していただいた。
- 普通では触れられないものにも触れたり、体験したりすることができた。
- 自己実現を達成した大人との出会いにより、将来について具体的に考える機会になった。

<その他>

・外部講師との連携には、事前の細やかな打合せが必須である。歴史の担当の方には、打合せの時間を幾度となく捻出し授業の相談やアドバイスをしていただいた。とても感謝している。

博物館との連携

6月：出張授業（単元の導入、歴史の宝物紹介、南蛮屏風パズルなど）

7月：グラバー園ガイド

10月：博物館見学、剪紙体験、唐人屋敷ガイド

11月：中国に関するグッズの借用（服、学用品、本、遊具など）

2月：出張授業（単元のまとめ、学芸員の仕事について、長崎版画体験）

## 長崎市立川原小学校の対応

学芸グループ 出口 幹子

長崎市立川原小学校とは来館時の案内や町めぐり、教材の貸出など以前からさまざまな形で活動を行ってきたが、2015年にはじめて6年生の総合学習において、年間を通して連携することになった。

具体的な活動は、1学期は出張授業（6月26日）と町めぐり（7月3日）、2学期は来館時の案内とワークショップ・町めぐり（10月30日）、教材の貸出（12月18日）、3学期は出張授業（2月17日）の全5回である。

博物館活動を行う場合、先生方は校内調整や保護者との連絡など多くの労力を割いて、博物館見学などを実施しているのではないだろうか。博物館側もせっかく来館してもらえるのであれば、児童も先生も満足がいく活動にしたい。そのためには、子どもたちの学習状況や押さえるべきポイントについて、先生方と共通理解を持って活動に望むことで、より効果的な学習につながるのではないだろうか。

今回、川原小学校との活動は年間を通じて行われたが、担当の先生と詳細な打ち合わせを行うことができた。川原小学校では各回で異なるテーマを設定しているが、全ての回において、明確な学習目標が定められていて、活動で押さえるべきポイントについても事前の打ち合わせや学校側で作成されたパンフレットで確認できるため、博物館側も安心して活動に望むことができた。

また博物館の同じ職員がこども達と繰り返し出会うことで、最初は緊張気味だった子ども達との距離も少しずつ縮まったことも活動に良い影響を与えたのではないだろうか。

担当の先生からは、それぞれの授業を通して子どもたちの長崎に対する郷土愛や中国へのイメージについて考えに変化が見られ、博物館職員や各施設のガイドの方など人との出会いがあり、1年間を通じて学習したことによって子ども達の成長が見られたということである。

年間を通して行った川原小学校との連携では、すべての活動において、教員と博物館職員が学習のゴールを意識しながら活動を行ったことで、こども達の学びが更に深化したのではないだろうか。





## 4. 寄稿

---

- ・「長崎の宝」発見・発信学習推進事業について  
……………長崎市教育委員会学校教育課 荒木 俊明………… 88
  
- ・小学校からみた博物館との連携について  
……………佐世保市立日野小学校 教諭 田中 英明………… 91
  
- ・中学校からみた博物館との連携について  
……………諫早市立真城中学校 教諭 梅崎小百合………… 93
  
- ・特別支援学校からみた長崎歴史文化博物館との連携について  
……………長崎県立佐世保特別支援学校高等部  
上五島分教室 主幹教諭 河村 徳明………… 95
  
- ・博学連携の道のりを振り返る  
……………長崎市立川原小学校 教諭 加藤 尊城………… 97



# 「長崎の宝」発見・発信学習推進事業について

長崎市教育委員会学校教育課 荒木 俊明

## 1. はじめに

長崎には、文化・歴史・世界遺産・自然・施設・人など、たくさんの「長崎の宝」が存在する。このような長崎の豊かな歴史や世界遺産等を学習する活動を通して、そのよさを実感し、ふるさと長崎に誇りをもち、長崎がもつ世界的な価値を発信できるような児童生徒の育成を図ることを目的とし、昨年度より、長崎市の新規事業として「長崎の宝」発見・発信学習推進事業を展開している。これまで（平成30年2月現在）、約3,400名の児童生徒がこの事業を活用して、長崎歴史文化博物館や史跡を訪れ、長崎の歴史や世界遺産等について学んでいる。

担当である私の手元には、事業実施後の児童生徒アンケート結果や成果物など、多くの報告が集まってくる。今年度、ある中学校の生徒の感想に「私は、歴史文化博物館で職員の方の説明を聞いた後、旧グラバー住宅に行きましたが、約150年前に、グラバー住宅を訪れていた人々の思いに感動しました。長崎の宝は、いろいろな歴史を残していった人たちだと思いました」という記述があった。

このように、この事業をとおして子どもたちは、本や映像資料ではなく、実際に現地を訪れ職員やガイドの説明はもとより、本物に触れることで、知識だけではなく、当時の長崎で暮らし、長崎のために尽くした人々の思いを感じ、長崎の歴史や文化に愛着を深め、ふるさと長崎への誇りをさらに高めることができているのではないかと思う。また、このような子どもたち自身が、これから先、より広い世界で活躍する「長崎の宝」に成長することを期待している。これから、「長崎の宝」発見・発信学習推進事業について簡単に説明したい。

## 2. 事業の概要

- 「長崎の宝」発見・発信学習推進事業は、子どもたちが、長崎市にある史跡や博物館を訪問するために必要なバス代や、事前学習や現地で説明をしていただくガイドの方への謝金を長崎市が負担するという事業である。
- 校種別に、次に示す2つのコースを設定している。
  - 小学校：「ジュニア版歴史学習コース」……長崎の基本的な内容を学ぶ
  - 中学校：「世界遺産発見コース」……長崎の世界遺産が日本の歴史の中で果たした役割などについて学ぶ
- 小・中学校ともに、長崎の歴史のよさを発見する「発見学習」、その学習成果を発信する「発信学習」を行うことにしている。活動内容は各学校の計画による。
- 平成28年度は、小学校22校・中学校5校が実施校となり、1,330名の児童生徒が事業を活用した。平成29年度は、事業を拡大し、小学校29校、中学校9校が実施校となり、2,060名の児童生徒が事業を活用している。

## 3. 発見学習について

- 各学校は、主に、次のような場所を訪れて学習を行った。
  - 長崎歴史文化博物館、旧グラバー住宅、出島、大浦天主堂、三菱造船所・旧木型場、旧香港上海銀行、長崎市歴史民俗資料館、長崎県美術館など
- 子どもたちは、博物館や史跡を訪れ、職員や現地ガイドの方の説明を聞きながら、それぞれの学習テーマに基づいた発見学習に取り組んだ。

#### 4. 発信学習について

- 発見学習で学んだことをレポートや模造紙にまとめたり、劇にして学習発表会で発表したりした。
- 発信学習まで終えた児童生徒が書いた作文を、新聞に投稿し、掲載された学校もあった。
- 保護者を対象に「さるく」をしたり、修学旅行の訪問先で、長崎の良さを発信したり、宿泊先に成果物を展示したりした学校もあった。

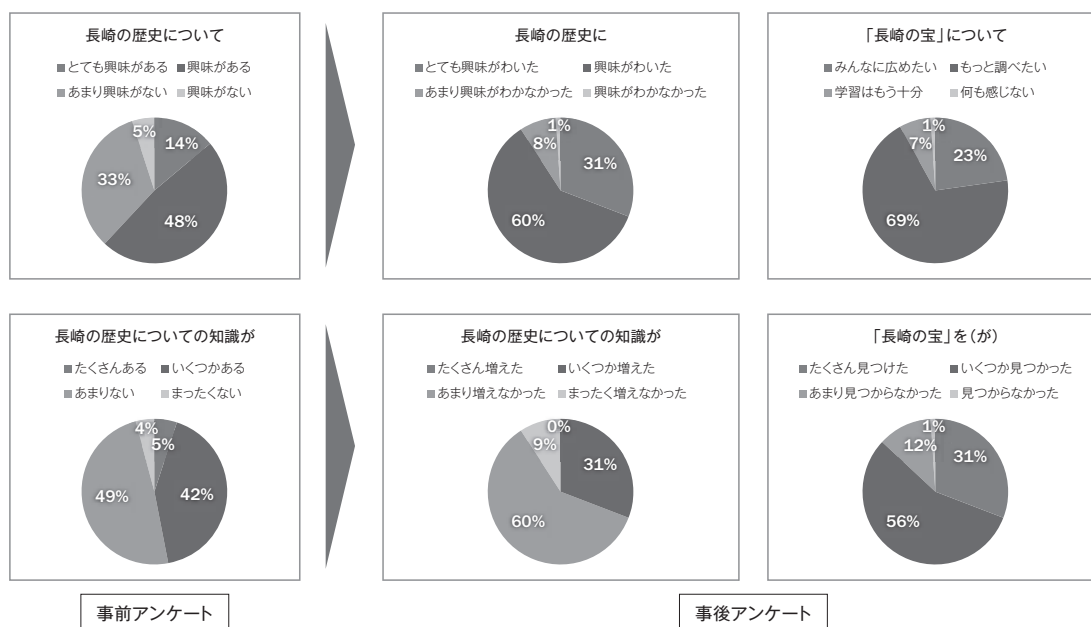
#### 5. 長崎学研究所との連携

- 長崎学研究所主催の、「長崎学児童研究コンクール」に、調べた内容をまとめたレポートや模造紙などが出品され、「長崎の宝」事業の実施校の多くの作品が入賞している。平成28年度は、入賞作品37点のうち、「長崎の宝」事業実施校の作品が24点あり、平成29年度は、入賞作品66点のうち、22点が「長崎の宝」実施校の作品であった。それぞれ、市長賞、教育長賞、歴史文化博物館賞、学校賞、奨励賞などの多くの賞を受賞した。

#### 6. 事前・事後アンケート結果および引率職員の所感

##### ○事前・事後アンケート結果

平成28年度1,330名、平成29年度496名（平成29年12月分まで）、児童生徒1,826名分の事前・事後アンケート結果を円グラフにまとめた。



##### ○引率職員の所感

- ・歴史文化博物館の職員の方やさるくガイドの説明に、生徒たちは一生懸命にメモをとっていた。自分の居住地でありながら知らなかったことの多さに驚き、ふるさと長崎のすばらしさに気づかされた様子であった。作成したレポートをもとに文化祭でプレゼンテーションや劇等を披露し、アンケートの内容からもふるさと長崎に対して以前にも増して誇りと愛情を感じ

じていることがわかった。次年度に向けて県外の学校へ発信できることも大きな成果であった。

- ・長崎市中心部から遠いところに住む子どもたちにとって、長崎の歴史や文化はあまり身近なものではなかったので、「長崎の宝」学習に取り組んだ。「くんち」や「カステラ」など様々なテーマで事前学習を行っていたので、ある程度理解はできていた。歴史文化博物館や様々な場所に行き、見学したり、職員やガイドの方から説明を受けたりすることで、さらに理解が深まったようだ。これから、自分の住む地域と比較する活動を通して、共にすばらしいものであることに気づかせたい。
- ・4年間の郷土、特に居留地に関する学習をしてきた児童にとって、この見学ができたことは、明治日本の近代化を支えた場所、人、ものについて再確認したり見聞を広めたりすることができ、長崎のよさ、郷土のすばらしさを体感し、誇りに思うことができる活動になった。

#### ○考察

アンケートの結果から本事業は、児童生徒の歴史への関心を高め、長崎の歴史や文化、当時の人々の暮らしや働きなど、多くの「長崎の宝」を発見するために役立つ事業であることがわかる。実際に現地を訪問したり、博物館の展示物を見たりしながら、博物館やガイドの方の説明を聞くことで、児童生徒の学びが深まり感受性も高まっていることがわかる。

また、引率した多くの教職員も、本事業は、教室や学校の図書室、PC室では学んだり感じたりすることができないような「深い学び」を子どもたちに与え、ふるさと長崎に対する愛情と誇りを高めることができるものであることを実感しており、大変有意義な学習であると認識している。

## 6. 最後に

○長崎市の広報誌に田上市長の「ほっとトーク」というコラムが掲載されているが、その中で「西の長崎 東の佐倉」という言葉が紹介されていた。佐倉とは、現在の千葉県佐倉市のことで、江戸時代の終盤、長崎と佐倉が蘭学の先進地であったことを示す言葉である。佐倉市が蘭学の先進地となったのは、長崎で蘭学を学んだ佐藤泰然が、佐倉藩主に招かれて佐倉順天堂を開設し、当時の多くの人たちがここで西洋医学を学び、実際に治療も施していた場所であり、佐倉は、当時の東日本における、まさに西洋医学のメッカであった。

このように、長崎は、世界文化遺産に登録された明治日本の産業革命遺産や、世界遺産登録を目指している潜伏キリシタン関連遺産があるだけでなく、外国に開かれた窓口として、多くの人々が西洋の科学や文化を学び（発見し）、日本各地に広めた（発信した）場所でもある。そうした長崎であるからこそ、実際にその場を訪れ、長崎の歴史のすばらしさや、当時の人々の思いを発見し、それを発信する学習をすることはとても意義深いものである。

この「長崎の宝」事業を活用した子どもたちに、このようなよい変容が見られるのも、長崎歴史文化博物館や長崎学研究所の職員の方々や、ガイドの方々に協力していただいているからこそである。協力していただいている皆様に、改めて感謝の気持ちを述べ、「長崎の宝」事業の報告を終わりたい。

# 小学校からみた博物館との連携について

佐世保市立日野小学校 教諭 田中 英明

小学生にとっての博物館とは、周りの大人が積極的に関わらなければ、全く知らないところという子どもがほとんどである。また、博物館というものを認識していても、難しい勉強するところ、古い物が置いてあるところといったものであろう。

小学校では、授業の中や見学活動で様々な具体物やゲストティーチャーと出会う。そうすることで教科書のみ、教室でのみの学習よりも深まった学習となる。博物館との出会いもその一つであると考え。博物館には価値のある本物の資料と博物館の学芸員のあふれる本物の知識がある。そのような博物館と連携し、小学校の学習に取り入れることに価値があることは間違いない。

小学校と博物館の連携は、様々な方法でできる。

博物館の近郊の学校であれば、実際に博物館を訪れ見学をすることが可能である。調べ学習の場として存分に利用できる。歴史の学習をしている6年生にとっては、何よりも充実したものとなるだろう。3年生であれば、社会科の学習の昔のくらしなどの単元で地域のお祭りや宝物などについて学ぶことができる。また、総合的な学習の時間では、各学校のそれぞれの学年の内容に応じて利用できる。それ以外でも、さまざまな学習と関連して利用することができる。

ただ、長崎県内の他の郡市の学校や長崎市内でも博物館を訪れることが難しい学校も多い。そのような学校も、博物館が行っているアウトリーチ活動によって連携し、多くの学びの機会を得ることができる。つまり、学校に居ながらにして、本物の資料に触れる機会や専門家の話を聞く機会を提供していただけるということである。

移動博物館は、学校の体育館などで博物館から持ち込んでいただいた資料や体験キットを展示、解説していただく活動である。6年生への展示解説が主になることが多いが、昼休みなどに1年生から5年生までの児童にも見学の機会を設けられる。低学年でも手に触れて楽しめる体験キットもあり、小さい頃から自然と関わることで博物館への親近感を持つことができる。毎年実施していただくことによって、5年生の歴史学習への期待も感じることができる。

出張授業に関しては、学校側のリクエストに応じて内容を考えて実施してくれる。出島パズルなどのゲーム的な要素も取り入れ、楽しく活動しながら学習することができる上に、その中に専門家としての目線で話をしていただくことで、さらに深い学びとなる。子どもたちの反応によって柔軟に対応してくれるため、子どもたちの意欲が切れることはない。

また、貸出教材を利用して学びを深めることもできる。博物館の韓国や中国の学習セットを借りることができ、社会科や総合的な学習の時間の国際理解の授業で、文章だけでは伝わらない文化などについて貴重な体験的な学習をすることができる。

このようなアウトリーチ活動を複数回、複合的に利用することでさらなる学習効果を得ることもできる。

本校は佐世保市にあるが、6年生は修学旅行で長崎市を訪れる。その学習の計画の中に博物館との連携を取り入れている。

具体的には、まず移動博物館を実施する。子どもたちは日本の歴史の中で長崎の地が大きく関わっていることに驚き、興味をもつ。その後、各自長崎の歴史について学習したあと、出張授業を行う。さらに長崎に関する学習が深まるのはもちろんだが、学芸員のお勧めの場所などの話もしていただき、長崎市内での自主研修時のコースを決める上での参考とする。修学旅行当日は、実際に博物館を訪れる。自主研修の目的ごとのグループに分かれ、学芸員などのスタッフによる常設展の展示、

解説をしていただく。そうすることで自主研修での学習が、さらに深まることになる。

小学生のうちに博物館と出会うことは、子どもたちにとって今後の学びの大きな種まきの一つになるものと思う。博物館との連携のおかげで子どもたちの学びが充実したものになっているのは間違いない。その上に子どもたちを育てていく私たち小学校教員にとっても、素晴らしい学びの機会となっている。

連携をすることで恩恵を受けているのは小学校側だけなのかもしれないが、これからも小学校と博物館のよりよい関係を構築し、連携を深めていきたい。

# 中学校から見た博物館との連携について

諫早市立真城中学校 教諭 梅崎小百合

## 1 博物館との出会い

「もっと歴史を身近に感じることができるような授業は作れないだろうか…」

中学校の歴史教科書を開くと長崎県と関わりの深い記述や写真が数多く登場する。県外出身者の私にとって「歴史の宝庫」のように思える長崎県。しかし、生徒たちは、教科書に出てくるできごととは遠い昔のことで自分とは関係ないと思っている。

そんな時に、博学連携協働事業「協力校・パートナーズプログラム」を知ったのである。

## 2 博物館との連携の壁

博物館と連携できれば、生徒の興味・関心を引き出せる授業ができるに違いないと考えはするものの、地理的条件（博物館と学校との距離）、予算、授業時間の確保、打ち合わせや準備の煩雑さ等の問題が立ちはだかり、断念してしまうことが多いのではないだろうか。

そんな不安を抱きつつ選択したのが「出張授業」であった。第1の理由は、予算の壁や地理的条件の壁を克服することができるからである。予算に関しては、交通費、講師費等は一切かからず、無料で来ていただける。地理的条件に関しては、学校に出向いてくださるため、授業時間の確保も容易である。

では、授業準備についてはどうか。

## 3 連携の実際

まず、最初に、①「事前打ち合わせ」で授業のねらいや期待する効果について意思疎通を図っておく。次に、打ち合わせをもとに博物館側が作成した②「授業案」を検討。内容が決まったところで、③「講師派遣依頼状」を博物館に発送。そして、いよいよ④「出張授業」当日を迎える。

①・②に関しては、パートナーズプログラムの研修会を通じて、学校の実情をよくわかっていただいているため、教師側が負担を感じることなく、要望通りに博物館研究員の方が進めてくださる。④の授業当日は、1時間ほど実物教材等の準備と簡単な打ち合わせを行った後、授業開始となる。

教師の役割は、生徒の動きの指示を出す程度で、主な授業の進行は博物館にお任せしている。専門的な話であっても生徒の興味が湧くようにクイズや実物資料、博物館が所蔵する史料を交えて、わかりやすく解説してくださる。教師にとっても資料活用について、新たな発見があることは、出張授業の魅力で、毎回刺激を受けている。

必ず、要望していることは生徒が住んでいる地域、私たちが生きている現代とのつながりに触れてほしいという点である。反省点はパートナーズプログラムの研修会で共有化できるので、次年度はさらに改善されていく。

打ち合わせや準備に対して教師が抱く大変だというイメージも実際にやってみると杞憂に過ぎなかった。

## 4 連携の効果

生徒の感想を一部紹介する。

「いつも教科書でしか見られない物を実際に見ることができて面白かった。また授業を受けたい。」  
「今日の内容をもっと詳しく知りたい。」「出島に行ったことがあるけど、もう一度行ってみたい。」  
「長崎は重要な場所であることがよくわかった。長崎ってすごい。」

以上のことより、実物教材に直接触れることで、教科書の内容が目の前に広がり、歴史を身近に感じられ、自分の住む故郷に誇りを持てる授業が展開できたと考えられる。

さらに小学校と中学校で継続して出張授業を受けた生徒達は「展示物は以前見たものもあったが、小学校の時よりも授業がよくわかった。」という感想を述べていた。小学生の時は理解できなかった内容が、中学生になって理解できるようになり、さらに学習が深まっている様子がうかがえた。

博物館との連携は、生徒にとっても教師にとっても大きな刺激となる。今後も、博物館の高度な専門的知識を活用することで、生徒に歴史を身近に感じさせ、知的好奇心を掻き立てる授業作りを実践していきたい。

# 特別支援学校からみた長崎歴史文化博物館との連携について ～移動博物館を通して見た連携について～

長崎県立佐世保特別支援学校高等部上五島分教室  
主幹教諭 河村 徳明

## 1 はじめに

長崎県内の特別支援学校は、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱教育を行う学校がある。特別支援学校の教育課程は、幼、小、中、高校の教育に準ずる教育課程(以下準ずる教育課程)、下学年代替え教育課程、知的障害のある児童・生徒を教育する教育課程、自立活動を中心に行う教育課程に概ね分かれ教育を行っている。

長崎県立佐世保特別支援学校高等部上五島分教室(以下上五島分教室)は2013年に長崎県立上五島高等学校内に開設された。上五島分教室は、知的障害のある生徒への教育を行っている。

## 2 移動博物館について

### (1) 移動博物館に取り組む経緯

新上五島町には教会が多く、生徒たちは日頃から目にしている。そこで、キリスト教と貿易から新上五島町との関連を知ることで、自分たちの生活との関りについて考えるきっかけがつかめるのではないかと考えた。

長崎歴史文化博物館と移動博物館との規模の違いはあるが、博物館を見学するときのマナーや見学する際の視点を学んだり、体験したりすることで公共施設を利用することに関心を高めることができるのではないかと考えた。

### (2) 生徒の様子

①展示物についての解説を聞いたり体験活動をしたりすることで、興味深く、楽しく取り組むことができた。

生徒は自由見学の時間に、長崎歴史文化博物館の学芸員にわからないことを質問して理解しようとする者、体験できるものに次々に取り組む者、展示されている肖像画を見ながら絵を描く者など、思い思いの楽しみ方で活動した。

<生徒の感想>

「眼鏡橋をつくることやパズルをすることができて楽しみながら勉強になった」

「いろんな香りが入ったピンの香りがきつかった」

「刀を触ることができてうれしかった」

「今までこのような体験をしたことがなかったのでとても楽しかった」

このように、生徒にとって、体験することは印象に残り、新たな発見をしたことで楽しめたように思える。

②キリスト教や南蛮貿易から、新上五島町との関連がわかりづらく、歴史や文化から自分たちの生活との関連を知ることは難しかった。

その要因として

○移動博物館の事前、事後学習の時間を十分にとれなかった。

○移動博物館での新上五島町の文化との関連を具体的に示せなかった。

○事前学習でキリスト教と貿易の2つを取り扱ったが、学ぶ視点が絞れなかった。

### (3) 移動博物館を実施する効果

移動博物館を行って、生徒の様子などからその実施する効果について次のようなことが考えられるのではないかと考える。

- ・ 離島でも博物館を見ることができる
- ・ 他の人がいないので、自分たちの活動時間が十分とれる。
- ・ 博物館の資料や展示物を間近に見ることができ、体験する時間も十分とれる。
- ・ 学習内容にあったものを展示できる。



- ・工夫することで、短い時間で活動内容を深めることができる。

### 3 特別支援学校からみた長崎歴史文化博物館との連携について

特別支援学校と言っても、学校によって障害が違い、また児童・生徒の実態は一人一人異なる。

ここでいう連携については、私が現在勤務する五島分教室と以前勤務したことがある学校(長崎歴史文化博物館を利用した学校)でのことをもとに考えられることを述べることにする。

#### (1) 移動博物館からみた連携

##### ①公共施設の利用の仕方を学ぶことについて

公共施設を利用するマナーについて学習するために移動博物館を利用することが考えられる。特別支援学校は、校外学習、修学旅行で公共施設を見学することも多く、その事前に移動博物館で利用の仕方、マナーについて学習することは有効だと考える。

##### ②地理的な問題について

長崎市から遠い学校にとっては、博物館に展示してあるものを見ることができるとは大きい。特別支援学校の児童・生徒の中には、人との関わりが苦手であり、公共交通機関を利用することに抵抗がある者もいるので、そのような児童・生徒の場合は、移動博物館があると学習しやすい。

##### ③移動博物館では、より実物に近いものがあり、イメージしやすい

特別支援学校の生徒は、想像したりイメージしたりすることが苦手な生徒が多い。より実物に近いものがあると理解しやすい。

##### ④体験できるものがあるとより効果的である

伝統文化を学習する場合、知識を理解するだけでなく、体験することと併せて取り組むことで、理解が深まる傾向にあると考える。特別支援学校の児童・生徒にとって、楽しみながら学ぶことはとても重要なことである。

#### (2) 長崎歴史文化博物館での活動のときの連携

長崎歴史文化博物館での活動についても、移動博物館からみた連携と同じことは言えるが、その他に次のようなことがあると取り組みやすいのではないかと考える。

##### ①展示物を見るポイントを明確にする

言葉で解説するときは、ポイントをはっきりわかりやすく言ったり示したりすることは大切である。しかし、現実的には展示物の前に掲示するのは無理があるので、見るポイントを示した案内図、リーフレットなどを作成し配付すると良いと思う。

##### ②楽しみながら取り組めるイベント

例えば、スタンプラリーなどゲーム感覚で取り組むことで、楽しみながら学習するのもよい方法ではないかと考える。しかし、ゲームだけに取り組むことがないような工夫が必要である。

##### ③車いすで見学する優先スペースを設ける

車いすを利用する生徒の場合、私たちよりも視線が低いので高めの展示物や人が多い時には見えなくなるなど考えられる。車いすの人がいた場合に、設定するなど良いのではないかと考えられる。

これらのことから、学校での学習計画をしっかりと行い、博物館の職員と打ち合わせを行うことでより良い学習効果が期待できると考える。

# 博学連携の道のりを振り返る

長崎市立川原小学校 教諭 加藤 尊城

## 1 はじめに

本稿の依頼を受け、当初は幾分の戸惑いを覚えました。その理由は、私以上の執筆適任者が多数おられるからです。その方々とは、パートナーズプログラムが立ち上げられた草創期の先輩方です。当初は数名の教師の参加によってスタートした試みであったと伝え聞いております。今日の発展を見る時、草創期の先輩方にごそ本稿を記す知見が備わっていることは言を俟ちません。途中でこのプログラムに名を連ねた私は、今回の執筆に関して明らかに役者不足です。しかし、多年にわたってお世話になってきた博物館からの依頼を受け、筆を執ることとなりました。

そういった訳で、草創期の博物館側・学校側関係者諸兄に敬意と感謝を込めて本稿を書き進めたことを、まずもってここに記しておきたいと思います。

## 2 パートナーズプログラムによって拓かれた地平

「博学連携」という構想を初めに打ち出したのは誰でしょうか。寡聞にして知りませんが、その発想に感嘆しています。博物館と学校…互いに学問、学芸に関わる機関でありながら閉鎖性を指摘されやすい、という特性も似ています。(小学校においては、「生活科」や「総合的な学習」が導入された頃に「より開かれた学校作り」が強調されたと記憶しています。) 似た特性を有した2つの機関をつなぐことで、それぞれの持ち味が活用され使命の達成度が向上すると同時に抱えて来た閉鎖性を打ち破る、という一石二鳥の効果が生まれたと思います。

具体的個々の事例については、本誌に掲載されている豊富にして良質な実践に譲ります。個人的にも、今年度、歴文が備え整えている各種学習支援プログラムと長崎市が旗を振る『長崎の宝』発見・発信学習推進事業』を組み合わせることで、出前授業3回と校外学習5回(内2回は歴文訪問を含む。)を実施することができました。これらの実践に共通する点は、

「本物の『人・もの・こと』と子どもたちが接し向き合う」

ということではないかと考えています。学校がもつ空間と人材、設備、方法だけでは実現できない良質にして効果的な学習が実現しています。

そして同時にこのような事実にも気付きました。

どの実践報告を見ても、そこに彷彿と浮かび上がってくるのは学習者、授業者、支援者の生き生きとした表情、声、学びです。そう、博学連携の最たる特長は

「その学びに関わる全員が学ぶ」

という点にあるのかも知れません。学習者である子どもだけでなく、その授業のプランナーたる教師、そのプランを補完し実践効果を高める博物館スタッフも学びを積み重ねています。実践を通じて三者がそれぞれに「未知」を啓き、そこに新たなる学びの「道」が拓かれていくのです。そして、その作業のどの段階もが「手作り」であるということまでが三者に通じている点に、本稿を書いていて改めて気付かされました。

特に授業者の学びについては、パートナーズ研修会での情報交換が大きな推進力として働いています。校外学習本体のみならずその前後、準備段階やまとめ段階においてどのような手法、技術、要領があるのかといった引き出しも増えていきました。

自身の実践で説明すると、今年度実施した校外学習が好例でしょう。5回の学習について、年度当初のウェビングによって絞り込まれた「海外貿易」「中国」「学問」「グラバー」「キリスト教」といったキーワードをテーマとして設定して進めてきました。

その際の見学地の選定や移動順路、それぞれの場での対応の工夫などあらゆる点に関して、私の導きとなったのが深堀昭三先生、田中英明先生の実践でした。

そして、そういった先生方の実践に参加した博物館スタッフの経験による助言も大きな支えとなりました。試行錯誤は時間を要し、スケジュールがタイトになることもしばしばです。出前授業のお願いも時期的に切羽詰まってしまうことが再三でした。しかし、博物館スタッフの皆さんはそのような無理な申し出にも応えてくださいました。平たく言えば、「無茶ぶり」です。恥を忍んでお願いしますが、そんな無茶にも誠心誠意応えてくださったのでした。これを「パートナーシップ」という一言で済ませる訳には参りません。志なくして為せることではないように思います。

そう考えると、パートナーズプログラムは強く堅い「同志愛」で支えられてきたように思います。一方で、連結と実践は強く堅いのですが毎回の取組や運営はゆるく穏やか、という非常に不思議な研修会でもありました。この独特な空気も、パートナーズが今日まで継続し発展してきた原動力、良さだと思っています。

### 3 これからのパートナーズプログラムのために

縷々述べて参りましたが、どのような取組にも課題は発生します。パートナーズプログラムにおいても、その点は例外ではありません。簡潔に挙げてみたいと思います。

一つ目に、長崎歴史文化博物館がカバーしている年代やエリアが狭い、ということです。深堀の縄文時代遺物遺構、佐世保の豆粒文土器、対馬の九州本土産黒曜石などを思い浮かべた時、「古い時代から近代に至る連続的な歴史を押さえる形になっていない」ことや「エリアが長崎市中心部付近に固まっていて市や県を俯瞰するような広範な押さえには遠い」といった特徴を認めないわけにはいきません。このため博学連携の幅が狭められている点は大きな克服課題です。

学校教育での歴史は通史的な取扱いとなっていますから、それぞれの時代に対応できる史料の整備が望まれるところです。

二つ目に、パートナーズプログラム参加者が増えてきているとはいえ数的には伸びが鈍い、ということです。この原因の一つが「参加特典の薄さ」にあるのかも知れません。先述した「無茶ぶり」にも応えてもらえる点など授業を支える様々なシステムはありがたいのですが、それ以外で「パートナーズプログラムに参加しないと損だよね!」というインパクトある特典、卑俗な言い方をすれば「うまみ」が思い浮かびません。例えば、「パートナーズプログラム参加者並びに参加者引率の学習団体は常設展、企画展共に完全無料」とか「パートナーズ活用校外学習なら市内各見学施設は一切減免」「パートナーズ活用校外学習なら一般公共交通機関運賃は一切免除」などといった思い切った支援の増強が効果的ではないかと考えます。(教育行政との連携は必須です。)

また、学術的保存と教育的活用という二足のわらじが時に矛盾背反するため、資料の貸出や活用が思うに任せないという場面もしばしばです。レプリカを増やしてもっと子どもの五感に委ねるこ

とができるような仕組みを作り上げることも必要だと思います。

三つ目に、第2項とは逆に出前授業、出張博物館、遠隔授業といったニーズは広がっています。小中高校、一般校から特別支援学校、近隣校から離島校など活用を希望する校種も多種多様です。部外者として冷静に見ていると、やはり「マンパワーの不足」は明白です。

博学連携の実を挙げ「生涯学習を支える知の殿堂」としての地位を固め、博物館が憩いと文化教養の府であるとの一般市民の総意を形成していくことを真に願うならば、義務教育段階からのインプリンティング＝「刷り込み」は極めて有効です。あらゆるニーズに対応して底辺を広げていくためにも、対応スタッフの人員拡充と人材育成は避けられない課題だと考えます。

#### 4 おしまいに

思いつくままを記してみました。事実との相違、意味や意義の誤認なども含まれているとは思いますが、私の位置から見た場合の一認識であるという程度に呼んでいただければ幸いです。最初にも申し上げたとおり、博学連携、パートナーズプログラムの今日があるのは草創期の取組あればこそです。今後もこの意義ある試みがさらに発展成熟していくことを願ってやみません。

何よりも「未来の知性＝子どもたちの学び」がより大きく拓かれることを願いつつ筆を置かせていただきます。



## 5. 參考資料

---

# 平成 29 年度長崎歴史文化博物館パートナーズプログラム 実施概要

## 1. 目的

長崎歴史文化博物館の展示や教材等を使った効果的な学習方法について、当館研究員と小中高等学校の教員が協働で検討する研修会を通して、学習効果の高い授業実践の実現を目指します。また、本プログラムの活用を通し、長崎の歴史文化に対する理解を深めてもらうことを目的とします。

## 2. 対象

県内の小・中・高等学校、特別支援学校の教員

## 3. 活動期間

2017年6月10日（土）～2018年3月31日（土）

説明会を下記の通り行います。説明会にご参加いただいてから、お申込みいただいても結構です。

日時：6月10日（土）13：30～17：00 場所：長崎歴史文化博物館会議室

## 4. 活動内容

### (1) 研修会への参加（年6回程度）

展示の見学や当館研究員との意見交換を通じて博物館を使った授業案や学習方法について検討します。（\*研修会は可能な範囲でご参加いただければ結構です。）

### (2) 授業の実践もしくは授業案の検討

当館（展示、学校向けプログラムなど）を活用した授業を実践していただきます。

### (3) 実践報告会への参加（2月下旬予定）

1年間の活動実践の報告と意見交換を行います。

## 5. 参加特典

(1) 学校行事の一環として利用する場合は、常設展と当館主催の企画展の観覧料が引率教員、児童・生徒ともに無料になります。見学の下見も無料です。

(2) メンバーズカードのご提示により、常設展・当館主催の企画展を無料でご覧いただけます。

※(1)(2)ともにジブリの大博覧会展、チームラボアイランド展は除きます。

(3) 各種学校向けプログラムを優先的にご利用いただけます。

(4) 公式ガイドブックを進呈いたします。※パートナーズ新規参加者に限ります。

(5) 当館主催の企画展図録を進呈いたします。※企画展によっては、図録をお渡しできない場合もあります。

## 6. 申込み方法

別紙申込み用紙に必要事項をご記入の上、5月31日（水）までに長崎歴史文化博物館学芸グループ宛にファックスもしくは郵送、メールでお送りください。

## 7. 問い合わせ先

長崎歴史文化博物館 学芸グループ（教育担当）

TEL 095-818-8366 / FAX 095-818-8407 /

# 長崎歴史文化博物館 出張授業 実施要項

長崎歴史文化博物館では職員を県内の学校に派遣し、当館の見学に伴う事前事後学習や、来館が困難な学校に対する学習の機会を提供する出張授業を実施しています。

## 1. 内容

授業のテーマや目的にあわせて、博物館で作成した教材（複製資料、学習素材など）を使って、教育担当者が授業をおこないます。テーマは先生方との打ち合わせに基づき、決定します。なお先生方には子どもたちの発言を拾ったり、板書などの支援をお願いしています。

## 2. 対象

長崎県内の小中学校、高等学校、特別支援学校等の学校施設

## 3. 対応人数

クラス単位（40名程度）

\*人数が多い場合には、複数回に分けて実施いたします。

## 4. 実施時間

授業1時間分(45分～50分)から実施いたします。

## 5. 講師料

交通費を含めて無料です。館用車で伺いますので、駐車場の確保をお願いいたします。

## 6. 実施までの流れ

- ①希望日の2ヶ月前までに、教育普及グループまでお電話にてご連絡ください。  
\*事業スケジュールの都合でお受け出来ない場合もありますので、お申し込み時にご確認ください。
- ②授業のテーマや目的について教育担当者と打ち合わせを行っていただきます。
- ③日程やテーマが決まりましたら、「出張授業」申込書を郵送でご提出ください。
- ④実施後のアンケートへのご協力もお願いいたします。

## 7. 問い合わせ先

長崎歴史文化博物館 学芸グループ

〒850-0007 長崎市立山1-1-1

TEL 095-818-8366 / FAX 095-818-8407

<http://www.nmhc.jp/>



# 平成29年度長崎歴史文化博物館 移動博物館 実施概要

長崎歴史文化博物館の展示や活動について県民市民のみなさまに広く知っていただくとともに、長崎の歴史文化に対する興味関心を深めてもらうことを目的に移動博物館を実施します。特に、遠隔地やその他の理由により来館が困難な方々を対象に行っています。

## 1. 内容

複製資料や体験キット・写真パネルなどを使った移動展示を行います。当館研究員による展示解説や体験講座もできます。

## 2. 対象

県内の小中学校、公民館、福祉施設等

## 3. 実施期間

2017年5月～2018年3月

\*事業スケジュールの都合でお受け出来ない場合もあります。申込時にご確認ください。

## 4. 開催日当日のスケジュール

会場設営 約2時間  
開催時間 約2時間～3時間（延長可能）  
撤収 約1時間

※ただし遠隔地の場合は、個別にご相談させていただきます。

## 5. その他

移動博物館の実施に係る費用（旅費、運搬費等）はすべて博物館が負担します。ただし体験プログラムによっては、参加費を徴収させていただく場合もあります。

展示用什器（長机、椅子、パネル）などは申請者に提供させていただきます。

## 6. 実施までの流れ

- ①希望日の2ヶ月前までに、教育普及グループまでお電話にてご連絡いただき、希望される日時、場所、内容などをお伝えください。
- ②実施日・内容が決まりましたら、「移動博物館」申込書を郵送でご提出ください。
- ③実施後のアンケートへのご協力もお願いいたします。

## 7. 問い合わせ先

長崎歴史文化博物館 学芸グループ

〒850-0007 長崎市立山1-1-1 TEL:095-818-8366 / FAX:095-818-8407

## 移動博物館の様子



体育館での実施



多目的室での実施



教室での実施

## 主な展示品

### 【南蛮貿易とキリスト教】



南蛮人來朝之図

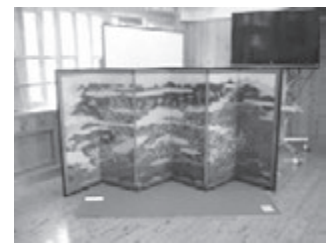


踏絵図と踏絵

### 【長崎貿易】



長崎港之図

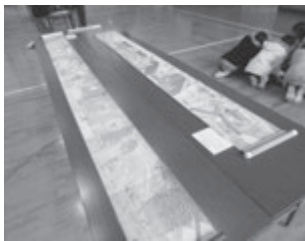


寛文長崎図屏風

### 【オランダ・中国との交流】



出島・唐人屋敷のくらしのようす



貿易品の体験



解体新書



眼鏡橋組み立て体験



出島・唐人屋敷パズル



貿易品の体験



長崎の年中行事

### 【幕末・明治時代】



浮世絵



ペリー・黒船



カメラ



横浜絵

# 長崎歴史文化博物館 収蔵品画像の利用について(学校団体向け)

長崎歴史文化博物館では、小中学校における学習支援を目的に、収蔵資料の画像提供サービスを行っております。資料の画像を学校の授業で利用される方は、以下の要領でお申込ください。

(授業以外での利用をご希望の際は、通常の「画像利用申請」になりますのでご注意ください。)

## 1. 利用できる団体

小学校・中学校での教育目的での使用に限る。

## 2. 申請の流れ

### (1) 申請書の提出

画像利用申請書をEメールに添付して、[his-info@nmhc.jp](mailto:his-info@nmhc.jp)までお送りください。

- ・当館より提供できる学校団体向けの画像データは、当館ホームページに掲載している学校向け画像一覧で公開されているものに限られます。
- ・申請書を受付後、画像データの送付まで手続きにしばらく時間がかかりますので、余裕を持って申請をお願いいたします。
- ・必要書類に不備がある場合、許可が下りないことがありますのでご注意ください。

### (2) 審査

画像の利用にあたっては、次の内容をお守りいただくようお願いいたします。

- ①学校での教育目的以外では使用しないこと。  
学術・出版・テレビ放送・商業利用などでご使用の場合は、通常の画像利用申請からご申請ください。
- ②当該画像を複製し、第三者に譲渡しないこと
- ③利用は申請時の利用目的に限ります。利用目的が申請時の内容と変更になる時は、速やかに博物館に申請すること。
- ④画像を改変しないこと。
- ⑤利用時には資料名と「長崎歴史文化博物館収蔵」のクレジットを明記すること。
- ⑥その他、館長が指示する事項

### (3) 画像データの送付

画像データはEメールにてお送りします。(画像形式はJPEGのみ)

### (4) アンケート用紙の送付

活動の参考にさせていただきたいので、画像と一緒に送付するアンケートにご記入いただき、メールでご返信をお願いいたします。

## 3. 備考

学校向け画像一覧は当館ホームページ (<http://www.nmhc>) をご参照ください。

## 4. 本件に関するお申込・お問い合わせ

長崎歴史文化博物館 学芸グループ

〒850-0007 長崎市立山1-1-1 TEL: 095-818-8366 / FAX: 095-818-8407

小学社会6年上（日本文教出版対応）

○信長・秀吉・家康と天下統一

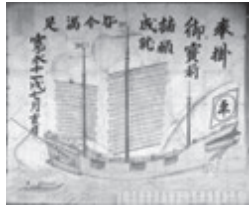


南蛮人来朝之図

○江戸幕府による政治



長崎細見図



清水寺末次船給馬下絵



長崎港俯瞰細密画



長崎港之図



出島図



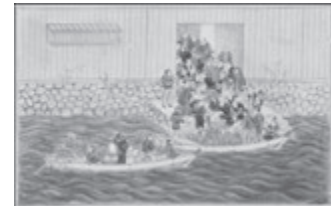
唐蘭館絵巻 商品計量図



唐蘭館絵巻 商品入札図



唐蘭館絵巻 倉前図



唐蘭館絵巻 荷揚水門図



唐蘭館絵巻 荷揚水門内部図



踏絵の図（シーボルト『日本』）



オランダ風説書

○江戸の暮らしと学問



鯨魚鑑笑録



Nippon 2「シーボルト 日本」

○町人文化と新しい学問



解体新書



ドウフ・ハルマ辞書



星座図・天球図



沿海地図（伊能小図）



シーボルト肖像画



医療器具



薬籠

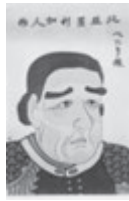


瀉血手術図

○黒船の来航



ペリー



北亜墨利加洪和政治州上官真像之図



肖像写真（坂本龍馬）

○新政府による政治



府県名所図会群馬県上野富岡製糸場



鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図



鉄道馬車往復京橋煉瓦造ヨリ竹河岸図

○大日本帝国憲法と条約改正



大日本帝国憲法発布式場之図



憲法発布上野賑



国会会議之図

○二つの戦争と人々のくらしの変化



絵葉書・（鐵都 八幡名勝）製鐵所中央機關



執筆者一覧

竹内 有理（長崎歴史文化博物館 学芸グループリーダー）

出口 幹子（同 学芸グループ主任研究員）

古豊裕次朗（同 学芸グループ研究員）

松岡めぐみ（同 学芸グループ研究員）

荒木 俊明（長崎市教育委員会学校教育課）

田中 英明（佐世保市立日野小学校教諭）

梅崎小百合（諫早市立真城中学校教諭）

河村 徳明（長崎県立佐世保特別支援学校高等部上五島分教室主幹教諭）

加藤 尊城（長崎市立川原小学校教諭）

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書

－博物館と学校をつなぐ学びの実践－

発行日：2018年3月31日

発行：長崎歴史文化博物館

〒850-0007 長崎市立山1-1-1

Tel 095-818-8366

印刷：株式会社 インテックス



長崎歴史文化博物館  
Nagasaki Museum of History and Culture